

DIGITAL PIANO
P-515

取扱説明書

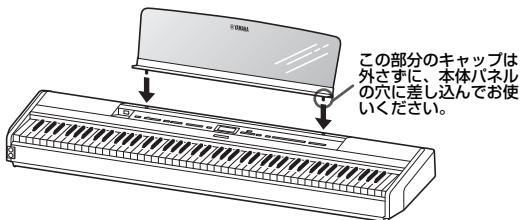
このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この楽器は、高品位な音とタッチで演奏をお楽しみいただける電子ピアノです。
この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、
本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、
いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず4～7ページの
「安全上のご注意」をお読みください。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書) × 1
- クラシック名曲50選(楽譜集) × 1
- 保証書 × 1
- 製品ユーザー登録のご案内 × 1
- 電源コード、電源アダプター × 1
- フットスイッチ × 1
- 譜面立て × 1

譜面立ての取り付け方



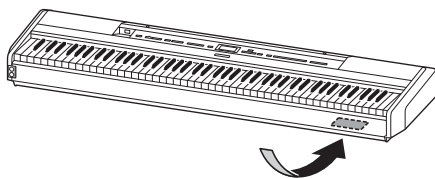
注記

譜面立てを外し、楽器本体の上に置いたまま、長期間放置しないでください。キャップが楽器本体に触れた状態で放置すると、色移りや付着の原因になります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



(bottom_ja_02)

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。

● 準備編

ご使用前の準備について説明しています。簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

● 本編

内蔵曲を再生したり、演奏を録音するなど、練習に役立つ機能について説明しています。

● 詳細設定編

この楽器をさらに便利に使いこなすための細かい設定について説明しています。

● 資料

メッセージ一覧やボイス一覧などの資料を掲載しています。

電子マニュアル(PDF)



スマートデバイス接続マニュアル

スマートフォンやタブレット端末などと接続する方法を説明しています。iOS用とAndroid用がありますので、お使いのデバイスに合わせてご覧ください。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。



データリスト

XGボイス一覧、XGドラムキット一覧のリストを掲載しています。

上記のマニュアルは、ヤマハの下記ウェブサイトからご覧いただけます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

お使いのスマートデバイスに「スマートピアニスト」(無料)をインストールすると、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、譜面を表示したりできます(79ページ)。

目次

付属品(お確かめください)	2
取扱説明書について	2
安全上のご注意	4
注記(ご使用上の注意)	7
お知らせ	7
Bluetooth について	8
対応フォーマット	8
特長	9



準備編 10

各部の名前と機能	10
画面の基本操作	18
音を出してみましょう	12
電源を入れる/切る	12
音量を調節する[MASTER VOLUME](マスターボリューム)....	14
ヘッドフォンを使う	15
ペダル(フットスイッチ)を使う	16
別売のペダルユニットを使う	17

本編 20

いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する	20
ボイスを選んで弾く	20
ボイスの特徴がわかるデモ曲を聞く	22
ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)	23
音に効果をかける	26
2つのボイスを重ねて鳴らす(デュアル)	27
鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)....	28
スプリットとデュアルを同時に使う	29
二人で一緒に弾く(デュオ)	30
キー(調)を変える(トランスポーズ)	32
音の高さを微調整する(マスターチューニング)	33
タッチ感度を変える	34
より音量感のあるサウンドで演奏する(SOUND BOOST)	35
音質を補正する(マスターEQ)	36
パネル操作をロックする	38
メトロノームを使う	39
演奏に伴奏を付ける(リズム)	41
曲(ソング)を再生する、練習する	42
ソングを再生する	43
右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)	46
くり返し再生する	47
音量バランスを調節する	50
再生に関するその他の機能	51
演奏を録音する	52
録音の方法	52
簡単にMIDI録音する	53
トラックを指定してMIDI録音する	55

USBフラッシュメモリーにMIDI録音する	57
USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する	58
そのほかの録音方法とテクニック	59
ソングファイル进行操作する	63
ソングの種類とファイル操作の制限	63
ソングファイルの基本操作	64
ソングを削除する	65
ソングをコピーする	65
ソングを移動する	66
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する	67
ソング名を変更する	68

他の機器と接続する	69
端子について	69
USB機器を接続する([) (USB TO DEVICE) 端子)	71
コンピューターやスマートデバイスと接続する([USB TO HOST] 端子、 [) (USB TO DEVICE) 端子、MIDI 端子) ..	72
外部MIDI機器と接続する(MIDI 端子)	76
コンピューターやスマートデバイスを活用する	77
スマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らす (<i>Bluetooth</i> オーディオ機能)	77
スマートデバイスアプリを使う	79
オーディオデータを送受信する(USBオーディオ インターフェース機能)	80
ステージで演奏する	81

詳細設定編 83

基本操作	83
ボイスメニュー	84
ソングメニュー	88
メトロノーム/リズムメニュー	91
録音メニュー	92
システムメニュー	93

資料 101

ボイス一覧	101
ソング一覧	103
クラシック50選	103
リズム一覧	103
メッセージ一覧	104
困ったときは	107
仕様	109
別売ミュージックデータ紹介	111
ミュージックデータのご使用にあたって	111
索引	112

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

禁止



電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源アダプターは、必ず指定のもの(110ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。

必ず実行



電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

必ず実行

故障、発熱、火災などの原因になります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

必ず実行

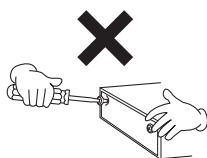
分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止



設置



医療機器の近くで使わない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。電波の使用が制限された区域では使わないでください。

禁止



心臓ペースメーカーの装着部位から15cm以上離して使用する。

本機から発生する電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

必ず実行

水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

禁止



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりません。

禁止

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

必ず実行

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行なう。
この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がかげがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[Ⓛ](スタンバイ / オン) スイッチを切った状態 (電源ランプが消えている) でも微電流が流れています。[Ⓛ](スタンバイ / オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話などの電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone/iPadなどのスマートデバイスのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetooth®をオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- 楽器を壁などに立てかけて置かないでください。楽器が破損するおそれがあります。楽器を置くときは、机の下などに水平にして置か、別売の専用キーボードスタンド(110ページ)をお使いください。

■ 製品のお手入れに関する注意

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「ヤマハ 鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露)することがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(99ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(65ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず71ページをお読みください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家に相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- 本製品には株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- お買い上げの品番の末尾は、「B」「WH」などアルファベットが記載されています。これは、「B」がブラック、「WH」がホワイトなど色の情報を表わしています。この取扱説明書では、品番の末尾のアルファベットは省略しています。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Android™ は Google Inc.の商標です。
- iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Bluetooth® およびロゴはBluetooth SIGの登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。



- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

Bluetoothについて

- Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行なうことができる技術です。

Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行なうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

対応フォーマット

GENERAL MIDI2 GMシステムレベル2

「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張した音源フォーマットです。多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。GMシステムレベル2に対応したMIDI機器では、GMシステムレベル1で作られたミュージックデータも再生できます。

* メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。

XG XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハが提唱する音源フォーマットです。このフォーマットで作られたデータは、広く普及しているXG対応機器やPCソフトウェアで再生することができます。

GS GS

ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。コンピューターと周辺機器を接続するためのシリアルインターフェースです。

特長



さまざまな用途に対応できる、持ち運び可能な本格的電子ピアノ

本格的なピアノ演奏を気軽に楽しめるポータブル電子ピアノです。多くの機能を搭載しながらも、持ち運び可能なデザインなので、ご自宅でご家族と演奏を楽しんだり、ご自身のプライベートルームで練習したり、パーティーやライブで演奏したりと、さまざまなシーンでお楽しみいただけます。本機に合わせてデザインされた別売の専用スタンド (L-515) や 3 本ペダルユニット (LP-1) と組み合わせると、スタイリッシュな電子ピアノとしてもお使いいただけます。



曲のイメージに合わせて選べる「ヤマハ CFX」 と「ベーゼンドルファー インペリアル」音色

▶▶ 20ページ

この楽器には、ヤマハ最高峰のコンサートグランドピアノ「CFX」、繊細で温かみのあるウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社*の「インペリアル」、2つの世界で認められたグランドピアノからサンプリングした音色（ボイス）が搭載されています。曲想に合わせて、お好みのピアノボイスを選び、本格的なピアノ演奏をお楽しみください。

*ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。



グランドピアノの多彩な響きを再現する「バーチャル・レゾナンス・モデリング (VRM)」

▶▶ 25ページ

「VRM」は、グランドピアノの複雑に影響し合う弦や響板などの状態をシミュレートして、リアルに再現し、アコースティックピアノならではの響きを作り出す画期的な技術です。この VRM の効果により、変化に富んだ多彩な響きを得られます。



グランドピアノのタッチに迫る木製鍵盤「ナチュラルウッドエックス (NWX) 鍵盤」

この楽器の白鍵は、本物のグランドピアノと同じむく材を使用し、かつての最高級ピアノに使っていた象牙調鍵盤のような手触りを、黒鍵は、風合いのある黒檀調で、グランドピアノに近い触り心地を再現しています。さらに、打鍵時にハンマーが弦から速やかに離れて、弦の振動を止めないようにする「エスケープメント機構」を採用しているため、より本物のグランドピアノに近いタッチを体感いただけます。



シンプルなリズムとベース音で演奏を華やかに演出

▶▶ 41ページ

この楽器には、よく使われるシンプルなリズムが 40 種類搭載されています。ご自分の演奏に打楽器音とベース音の自動演奏をつけられるので、演奏が華やかになります。お好みのリズムを鳴らしながら、一緒に鍵盤演奏をお楽しみください。

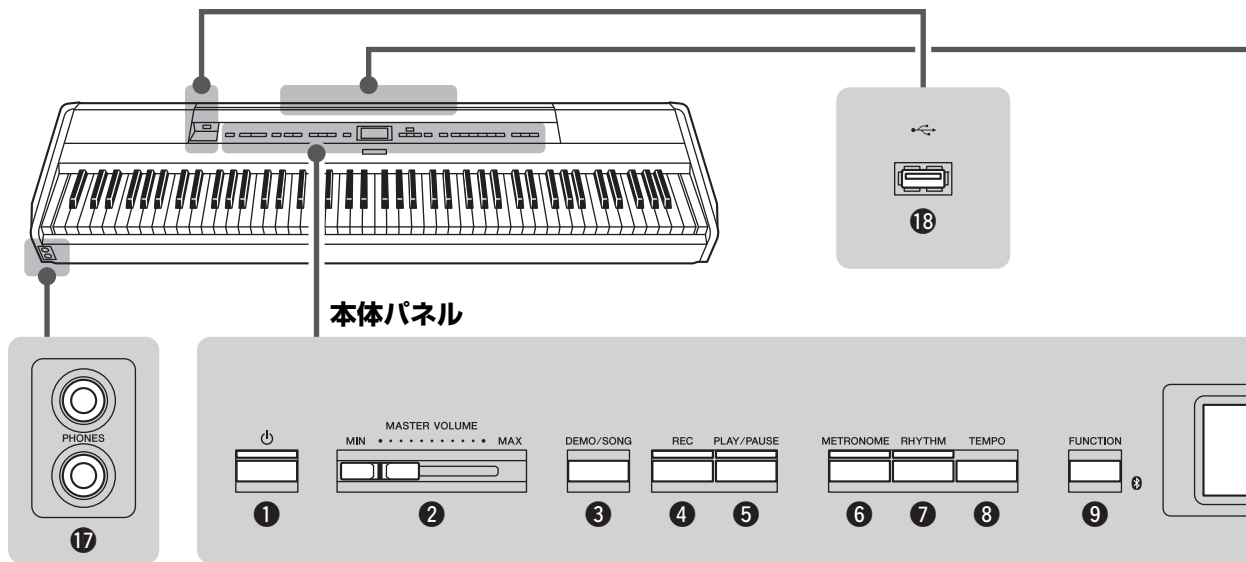


スマートデバイス内のオーディオデータを無線で再生できる Bluetooth オーディオ機能

▶▶ 77ページ

Bluetooth 対応のスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイス内のオーディオデータを、この楽器のスピーカーで再生できます。再生したオーディオデータに合わせて演奏を楽しんだり、楽器をオーディオ機器の代わりにして、音楽鑑賞を楽しんだりすることができます。

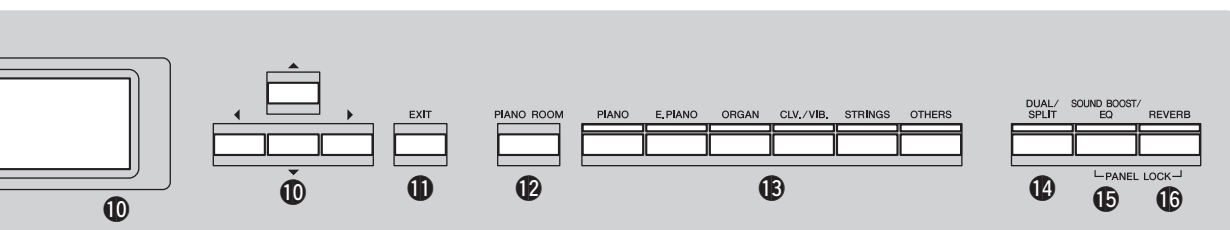
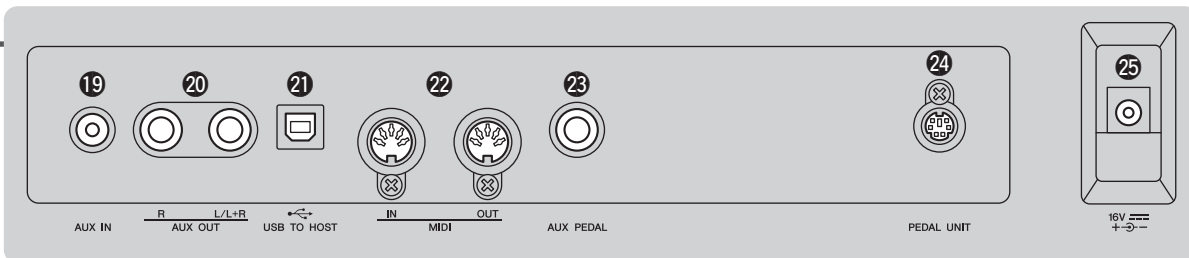
各部の名前と機能



本体パネル

- ① [☺] (スタンバイ/オン)スイッチ 12ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ② [MASTER VOLUME]スライダー 14ページ
マスター ボリューム
楽器全体の音量を調節します。
- ③ [DEMO/SONG]ボタン 22, 42ページ
デモ ソング
ソングリストを表示します。再生する曲などを選ぶときに使います。
- ④ [REC]ボタン 52ページ
レック
演奏を録音します。
- ⑤ [PLAY/PAUSE]ボタン 43ページ
プレイ ポーズ
楽器本体に入っている曲や録音した演奏などを、再生したり、一時停止したりします。
- ⑥ [METRONOME]ボタン 39ページ
メトロノーム
メトロノームを鳴らします。
- ⑦ [RHYTHM]ボタン 41ページ
リズム
リズムを鳴らします。
- ⑧ [TEMPO]ボタン 39ページ
テンポ
テンポを設定します。
- ⑨ [FUNCTION]ボタン 83ページ
ファンクション
押すたびにボイスメニュー、ソングメニュー、メトロノーム/リズムメニュー、録音メニュー、システムメニューの5つの画面が切り替わります。各画面で、関連する機能の詳細な設定ができます。
- ⑩ [Bluetooth] 77ページ
Bluetooth
Bluetoothのロゴマークです。
[FUNCTION]ボタンを使ってBluetooth対応のスマートデバイスを登録(ペアリング)できます。
- ⑪ [EXIT]ボタン 19ページ
エグジット
現在の画面から抜けます。
ボイス画面やソング画面に戻りたいときに使います。
- ⑫ [PIANO ROOM]ボタン 23ページ
ピアノルーム
ピアノルーム画面を表示します。
ピアノの響きやタッチ感度などを変更したいときに使います。

本体背面



13 ボイスボタン 20ページ
ボイス(鍵盤の音色)を選びます。

14 [DUAL/SPLIT] ボタン 27、28、29ページ
デュアル スプリット
ボイスを重ねたり、鍵盤の右側と左側を別々の音色で演奏したりするときに使います。

15 [SOUND BOOST/EQ] ボタン 36、35ページ
サウンドブースト
サウンドブースト設定画面、マスター EQ設定画面を表示します。
楽器の音を際立たせたいとき(サウンドブースト)や、音質を補正したいとき(マスター EQ)に使います。

16 [REVERB] ボタン 26ページ
リバーブ
リバーブ画面を表示します。
音に残響(リバーブ)を加えたいときに使います。

17 [PHONES] 端子 15ページ
フォーンズ
ヘッドフォンを接続します。

18 [] (USB TO DEVICE) 端子 69、71、72ページ
トゥー デバイス
USBフラッシュメモリーやUSB無線LANアダプターを接続します。

本体背面

19 [^{エーユーエックス イン}AUX IN] 端子 69ページ
この端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドホン端子を接続します。

20 AUX OUT [R] [L/L+R] 端子 70ページ
^{アウト}
アンプ内蔵スピーカーなどを接続します。

21 [^{トゥー ホスト}USB TO HOST] 端子 70、72ページ
コンピューターやスマートデバイスを接続します。

22 MIDI [^{イン}IN] [^{アウト}OUT] 端子 70、76ページ
MIDI機器を接続します。

23 [^{ペダル}AUX PEDAL] 端子 16、70ページ
付属のフットスイッチや、別売のフットスイッチ、フットペダルを接続します。

24 [^{ペダル ユニット}PEDAL UNIT] 端子 17ページ
別売のペダルユニットを接続します。

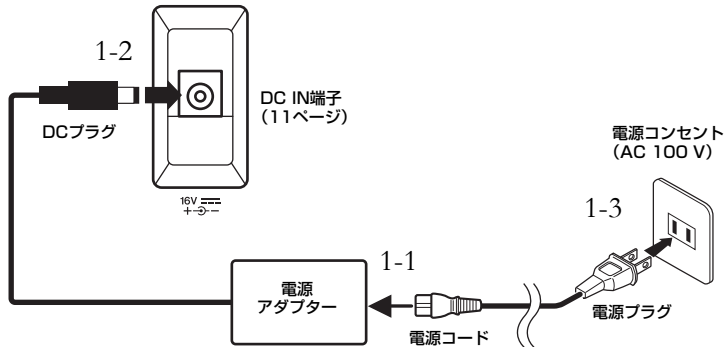
25 DC IN 端子 12ページ
^{ディーシー イン}
付属の電源アダプターを接続します。

音を出してみましょう

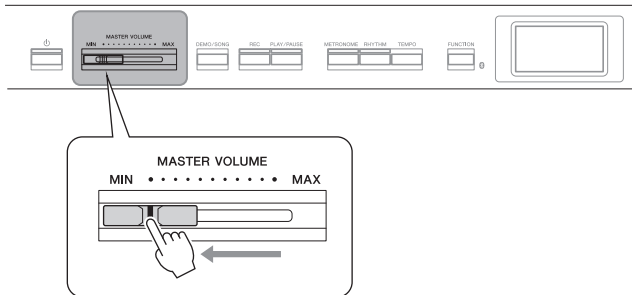
簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

電源を入れる/切る

1. 図の順序で電源アダプター、電源コードを接続します。

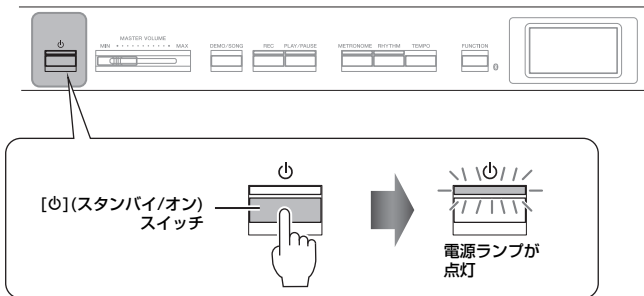


2. [MASTER VOLUME]スライダーで音量を最小(MIN)にします。



3. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れます。

電源ランプが点灯し、起動が完了すると、本体パネル中央の画面にボイス画面が表示されます。



⚠ 注意

本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 警告

電源コード/プラグは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。

⚠ 警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(110ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

NOTE

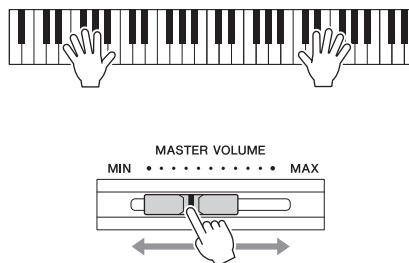
電源コード/電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

注記

- 電源を入れてから、楽器が完全に起動するまで、楽器を操作(鍵盤やボタンを押すなど)しないでください。楽器が誤動作する原因になります。
- 録音中や編集中に電源を切ると、データが失われる場合があります。やむを得ず強制終了したい場合は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを3秒以上押してください。ただし、強制終了すると、Bluetooth機能を使うためのペアリング情報は保存されません(77ページ)。

4. 鍵盤を弾きながら音量を調節します。

鍵盤を弾いて音を出しながら[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節します。詳しくは、「音量を調節する[MASTER VOLUME]」(14ページ)をご覧ください。



5. 楽器を使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒押し続けて電源を切ります。

画面の表示が消え、電源ランプも消灯します。



注意

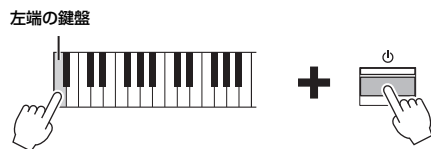
電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(96ページ)。

オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入ると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。

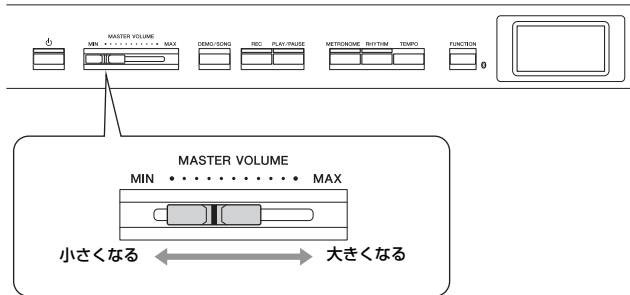


注記

- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。

音量を調節する [MASTER VOLUME](マスターボリューム)

[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER VOLUME=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーを動かすと、[PHONES]端子やAUX OUT端子の出力レベルも変更されます。



注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。

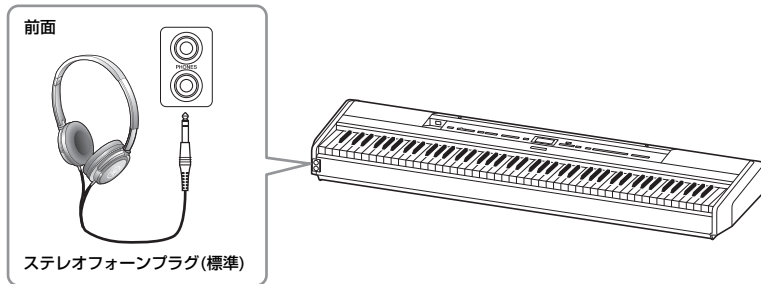
IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

この機能のオン/オフはシステムメニュー画面(94ページ)で設定できます。^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「音響」→「IAC」)で設定してください。初期設定はOn(オン)です。

ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを^{フォーンズ}[PHONES]端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。



ヘッドフォンでも自然な音の広がりを再現する(バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドフォン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

バイノーラルサンプリング(「CFX グランド」のボイスのみ)

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドフォンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。ヘッドフォンの圧迫感も少なく、長時間の演奏でもストレスなくお楽しみいただけます。「CFX グランド」を選んでいるときにヘッドフォンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

ステレオフォニックオプティマイザー(「CFXグランド」以外のピアノグループのボイス)

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドフォン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。「CFX グランド」以外のピアノグループのボイスを選んでいるときにヘッドフォンを接続すると、ステレオフォニックオプティマイザーがかかります。

初期設定では、ヘッドフォンを接続すると、ピアノグループのボイスはバイノーラルサンプリングまたはステレオフォニックオプティマイザーの音に自動的に切り替わります。ただし、ヘッドフォンを接続していると、AUX OUT端子に接続した外部スピーカーから鳴る音や、オーディオ録音(52ページ)するときの音など、ヘッドフォン以外で鳴るピアノボイスにもこの効果がかかり、不自然に聞こえる場合があります。

自動的に効果がかからないようにしたいときは、この機能をオフにしてください。

オン/オフはシステムメニュー画面で切り替えられます。^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「音響」→「バイノーラル」(94ページ)で設定してください。



注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

サンプリングとは

アコースティック楽器の音を録音して電子ピアノに組み込む技術のことです。

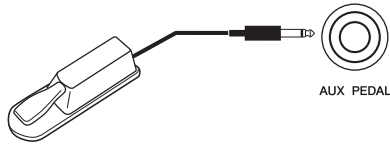
NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(101ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は20ページをご覧ください。

NOTE

外部オーディオ機器などをこの楽器に接続する場合は、必ず「他の機器と接続する」(69ページ)をお読みいただき、機器を正しく接続してください。

ペダル(フットスイッチ)を使う



付属のフットスイッチFC4Aを[AUX PEDAL]端子に接続すると、演奏中に音を足を使ってさまざまな機能のオン/オフを切り替えられます。また、別売のフットペダルFC3A、フットスイッチFC5も接続できます。

機能の設定は、システムメニュー画面の「ペダル」→「Auxペダル」の機能と範囲で行ないます(94ページ)。

ダンパーレゾナンス

ピアノ音色を選んでフットスイッチを踏むと、アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだ際の弦の共振効果をVRM(25ページ)で再現します。

これらの効果はピアノルーム画面でオン/オフを切り替えたり、かかり具合を設定したりできます(23ページ)。

ハーフペダル機能

別売のフットペダルFC3Aやペダルユニット(17ページ)を接続したとき、この機能が使えます。ペダルの踏み加減で音の伸び具合を調節できる機能です。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)は、システムメニュー画面で設定できます。[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「ペダル」→「ハーフペダルの位置」(94ページ)で設定してください。

NOTE

- ・フットスイッチ/フットペダルのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。
- ・フットスイッチ/フットペダルを踏んだまま電源を入れしないでください。フットスイッチ/フットペダルのオン/オフが逆になります。

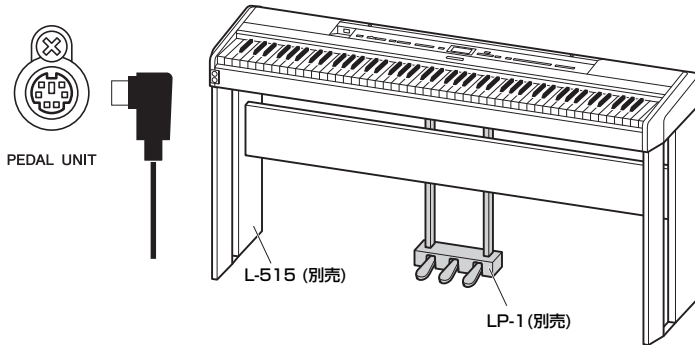
初期設定：サステイン(連続)

NOTE

デュオ(30ページ)がオンのときは、ダンパーレゾナンスは使えません。

別売のペダルユニットを使う

別売のペダルユニットLP-1を[PEDAL UNIT]端子に接続すると、3本ペダルを使って演奏できます。ペダルユニットは、必ず専用スタンドL-515に取り付けてお使いください。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。また、ピアノグループのボイスを選択して踏んだ場合は、VRM (25ページ)の効果によりリアルな共鳴音(レゾナンス)を付加できます。

このペダルは、ハーフペダル(16ページ)に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果がかからないので、和音を長く鳴らしながらメロディーをスタッカートで弾くことができます。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏むと、音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果がかからないので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。

ただし、「ジャズオルガン」ボイスを選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え(ロータリースピード)、「ビブラフォン」ボイスを選ぶとビブラートのオン/オフ(パイプローター)機能に切り替わります(85ページ)。

NOTE

ペダルユニットのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(101ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は20ページをご覧ください。

NOTE

ボイスメニュー画面の「ペダル割り当て」を使って、各ペダルへ別の機能を割り当てることができます(86ページ)。

NOTE

ストリングスグループやオルガングループの一部の持続音では、まん中のペダルを踏むと、音が減衰せずに持続して鳴り続けます。

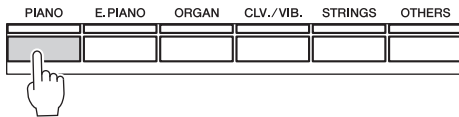
まん中のペダルと左のペダルのスタート/ストップ機能切り替え
システムメニュー画面で設定できます。[FUNCTION]ボタンを何度か押しシステムメニュー画面を選び、「ペダル」→「再生/一時停止」で、まん中のペダルが左のペダルの^{プレイ}ボイスパネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能に切り替えることができます(94ページ)。

画面の基本操作

この楽器は、画面を見ながら主な操作を行ないます。ボイスやソングの選択といった基本操作はもちろん、楽器の詳細設定をして、さらに楽しく便利に楽器を使いこなすことができます。

ボイス画面

1. ボイスボタンを押して、ボイス画面を表示します。



2. ボイスボタンを押すたびに、そのボイスグループ内のボイスが切り替わります。同時に押すと、ボイスグループ内の先頭のボイスが選ばれます。

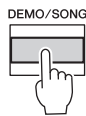
ボイス画面



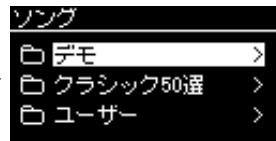
ボイスグループ内のボイスの位置を表示します。

ソング画面

1. [DEMO/SONG] ボタンでソングカテゴリリストを表示します。



2. [^]/[V] ボタンでソングカテゴリを選びます。



[>] ボタンで次へ
[<] ボタンで戻る

詳細設定画面

1. [FUNCTION] ボタンを何度か押して、設定するメニューを選びます。



2. [^]/[V] ボタンでメニュー項目を選びます。



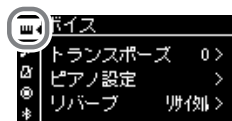
メニュー名

階層の深さはメニューによって異なります。

メニューアイコン

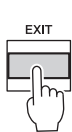
上記の手順 1 に替えて、下記の方法でも設定するメニューを選ぶことができます。

1. [FUNCTION] ボタンを1回押して、詳細設定画面を表示します。
2. [<] ボタンを押してメニューアイコンを反転表示させ、[^]/[V] ボタンで設定するメニューを選びます。



ボイス画面 : 鍵盤を弾いたときに鳴る楽器音を選択する画面です。
ソング画面 : この楽器で再生する曲(ソング)を選択する画面です。
詳細設定画面 : ボイスなどの鍵盤演奏に関する内容やソング再生などの詳細設定を行なう画面です(83ページ)。

ボイス画面/ソング画面に戻る



^{エグジット}
[EXIT] ボタンを押すと、直前に表示していたボイス画面またはソング画面が表示されます。ポップアップ画面が表示されている場合は、**[EXIT]** ボタンを押して、ポップアップ画面を閉じます。

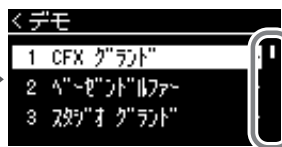
NOTE

楽器の品番がP-515WHの場合、画面の背景色が白に、文字やイラストが黒になります。

3. [Δ]/[▽] ボタンでソングを選びます。

4. [PLAY/PAUSE] ボタンで再生します。

[<]/[>] ボタンで早戻し / 早送りができます。



[>] ボタンで次へ
 [Δ] ボタンで戻る

ソング画面



表示される場合は画面を上下に切り換えることができます。

ポップアップ画面で設定値を調節する場合

3. [<]/[>] ボタンで値を調節し、[EXIT] ボタンを押してポップアップ画面を閉じます。

[<] と [>] ボタンを同時に押すと初期設定に戻せます。

[>] ボタンで次へ
 [EXIT] ボタンで戻る

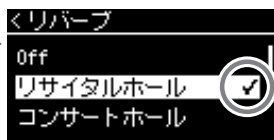


[>] ボタンで次へ
 [<] ボタンで戻る

選択肢から設定を選ぶ場合

3. [Δ]/[▽] ボタンまたは [>] ボタンで設定を選びます。

1つ前の画面に戻るには、[<] ボタンを押します。



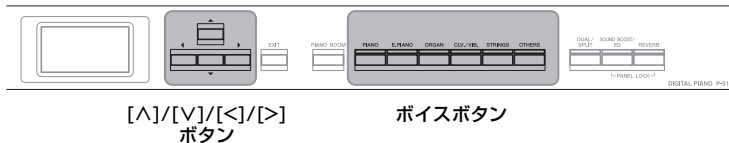
選んだ項目にチェックマークが表示されます。

いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する

ピアノ、オルガンや弦楽器などの楽器音(ボイス)を選んで弾くことができます。

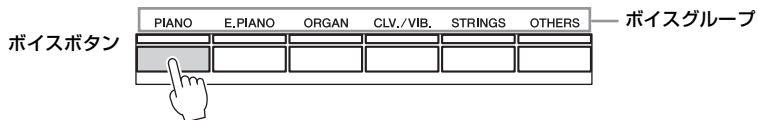
ボイスを選んで弾く

この楽器に内蔵されたたくさんのボイスは、楽器の種類ごとにグループ分けされています。ボイスを選んで演奏してみましょう。
XGボイスの選びかたは、21ページをご覧ください。



1. ボイスボタンを押して、ボイスを選びます。

ボイスボタンを押すたびに、そのボイスグループ内のボイスが切り替わります。



ボイス画面



現在選ばれているボイスのボイス画面が表示されます。

ボイスグループ内のボイスの位置を表示します。

ボイス画面を表示して、[<]/[>]ボタンでボイスを選ぶこともできます。[<]/[>]ボタンを同時に押すと、選んでいるボイスグループの先頭のボイスが選ばれます(101ページ)。

2. 鍵盤を弾いてみましょう。

ボイスの特徴をつかむには

ボイスごとのデモ曲を聞いたり(22ページ)、「ボイス一覧」(101ページ)を参照したりして、各ボイスの特徴を確認してください。

NOTE

この楽器で演奏できるボイスについては、「ボイス一覧」(101ページ)をご覧ください。

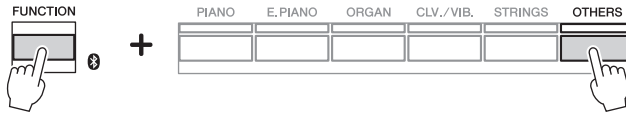
タッチ感度を変更する

鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を設定できます。詳しくは34ページをご覧ください。

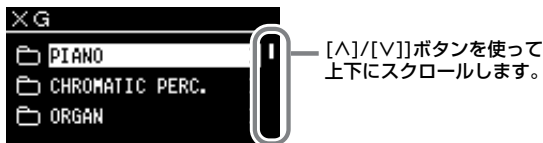
XGボイスを選ぶ

XGボイスとは、XG音源(8ページ)に対応したデータを鳴らすためのボイスです。
ボイス画面を表示させてから、下記の手順でXGボイスを選びます。

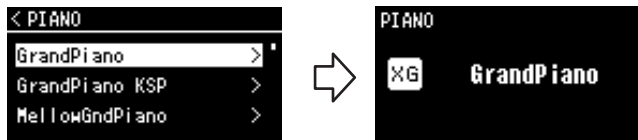
1. [FUNCTION]ボタンを押したまま、ボイスボタンの[OTHERS]を押して、XGボイスの画面を表示させます。



2. [^]/[V]ボタンで使いたいXGボイスのボイスグループを選び、[>]ボタンを押します。



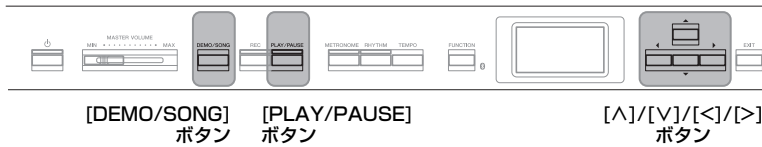
3. [^]/[V]ボタンで使いたいXGボイスを選び、[>]ボタンを押します。



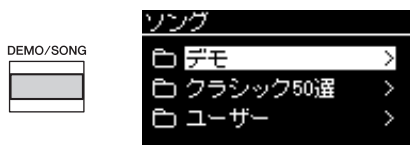
* XGボイスについてはウェブサイト上のデータリスト(2ページ)「XGボイス一覧」をご覧ください。

ボイスの特徴がわかるデモ曲を聞く

ボイスグループごとに数曲ずつ、ボイスの特徴がわかるデモ曲(ボイスデモ)が内蔵されています。どのボイスにデモ曲が用意されているかは、ボイス一覧(101ページ)をご覧ください。

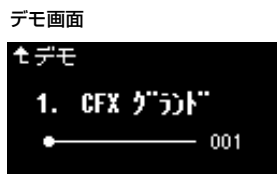


1. ^{デモ} [DEMO/SONG] ボタンを押して、^{ソング} ソングカテゴリリストを表示します。



2. [^]/[V] ボタンで「デモ」を選び、[>] ボタンを押します。
3. [^]/[V] ボタンで再生したいボイスデモを選び、[>] ボタンを押してデモ画面を表示します。

現在選ばれているボイスデモの名前が表示されています。



4. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をスタートします。
5. ^{ポーズ} もう一度 [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をストップします。

1曲の再生が終了した場合は、自動的にストップします。

他のデモ曲を選ぶ

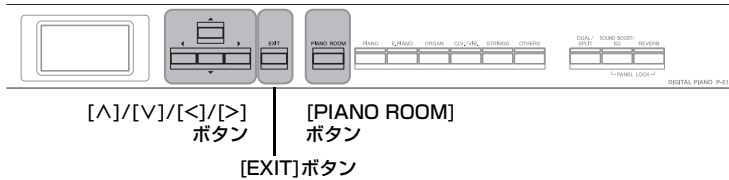
[^] ボタンを押して、ソングリストに戻り、手順3~4をくり返します。

NOTE

ボイスデモの再生中は、録音操作はできません。

ピアノの響きやタッチ感を変えて楽しむ(ピアノルーム)

ピアノルームは、ピアノ演奏を思う存分楽しみたい、という方におすすめの機能です。ボイスなど、どんな設定になっていても、ワンタッチでピアノ演奏専用の設定を呼び出すことができます。また、弦やペダルの共鳴音や屋根の開閉など、音の響きを調節したり、タッチ感を調節したりできます。さまざまな要素を調節して自分の好きな音を作ってみましょう。



1. ^{ピアノ} ^{ルーム} **[PIANO ROOM] ボタン**を押して、**ピアノルーム画面**を表示させます。



2. **[^]/[V]**ボタンで項目を選択します(24ページ)。
3. **[<]/[>]**ボタンで設定を変更します(24ページ)。
4. 設定が終わったら、^{エグジット} **[EXIT]**ボタンでピアノルーム画面から抜けます。

NOTE

ピアノグループ以外のボイスを選んでいる場合、ピアノルーム画面を表示すると自動的に「CFX グランド」に切り替わります。

NOTE

ピアノルーム画面を表示すると、デュアル/スプリットおよびデュオは解除されます。

ピアノルーム画面でできること

以下の項目は、ボイスメニュー (84ページ)やシステムメニュー (93ページ)の画面でも設定できます。これらの項目の設定をピアノルーム画面で変更すると、ボイスメニューやシステムメニューの設定も変更されます。

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
大屋根の開閉		ピアノの大屋根を開閉します。	フル	フル、ハーフ、クローズ
ブライトネス		音の明るさを調整します。	5	0~10
タッチ		鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を変更します。使うボイスや演奏する曲、好みによって使い分けてください。	ミディアム	ソフト2、ソフト1、ミディアム、ハード1、ハード2、固定
リバーブ		さまざまな場所で弾いているような臨場感が得られる、リバーブの種類を選びます。選んだリバーブは、鍵盤演奏、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてにかかります。	ボイスによる	リバーブタイプリスト参照(87ページ)
リバーブの深さ		現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。「リバーブ」がオフの場合や設定値が0の場合、効果はかかりません。	ボイスによる	0~127
音の高さ (マスターチューニング)		全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。	A3=440.0Hz	A3 = 414.8Hz~466.8Hz (約0.2Hz単位)
VRM		VRMのオン/オフを設定します。VRMの機能については「VRMとは」(25ページ)をご覧ください。VRMの効果をつけられるボイスは、「ボイス一覧」(101ページ)をご覧ください。 VRMのデモを聞く VRMの設定画面で ^{プレイ} ボイス [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、VRMの効果のあり/なしを聞き比べることができます。オンにして再生するとVRMがオンの状態、オフにして再生するとVRMがオフの状態のデモ曲を再生できます。 	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
ダンパー レゾナンス		ダンパーペダルを踏んだときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。「VRM」がオンのときに設定できます。	5	0~10
ストリング レゾナンス		押鍵したときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。「VRM」がオンのときに設定できます。	5	0~10
アリコート レゾナンス		アリコートの響きを調節します。「VRM」がオンのときに設定できます。詳しくは「アリコートとは」(25ページ)をご覧ください。	5	0~10
ボディ レゾナンス		響板や側板、フレームなど、ピアノ本体部の響きを調節します。「VRM」がオンのときに設定できます。	5	0~10
キーオフサンプリング		キーオフ音(鍵盤を離れたときの微妙な発音)の音量を変えます。キーオフサンプリングの効果をつけられるボイスは、「ボイス一覧」(101ページ)をご覧ください。	5	0~10
ハーフペダルの位置		右ペダルを踏み込むほど音が長く伸びる「サステイン連続」の効果、ペダルをどのくらい踏み込めば効き始めるのかを設定します。右ペダルに「サステイン連続」が割り当てられている場合(86ページ)のみ有効です。	0	-2 (浅い位置で効く)~0~+4 (深い位置で効く)

VRMとは

グランドピアノの共鳴音は、ダンパーペダルを踏んだときに、弾いた鍵盤の弦の振動がほかの弦や響板へ伝わることで生まれます。この複雑に影響し合う弦や響板などの状態をシミュレートし、それをリアルに再現することで、グランドピアノならではの響きを作り出す技術がVRM(バーチャル・レゾナンス・モデリング)です。鍵盤を押さえるタイミングやペダルを踏むタイミングと深さに応じて、より多彩な演奏表現が可能になります。

VRM=Virtual Resonance Modeling (バーチャル・レゾナンス・モデリング)

アリコートとは

他の弦と共振する、共鳴専用の弦をアリコートといいます。他の弦と共振することで、倍音を響かせるので、豊かな響きが得られます。アリコートにはダンパーがなく消音されないので、鍵盤から手を離しても、アリコートの響きが残ります。

音に効果をかける

効果をかけると、演奏表現に幅を出すことができます。

リバーブ、コーラス、エフェクトの各タイプリストについては、87ページをご覧ください。

リバーブ

音に残響を加えます。コンサートホールなどで演奏しているような臨場感が味わえます。ボイスを選ぶたびに、最適なリバーブタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

リバーブタイプをオフに設定したい場合やご自分で設定したい場合は、[REVERB]ボタンを押してリバーブ画面を表示させ、[H]/[V]ボタンで設定します。ピアノグループのボイスの場合は、ピアノルーム画面(24ページ)でも設定できます。



リバーブタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/ソング/MIDI)に共通です。

コーラス

音に広がり感を加えます。ボイスを選ぶたびに、最適なコーラスタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

コーラスタイプをオフに設定したい場合やご自分で設定したい場合は、ボイスメニュー画面の「コーラス」で設定します(84ページ)。

コーラスタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/ソング/MIDI)に共通です。

エフェクト

鍵盤演奏にエコーやトレモロなどの効果をかけられます。効果はボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「エフェクト」(85ページ)で選べます。

NOTE

- リバーブのかけ具合をボイスごとに設定したい場合はボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「リバーブの深さ」で設定します(85ページ)。
- ここでピアノグループのボイスのリバーブタイプを変更すると、ピアノルーム画面(24ページ)のリバーブタイプも変更されます。

NOTE

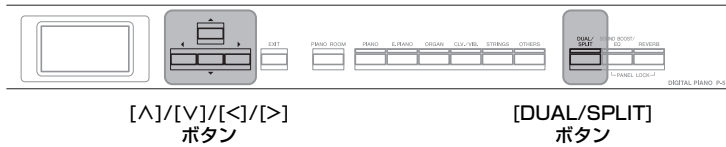
コーラスのかけ具合をボイスごとに設定したい場合はボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「コーラスの深さ」で設定します(85ページ)。

NOTE

ピアノなどコーラスの初期設定がオフのボイスにコーラスをかけたい場合は、コーラスタイプにオフ以外の設定を選び、コーラスの深さを0以外に設定してください。

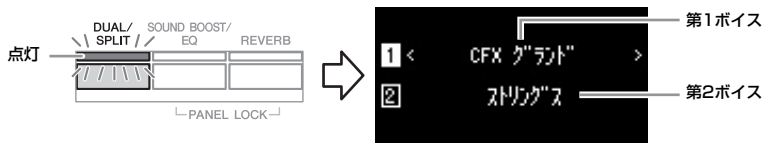
2つのボイスを重ねて鳴らす(デュアル)

2つのボイスを重ねて鳴らします。系統の違う2つのボイス(違うボイスグループのボイスを組み合わせる)を重ねてデュエットしたり、同じ系統の2つのボイス(同じボイスグループのボイスを組み合わせる)を重ねて厚みのあるボイスを作ったりできます。



デュアル=2つの

1. ^{デュアル} [DUAL/SPLIT] ボタンを1回押して、デュアルをオンにしま
^{スプリット} す。



NOTE

2つのボイスボタンを同時に押して、デュアルをオンにすることもできます。

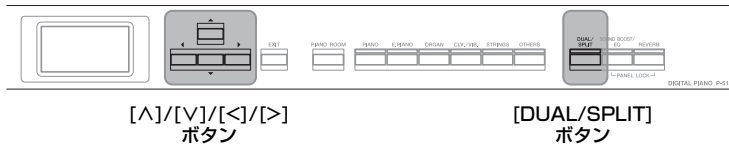
画面の上に表示されるボイスを第1ボイス、下を第2ボイスと呼びます。

2. **ボイスを選びます。**
 - 2-1. [^]/[V] ボタンを押して、画面の 1 (第1ボイス) を反転表示させます。
 - 2-2. ボイスボタンを押して、ボイスを選びます(20ページ)。
 - 2-3. [^]/[V] ボタンを押して、画面の 2 (第2ボイス) を反転表示させ、2-2の手順でボイスを選びます。
3. **鍵盤を弾いてみましょう。**
4. デュアルをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯するまで[DUAL/SPLIT] ボタンを何度か押します。

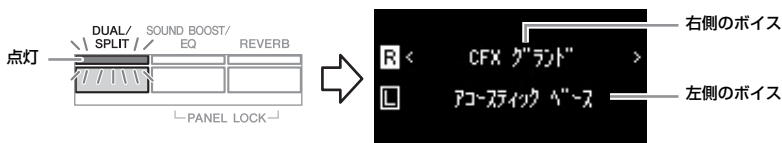
鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)

スプリット=分ける

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々のボイスで演奏できます。たとえば、左側でベースパートを、右側でメロディーパートを演奏できます。



1. デュアル スプリット [DUAL/SPLIT] ボタンを2回押して、スプリットをオンにします。



画面の上に表示されるボイスが右側のボイス、下が左側のボイスです。

2. 左右のボイスを選びます。

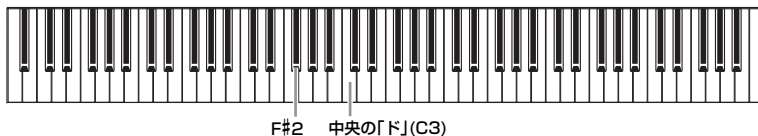
左右のボイスの境目を「スプリットポイント」と呼びます。スプリットポイントに当たる鍵盤(初期設定：F#2)は、左側に属します。

- 2-1. [^]/[V] ボタンを押して、画面の **R** (右側のボイス) を反転表示させます。
- 2-2. ボイスボタンを押して、ボイスを選びます(20ページ)。
- 2-3. [^]/[V] ボタンを押して、画面の **L** (左側のボイス) を反転表示させ、2-2の手順でボイスを選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

スプリットポイントの変更

スプリットポイントは「F#2」が初期設定になっていますが、変更できます。スプリットがオンの状態で、[DUAL/SPLIT] ボタンを押したままスプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

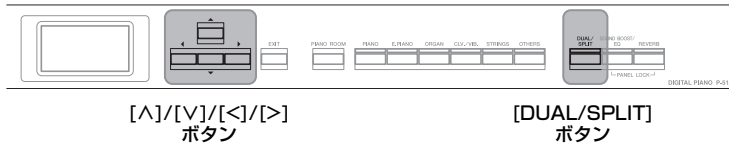


NOTE

スプリットポイントは、システムメニュー画面でも変更できます。[FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「鍵盤」→「スプリットポイント」(93ページ)で設定してください。

4. スプリットをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯するまで[DUAL/SPLIT] ボタンを何度か押します。

スプリットとデュアルを同時に使う



1. **[DUAL/SPLIT] ボタンを3回押して、デュアルとスプリットをオンにします。**



画面の上に表示されるボイスが右側の第1ボイス、まん中が右側の第2ボイス、下が左側のボイスです。

2. **重ねるボイス、左側のボイスをそれぞれ選びます。**
 - 2-1. [^]/[V] ボタンを押して、画面の **[R1]** (右側の第1ボイス) を反転表示させます。
 - 2-2. ボイスボタンを押して、ボイスを選びます (20ページ)。
 - 2-3. [^]/[V] ボタンを押して、画面の **[R2]** (右側の第2ボイス) や **[L]** (左側のボイス) を反転表示させ、2-2の手順でボイスを選びます。
3. **鍵盤を弾いてみましょう。**
4. **デュアルとスプリットをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンを押します。**

[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯します。

NOTE

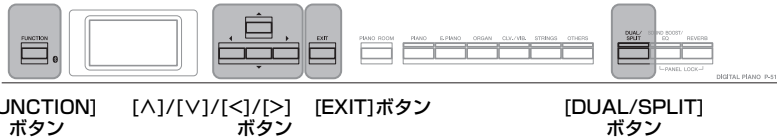
スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

NOTE

スプリットポイントの変更方法は、28ページをご覧ください。

二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。



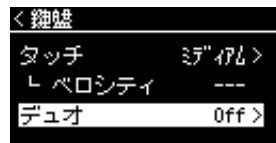
1. **ファンクション** [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。



システムメニュー画面

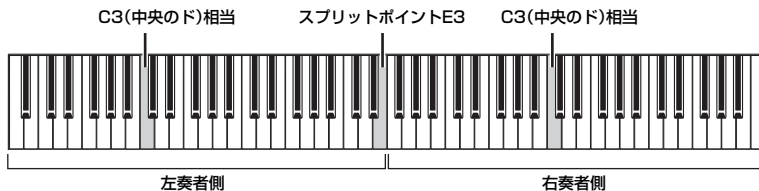


鍵盤画面



- 1-1. [^]/[V] ボタンで「鍵盤」を選択
- 1-2. [>] ボタンで次へ
- 1-3. [^]/[V] ボタンで「デュオ」を選択
- 1-4. [>] ボタンで On (オン) に設定。
[DUAL/SPLIT] ボタンが青色に点灯します。

E3が鍵盤の境目(スプリットポイント)となり、左奏者側と右奏者側に分かれます。



付属のフットスイッチや、別売のフットスイッチ/フットペダルを使用する場合、効果がかかる鍵盤を設定できます。設定方法は、94ページの「Auxペダル範囲」をご覧ください。

別売のペダルユニットを使用する場合、ペダルの機能は次のように変わります。

右のペダル	右側領域のダンパーペダル
まん中のペダル	左右領域共通のダンパーペダル
左のペダル	左側領域のダンパーペダル

NOTE

デュオをオンにすると、リバーブやVRM、ステレオフォニックオープンタイマイザー(15ページ)が無効になります。

NOTE

スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

Auxペダル範囲

初期設定：全域

設定範囲：全域(全鍵盤)、右手(右手鍵盤のみ)、左手(左手鍵盤のみ)

2. ^{エグジット} [EXIT]ボタンを押してボイス画面を表示させ、[<]/[>]ボタンでボイスを選びます。

デュオがオンの間はボイス画面に[Duo]と表示されます。



3. 鍵盤を弾いてみましょう。

左側の領域の音は左側から、右側の領域の音は右側から発音します。

4. デュオをオフにするには、^{デュアル} ^{スプリット} [DUAL/SPLIT]ボタンを押します。

次のいずれかの操作でもデュオはオフになります。

- ^{ピアノルーム} [PIANO ROOM]のボタンを押す。
- 手順1から操作してデュオを「Off (オフ)」に設定する。

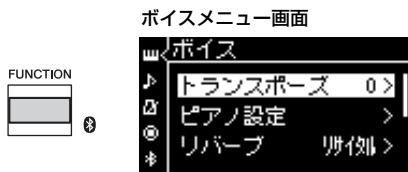
キー (調)を変える (トランスポーズ)

鍵盤演奏音のキーを半音単位で移調(トランスポーズ)します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、トランスポーズを「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏ができます。



[FUNCTION] ボタン [^]/[V]/[<]/[>] ボタン [EXIT] ボタン

1. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してボイスメニュー画面を表示させ、「トランスポーズ」を選び、[>] ボタンを押します。



2. [<]/[>] ボタンで設定します。

初期設定(0)に戻すには、[<]/[>] ボタンを同時に押します。



3. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、トランスポーズ画面を閉じます。

初期設定：0
設定範囲：-12(-1オクターブ)～
0(標準音程)～+12(+1オク
ターブ)

NOTE

ここでの設定はソング再生音には関係ありません。
ソング再生音のキー(調)を変えたいときは、ソングメニュー画面の「トランスポーズ」(88ページ)で設定してください。

NOTE

鍵盤演奏の情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値にトランスポーズ値を加えた値で送信されます。
ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。

音の高さを微調整する (マスターチューニング)

楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDなどの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などとピッチ(音の高さ)を正確に合わせたい場合に使用します。

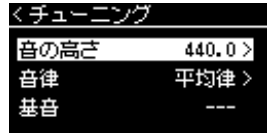


[FUNCTION] ボタン [^]/[V]/[<]/[>] ボタン [EXIT] ボタン

1. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させ、[^]/[V] ボタンで「チューニング」を選び、[>] ボタンを押します。



2. [^]/[V] ボタンで「音の高さ」を選び、[>] ボタンを押します。



3. [<]/[>] ボタンで設定します。初期設定(A3=440.0Hz)に戻すには、[<]/[>] ボタンを同時に押します。



4. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、音の高さ画面を閉じます。

初期設定：A3=440.0Hz
 設定範囲：A3=414.8Hz～
 440.0Hz～466.8Hz (約
 0.2Hz単位)

NOTE

- ここで音の高さを変更すると、ピアノルーム画面(24ページ)の音の高さも変更されます。
- ここでの設定は、ドラムキットやオーディオソング再生音には影響しません。また、MIDIソングには記録されません。

タッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付きかた(タッチ感度)を設定します。鍵盤の重さ自体は変わりません。

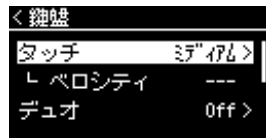


[FUNCTION] ボタン [^]/[V]/[<]/[>] ボタン [EXIT] ボタン

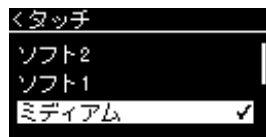
1. ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させ、[^]/[V] ボタンで「鍵盤」を選び、[>] ボタンを押します。



2. [^]/[V] ボタンで「タッチ」を選び、[>] ボタンを押します。



3. [^]/[V] ボタンで設定します。



タッチ感度リスト

ソフト2	弱いタッチで大きい音を出すことができます。
ソフト1	ソフト2とメディアムの中間です。
メディアム	標準的なタッチです。
ハード1	ハード2とメディアムの中間です。
ハード2	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。
固定	タッチによる強弱は付かず、一定のボリュームが出ます。

4. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、タッチ画面から抜けます。

NOTE

ピアノグループのボイスは、ピアノルーム画面でもタッチ感度を設定できます。詳しくは、「ピアノルーム画面でできること」(24ページ)をご覧ください。

初期設定：メディアム

NOTE

- ここでタッチ感度を変更すると、ピアノルーム画面のタッチ感度も変更されます。
- ここでの設定はMIDI録音されたり、MIDI出力されたりしません。
- オルガン、ハーブシコードの音色では、タッチ感度による音の強弱は付きません。

より音量感のあるサウンドで演奏する(SOUND BOOST)

楽器の音量感をアップさせる機能です。強音だけでなく、弱音までよりはっきり聞かせたい場合に使います。ほかの楽器とのセッションやアンサンブルを行なうときに、音色の表現力を維持したまま、自分の音を引き立たせて演奏できます。



1. ^{サウンド} ^{ブースト} [SOUND BOOST/EQ] ボタンを1回押して、サウンドブースト画面を表示させます。

初期設定：Off (オフ)



2. [>] ボタンを押し、サウンドブースト機能をon(オン)にします。
[SOUND BOOST/EQ] ボタンが点灯します。
3. [V] ボタンを押して「タイプ」を反転表示させます。
4. [>] ボタンを押してタイプ画面を表示させ、[^]/[V] ボタンでサウンドブーストタイプを選びます。

初期設定：2



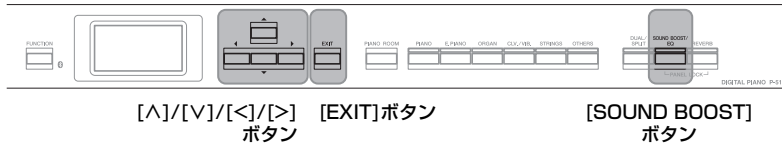
サウンドブーストタイプリスト

1	音の粒立ちがはっきりとします。明るい曲のソロ演奏などにおすすめです。
2	1よりもさらに粒立ちがはっきりとして、クリアな音になります。弾き語りなどにおすすめです。
3	2よりもさらに明るく力強い音になり、アタックがより際立ちます。バンド演奏などにおすすめです。

5. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、サウンドブースト画面から抜けます。

音質を補正する (マスター EQ)

EQ(イコライザー)とは、音を周波数帯域(バンド)に分けて、各帯域のレベル(ゲイン)を上げ/下げして音質を補正し、本体スピーカーやヘッドフォンなどで鳴らすサウンドを、最適な音に設定する機能です。この楽器では、3つのデジタルイコライザーが搭載されています。また、内蔵の3つのタイプから選べるだけでなく、イコライザーの周波数帯域およびゲインを調節して、ユーザーマスターEQとしてオリジナルの設定を保存できます。



マスターEQタイプの選択

1. ^{サウンド} ^{ブースト} [SOUND BOOST/EQ] ボタンを2回押して、マスターEQ画面を表示させます。



2. [^]/[V] ボタンで、マスターEQタイプを選びます。

初期設定：フラット

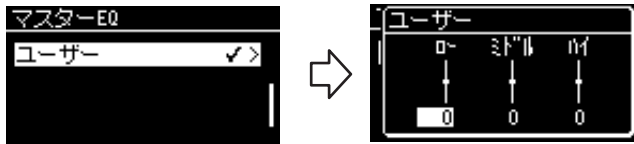
マスターEQタイプリスト

フラット	フラットなEQ設定です。
フライト	明るい音になるEQ設定です。
メロー	柔らかくまるやかな音になるEQ設定です。
ユーザー	オリジナルのEQ設定です。 詳しくは「ユーザーマスターEQの設定」(37ページ)をご覧ください。

3. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、マスターEQ画面から抜けます。

ユーザーマスター EQの設定

1. マスターEQタイプのうち、「ユーザー」を選び、[>]ボタンを押し、3つの周波数帯域(バンド)のゲインを設定する画面を表示させます。



2. [<]/[>]ボタンで設定する帯域を選び、[^]/[v]ボタンで各帯域のゲインを設定します。

各帯域のゲインを初期設定に戻すには、[^]/[v]ボタンを同時に押します。

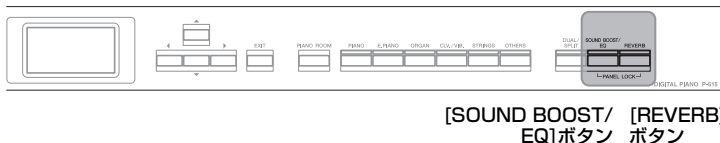


初期設定：0 dB
設定範囲：-6 dB ~ 0 ~ +6 dB

3. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押して、ユーザーマスターEQ設定画面を閉じます。

パネル操作をロックする

パネルロック機能を使うと、本体パネル上のボタン操作を一時的に無効にし、演奏中の誤操作によるトラブルを防ぐことができます。



1. **[SOUND BOOST/EQ] ボタンと [REVERB] ボタンを同時に押して、パネル操作をロックします。**

ボイス画面が表示され、画面右下に鍵のアイコンが表示されます。



[ⓧ](スタンバイ/オン)スイッチ以外のボタン操作ができなくなります。

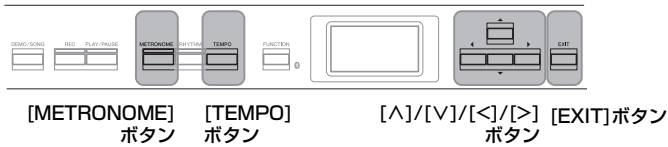
2. **パネルロックを解除するには、もう一度[SOUND BOOST/EQ] ボタンと [REVERB] ボタンを同時に押します。**

NOTE

- ・ソング再生中、録音中は、パネル操作をロックできません。
- ・メトロノームやリズムの再生中にパネル操作をロックすると、ロックを解除するまで、再生を停止できません。
- ・パネルロック中は、Auxペダル機能を使用したソングの再生/一時停止ができません(94ページ)。
- ・パネル操作がロックされていても、オートパワーオフ機能(13ページ)が解除されていなければ、電源は自動的に切れます。

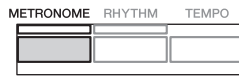
メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご利用ください。



1. ^{メトロノーム}[METRONOME] ボタンを押して、メトロノームを鳴らします。

テンポ画面が表示されます。テンポ画面については、次の「テンポを調節する」をご覧ください。



2. メトロノームを止めるには、もう一度[METRONOME] ボタンを押します。

テンポ画面から抜けるには、[EXIT] ボタンを押します。

テンポを調節する

1. ^{テンポ}[TEMPO] ボタンを押して、テンポ画面を表示させます。



2. [<]/[>] ボタンでテンポを調節します。

[<]と[>]ボタンを同時に押すと、テンポは初期設定に戻ります。

3. ^{エグジット}[EXIT] ボタンを押して、テンポ画面から抜けます。

NOTE

拍子の変更方法は、40ページをご覧ください。

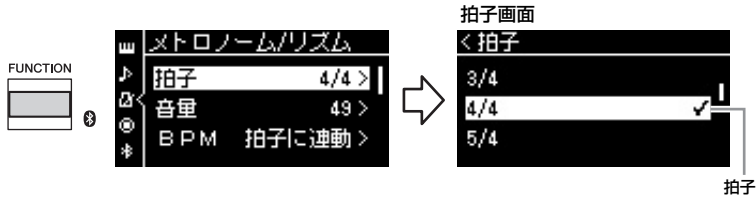
NOTE

メトロノームの音量は、メトロノーム/リズムメニュー画面(91ページ)で設定できます。また、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などもメトロノーム/リズムメニュー画面で設定できます(91ページ)。

設定範囲：拍子による(40ページ)

メトロノームの拍子を設定する

1. ^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示させ、[△]/[▽]ボタンで「拍子」を選び、[>]ボタンを押します。



2. [△]/[▽]ボタンで拍子を選びます。

設定範囲 : 2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8

初期設定 : 4/4 (MIDIソング選択時は、ソングによる)

テンポ表示と設定範囲

[TEMPO]ボタンを押すと、テンポは「音価=テンポ値」(例 ♩=120)の形式で表示されます。拍子を設定すると、音価と設定範囲は以下のように変わります。

音価	拍子	設定範囲
♪ 2分音符	2/2	3~250
♪ 4分音符	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4	5~500
♪ 付点4分音符	6/8、9/8、12/8	4~332 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)
♪ 8分音符	3/8、7/8	10~998 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)と999

* MIDIソングのテンポが楽器で設定できる範囲外の場合、楽器で設定可能な範囲に変更されます。

* メトロノーム/リズムメニュー画面の「BPM」が4分音符に設定されている場合は、拍子の設定に関わらず音価は4分音符で表示されます。

3. **メトロノームのベル音をオンにします。**

詳細は、メトロノーム/リズムメニュー画面の「ベル」(91ページ)をご覧ください。選んだ拍子に従って、1拍目でチーンと鳴り、それ以外の拍ではカチ、カチと鳴ります。

4. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押して、メトロノーム/リズムメニュー画面から抜けます。

音価

1拍の基準となる音の長さ

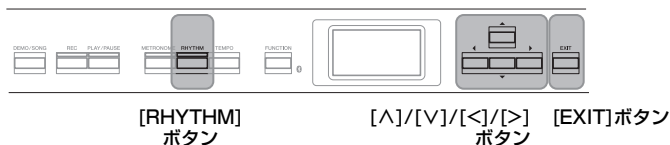
メトロノームの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面で、メトロノームの音量、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などを設定できます(91ページ)。

演奏に伴奏を付ける(リズム)

この楽器には、ポップスやジャズなど、音楽ジャンルに合ったリズムが内蔵されています(103ページ)。好きなリズムと一緒に演奏しましょう。

なお、この楽器では、打楽器音とベース音のことを「リズム」と言います。



1. ^{リズム} [RHYTHM] ボタンを押して、リズム再生をスタートさせます。
イントロが鳴り、リズム再生がスタートします。



イントロ/エンディングのオン/オフを設定するには

演奏を盛り上げるため、リズムの始まりと終わりには、イントロ/エンディングが流れます。イントロ/エンディングを鳴らす(On)/鳴らさない(Off)の設定は、メトロノーム/リズムメニュー画面(91ページ)の「イントロ」、「エンディング」の項目で設定できます。

2. [<]/[>] ボタンを使って、使いたいリズムを選びます。
リズムの種類については、リズム一覧(103ページ)をご覧ください。

3. リズムに合わせて演奏しましょう。

演奏するだけで、楽器がその音を認識して、演奏に合ったベース音が鳴ります。

ベース音を鳴らしたくないときは、オフに設定します。[FUNCTION] ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示させて、「ベース」を選び、[>] ボタンでオン/オフを切り替えてください。(初期設定：オン)

4. リズムを止めるには、[RHYTHM] ボタンを押します。
エンディングが鳴ったあと、リズムはストップします。

5. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、リズム画面から抜けます。

リズムのテンポ

- リズムのテンポは、メトロノームで設定したテンポと同じになります(39ページ)。
- リズムのテンポ設定後にMIDIソングを選ぶと、リズムのテンポ設定はキャンセルされ、選択したソング固有のテンポに切り替わります。
- リズム再生中に、[TEMPO] ボタンでテンポ画面を表示させてリズムのテンポを変えた場合は、[EXIT] ボタンを押して、リズム画面に戻ります。

リズムの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面(91ページ)で、リズムの音量を設定したり、鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせるなどを設定したりできます。

NOTE

ソングの再生中および録音中、リズム画面は表示されません。

NOTE

- 曲のアレンジによっては、演奏に合ったベース音が鳴らない場合があります。
- 9th、11th、13thのコードは認識されません。
- コードの押さえ方は、市販のコード表などをご参照ください。

曲(ソング)を再生する、練習する

この楽器では、内蔵曲や録音した曲、市販の曲データを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏の練習ができます。

ミディ MIDIソングとオーディオソング

この楽器で再生/録音できるソングには、MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。MIDIソングは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、ボイスの変更などの編集がしやすいのが特長です。

オーディオソングは、演奏した音そのものを記録したデータです。カセットテープやボイスレコーダーなどに録音するのと同じしくみで記録したものです。携帯音楽プレイヤーなどでも再生できるので、ほかの人に自分の演奏を聞いてもらうことが手軽にできます。

この楽器では、以下のソングが再生できます。

- 楽器に内蔵されているボイスのデモ曲(ボイスデモ)(22ページ)
- 楽器に内蔵されているソング(ピアノソング50曲「クラシック50選」)
- この楽器での演奏を録音したソング(録音方法については52ページ参照)
- 市販のMIDIデータ：SMF (Standard MIDI File)形式
この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。
- 市販のオーディオデータ：WAV形式(拡張子「.wav」)ファイル(サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo)
この楽器で再生可能なオーディオデータは、1曲につき80分までです。

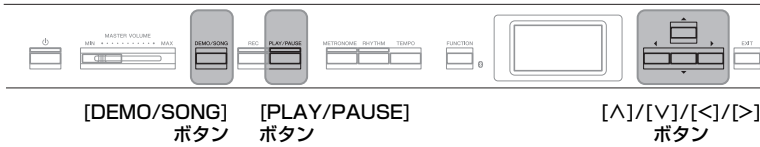
MIDIソングとオーディオソングでは、使える機能が異なります。この章では、下記のように説明しています。

例 **MIDI** **オーディオ**

ここでの説明は、MIDIソングで使える機能です。オーディオソングでは使えません。

ソングを再生する

MIDI オーディオ



1. USBフラッシュメモリーに入っているソングを再生したいときは、
USBフラッシュメモリーを楽器の[] (USB TO DEVICE) 端子に接続しておきます。

オーディオファイルを再生したい場合は、必ずUSBフラッシュメモリーに入れてください。

2. [DEMO/SONG] ボタンを押してソングカテゴリーリストを表示させ、[^]/[V] ボタンで目的のカテゴリー / フォルダースelectします。

下記のカテゴリーの説明を参考に、「クラシック50選」、「ユーザー」、「USB」のいずれかから選びます。



デモ	ボイスの特徴がわかるデモ曲(MIDIソング)です(22ページ)。
クラシック50選	内蔵のピアノソング50曲(MIDIソング)です。詳しくは103ページの「ソング一覧」をご覧ください。付属の「クラシック名曲50選」に楽譜が掲載されていますのでご利用ください。
ユーザー	この楽器で録音(52ページ)し、楽器本体に保存したMIDIソングと、USBフラッシュメモリーから楽器本体へコピー / 移動したMIDIソングです(63ページ)。
USB	この楽器での演奏をUSBフラッシュメモリーに録音したMIDIソング/オーディオソングや、録音したMIDIソングから変換したオーディオソング(67ページ)、またUSBフラッシュメモリーに保存した市販のMIDIソング/オーディオソングです。

3. [>] ボタンを押してカテゴリー内のソングを表示させ、[^]/[V] ボタンで聞きたいソングを選びます。

「ユーザー」または「USB」カテゴリーを選んだ場合、ソング名の左端には、ソングの種類を示すアイコンが表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを接続したとき、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダに入っていない)ソングを自動で呼び出す機能「USB自動ロード」があります。設定方法については、96ページをご覧ください。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(71ページ)をお読みください。

NOTE

USBフォルダは、手順1で [] (USB TO DEVICE) 端子にUSBフラッシュメモリーが接続したときのみ、画面に表示されます。

NOTE

カテゴリー / フォルダのリストに戻るには、[<] ボタンを押します。

ソングリスト



アイコン

アイコン	形式
	フォルダー
	MIDIソング
	オーディオソング

USBフラッシュメモリーに録音したソングを選ぶ

この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、ソングはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに保存されます。「USER FILES」フォルダー内のソングを選びたい場合は、手順2で「USB」を選び、手順3で「USER FILES」フォルダーを選びます。

4. [>]ボタンを押して決定します。

ソング画面が表示され、現在選ばれているソング名と、そのソングが入っているカテゴリ名が表示されます。

ソング画面: MIDIソングの場合

カテゴリ名



ソング画面: オーディオソングの場合

カテゴリ名



5. [PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をスタートします。

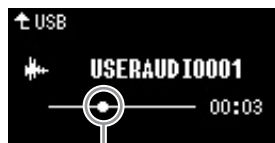
再生位置が表示されます。

ソング画面: MIDIソングの場合



再生位置

ソング画面: オーディオソングの場合



再生位置

再生しながらご自身で鍵盤を弾くこともできます。その際、手弾き音のボイスも変更されます。

手弾き音とMIDIソング再生音の音量バランスを調節したり、オーディオソングの音量を調節したいときは、それぞれソングメニュー画面の「音量」項目で調節してください(50ページ)。

6. もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY/PAUSE]ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

フォルダーの中にデータが存在しない場合は「曲なし」と表示されません。

USBフラッシュメモリー内のソングが読み込めない場合

システムメニューで、ソング名に対する言語設定(96ページ)を切り替えてみてください。

NOTE

ソングリストに戻るには、[△]ボタンを押します。

NOTE

- ソング名が長くて画面に表示されない場合は、[V]ボタンを押すと、ソング名を最後まで確認できません。
- 半角47文字以上のソング名のソングは、この楽器で再生できません。

NOTE

テンポは、自動的にそのソング特有のテンポにセットされます。「メトロノームを使う」(39ページ)での設定は無効になります。

NOTE

再生に便利な機能を46～51ページで紹介しています。ご覧ください。

NOTE

[<]と[>]ボタンを同時に押すと、ソングの先頭に戻ります。

早戻し/早送り

1. ソング画面の表示中に[<]/[>]ボタンを押して、小節番号もしくは経過時間の早戻し/早送りをします。

ソング画面: MIDIソングの場合



小節番号

ソング画面: オーディオソングの場合



経過時間

ボタンを長く押すと値が連続して変わります。[<]と[>]ボタンを同時に押すと、ソングの先頭に戻ります。

テンポの調節

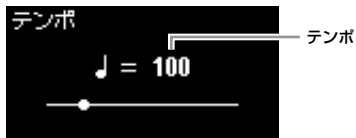
ソングの再生速度を変えられます。

1. ^{テンポ}[TEMPO]ボタンを押してテンポ画面を表示します。

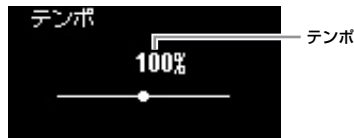
MIDIソングの場合は再生中またはソング画面表示中に、オーディオソングの場合は再生中に、[TEMPO]ボタンを押します。



MIDIソングの場合



オーディオソングの場合



2. [<]/[>]ボタンを押して、テンポを変更します。

[<]と[>]ボタンを同時に押すと、元のテンポ(そのソング固有のテンポ)に戻ります。

MIDIソングの場合

テンポの設定範囲は、選ばれているソングの拍子によって異なります。

オーディオソングの場合

設定範囲は75%~125%です。100%がソング固有のテンポです。値が大きいほど再生速度が速くなります。

3. 設定が終わったら^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してテンポ画面を抜けます。

NOTE

オーディオソングのテンポを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。

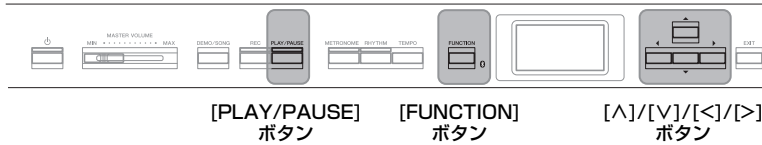
NOTE

MIDIソングの場合、拍子によっては、設定できる数値が2の倍数のみになります。詳しくは40ページをご覧ください。

右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)

MIDI オーディオ

内蔵曲などのMIDIソングには、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このようなソングデータの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができます。



1. 練習するソングを選びます。

選びかたは、43ページをご覧ください。内蔵の「クラシック50選」カテゴリーから選ぶことをおすすめします。

2. 練習したいパートを選んで再生をオフにします。

[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

L/R画面では、再生をオフにしたい(練習したい)パート(トラック)を選びます。右手練習したい場合は「R」、左手練習したい場合は「L」を選びます。

ソングメニュー画面



L/R画面



2-1. [^]/[V]ボタンで「L/R」を選択

2-2. [>]ボタンで次へ

2-3. [^]/[V]ボタンでトラックを選択

3. [>]ボタンを使って、選んだパートを「Off (オフ)」に設定します。

4. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をスタートします。

再生をオフにしたパートをご自分で弾いて練習します。

5. もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY/PAUSE]ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

再生中でも、パートごとの再生オン/オフは切り替えられます。

NOTE

通常、「R」にチャンネル1、「L」にチャンネル2、「その他」にチャンネル3~16が割り当てられています。ソングによっては異なる場合があります。「その他」のチャンネルは、チャンネルごとにオン/オフを設定できません。

NOTE

内蔵の「クラシック50選」カテゴリーのソングの一部は連弾曲です。これらの連弾曲のパートの割り当てについては103ページをご覧ください。

NOTE

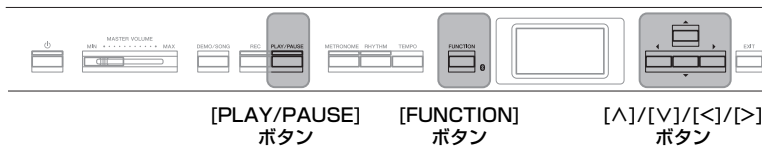
別のMIDIソングを選ぶと、両パートとも再生オンに自動的にリセットされます。

くり返し再生する

くり返しの項目は下記のとおり3つあります。難しいフレーズをくり返して練習するときなどに便利です。MIDI曲の場合、「右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)」の機能とあわせて使うこともできます。

- **ABリピート**..... MIDI 1曲内のある範囲を指定してくり返し再生します。
- **フレーズリピート**..... MIDI 1曲内のフレーズをくり返し再生します。
- **ソングリピート**..... MIDI/オーディオの1曲または全曲を順番/順不同(ランダム)に連続再生します。

ここではABリピートとソングリピートの設定方法を説明します。フレーズリピートの詳細については詳細設定編の88ページをご覧ください。



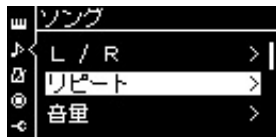
1. 再生するソングを選びます。

選びかたは、43ページをご覧ください。

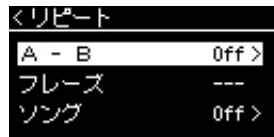
2. リピート画面を表示させます。

[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させ、「リピート」を選んで[>]ボタンを押します。

ソングメニュー画面



リピート画面



3. リピート画面で設定したい項目を[^]/[V]ボタンを使って選び、[>]ボタンを押します。

ABリピートを設定したい場合は「A - B」、ソングリピートを設定したい場合は「ソング」を選びます。

4. 設定画面で、設定をします。

- **ABリピート**..... 48ページをご覧ください。
- **ソングリピート**..... 49ページをご覧ください。

ABリピートの設定

MIDI

オーディオ

くり返しの範囲を指定します。

4-1. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、ソングの再生をスタートします。

4-2. ^{ポーズ} くり返し再生の開始位置(A点)にしたいところで、[>] ボタンを押します。

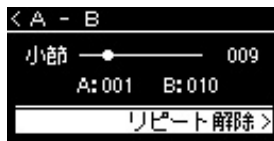
A - B画面



4-3. くり返し再生の終了位置(B点)にしたいところで、もう一度[>] ボタンを押します。

カウント音が入ったあと、A点からB点までがくり返し再生されます。

5. くり返し再生をやめるには、画面の「リピート解除」が反転表示している状態で[>] ボタンを押すか、別のソングを選びます。



ソングの先頭をA点にする

A点を指定してからソングの再生をスタートし、そのあとB点を指定します。

ソングの最後をB点にする

A点だけを指定して、ソングの最後まで再生します。ソングの最後が自動的にB点になります。

NOTE

くり返し範囲の設定は、以下の方法でも設定できます。

- 1 [^] ボタンを押して「小節番号」を反転表示させ、[<]/[>] ボタンを使って小節番号を増減します。
- 2 [V] ボタンを押して「A点設定」を反転表示させ、[>] ボタンを押します。
A点が設定され、B点を設定する画面になります。
- 3 同様の操作でB点も設定します。

ソングリピートの設定

MIDI | オーディオ

4-1. [△]/[▽]ボタンを使って、再生方法を下記から選びます。

設定画面






初期設定：Off (オフ)

- **Off (オフ)**
連続再生しません。
- **1曲**
現在選ばれているソングをくり返し再生します。
- **全て**
現在選ばれているソングのフォルダー内の全曲を順番に連続再生します。
- **ランダム**
現在選ばれているソングのフォルダー内の全曲をランダム(順不同)に連続再生します。

4-2. ^{プレイ}[PLAY/PAUSE]^{ポーズ}ボタンを押して、くり返し再生をスタートします。

リピートの設定は、ソング画面のアイコンで確認できます。



くり返し中は、ソング画面を表示すると画面右上に  (1曲)、 (全て)、 (ランダム)が表示されます。

5. くり返し再生をやめるには、もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押してソングをストップし、手順4-1の設定を「Off (オフ)」にします。

音量バランスを調節する

MIDI オーディオ

MIDIソングを選んだ場合は、再生音と手弾き音の音量バランス、ソングの右手/左手パートの音量バランスが調節できます。オーディオソングを選んだ場合は、オーディオソングの音量調節ができます。

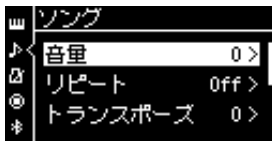
1. あらかじめ音量調節をしたいソングを選んでおきます(43ページ)。
2. ^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させ、[∧]/[∨]ボタンで「音量」を選び、[>]ボタンを押します。



(MIDIソング選択時)
ソングメニュー画面



(オーディオソング選択時)
ソングメニュー画面



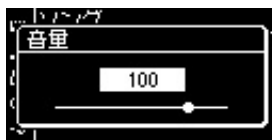
3. (MIDIソングを選んでいる場合)
「ソング - 鍵盤」または「ソング L - R」を[∧]/[∨]ボタンで選んで[>]ボタンを押し、設定画面を表示させます。
(オーディオソングを選んでいる場合)
オーディオ再生音量を[<]/[>]ボタンで調節します。調節が終わったら手順5へ進んでください。

- ソング - 鍵盤
MIDIソング再生音と手弾き音の音量バランスを調節します。
- ソング L - R
MIDIソングの右手パート/左手パートの音量バランスを調節します。

(MIDIソング選択時)



(オーディオソング選択時)

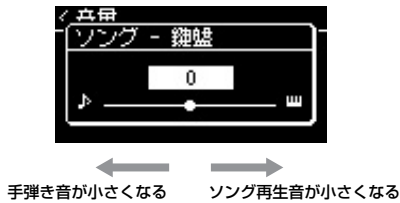


NOTE

市販のミュージックデータ(MIDIソング)の中には、非常に大音量のデータがあります。そのようなデータを使用する場合、「ソング - 鍵盤」を調節してください。

4. [<]/[>]ボタンで設定します。

ソング - 鍵盤を選んだ場合



ソング L - Rを選んだ場合



初期設定：0
設定範囲：Key+64~0~
Song+64

初期設定：0
設定範囲：L+64~0~R+64

5. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを2回押して、ソングメニュー画面を抜けます。

別のMIDIソングを選ぶと、「ソング L - R」の設定は初期設定に戻りますが、「ソング - 鍵盤」と「オーディオ音量」の設定はそのままです。

NOTE

「ソング- 鍵盤」は、電源をオフにしても設定が記憶(バックアップ)されます。誤って音量を最小にすると、鍵盤やソングの音が鳴らなくなりまのでご注意ください。設定を記憶するか、またはしないかを変更できます。詳しくは「バックアップ設定」(99ページ)をご覧ください。

再生に関するその他の機能

MIDI オーディオ

ペダルで再生/一時停止する

システムメニューでペダルの機能を変更すると、ペダルを使って再生/一時停止を操作できます。鍵盤を弾きながら、ソングを再生/一時停止したいときに便利です。

機能の設定は、システムメニュー画面の「ペダル」→「再生/一時停止」で行ないます。[AUX PEDAL]端子に接続したフットスイッチやフットペダルや、別売のペダルユニットのまん中か左のペダルに機能を割り当てます。

ソングを移調する(トランスポーズ)

ソングは全体を半音単位で移調(トランスポーズ)して再生できます。[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示し、「トランスポーズ」(88ページ)で設定を変更できます。

演奏を録音する

この楽器では、下記2通りの方式で録音できます。用途に合った方式で演奏を録音してみましょう。

• ^{ミディ}MIDI録音 **MIDI**

演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして録音し、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。オーディオソングよりデータ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。トラックごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。MIDI録音で作られたソングは、あとでオーディオファイルに変換(67ページ)できるので、難しい曲をオーディオ録音したい場合などは、まずMIDI録音でパートごとに録音すると便利です。この楽器で録音できるMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。

• オーディオ録音 **オーディオ**

演奏をオーディオソングとして録音し、USBフラッシュメモリーに保存します。初期設定では、一般的なCD音質(44.1kHz/16bit)のステレオWAV形式で保存され、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。

この楽器で録音できる時間は、1曲につき80分までです。

外部機器からのオーディオ入力音*も録音されるので、オーディオ機器やコンピューター、スマートデバイスなどの再生音も録音できます。外部機器との接続方法は、69ページをご覧ください。

*オーディオ入力音

コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器を[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子、無線LAN、Bluetoothで楽器と接続したときに、外部機器から楽器に送られるオーディオデータのことです。たとえば、Bluetooth接続したスマートフォンでオーディオデータを再生すると、そのデータが楽器のスピーカーから鳴ります。

MIDIソングとオーディオソングの違いについては、42ページで詳しく説明しています。

録音の方法

4通りの録音方法があります。録音方法によって、録音したデータはMIDIまたはオーディオになります。

• 簡単にMIDI録音する **MIDI** 53ページ

ピアノ曲の演奏などを、楽器本体に手軽に録音します。録音したデータは楽器本体の「ユーザー」カテゴリー内に保存されます。

• トラックを指定してMIDI録音する **MIDI** 55ページ

左手/右手パートを別々に録音(右手パートを再生させながら左手パートを録音)したり、アンサンブルの曲を1パートずつ録音したりできます。

• USBフラッシュメモリーにMIDI録音する **MIDI** 57ページ

空のソングファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDIソングに追加録音したりできます。

• USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する **オーディオ** 58ページ

オーディオ録音して、USBフラッシュメモリーに保存します。

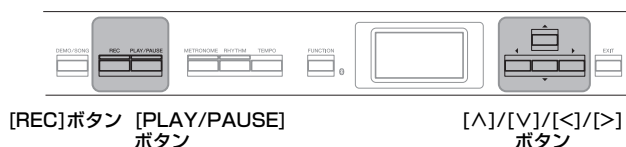
NOTE

MIDIソングを部分的に録音し直したり、録音したソングのテンポやボイスを変更したりできます。詳しくは、「そのほかの録音方法とテクニック」(59ページ)をご覧ください。

簡単にMIDI録音する

MIDI

最も簡単な録音方法です。



1. 録音に使うボイスや、拍子などの設定を選びます。

録音に使うボイスを選びます(20ページ)。デュアル/スプリット/デュオを使う場合はここでオンにします。必要に応じてメトロノーム/リズムの拍子とテンポ(39ページ)、エフェクトもここで選んでください。

2. ^{レック}[REC]ボタンを押して、録音モードに入ります。

録音のための空のソングファイルが用意され、録音画面が表示されます。

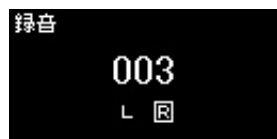


^{プレイ} ^{ポーズ}
[PLAY/PAUSE]ボタンがテンポに合わせて点滅します。
録音モードから抜きたいときはもう一度[REC]ボタンを押します。

3. 録音をスタートさせます。

鍵盤を弾くと、録音がスタートします。
曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音画面(録音中)



4. 演奏が終わったら、[REC]ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、ソングを保存するための画面が表示されます。

NOTE

右手を録音したあと左手を録音して1曲に仕上げたい場合は、「トラックを指定してMIDI録音する」(55ページ)をご覧ください。

メトロノーム/リズムを使う

メトロノーム/リズムを鳴らしながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。またリズム再生は、録音モードに入ったあとに行なってください。リズム再生中に録音モードに入ると、リズムが停止してしまいます。

NOTE

音量バランス「ソング - 鍵盤」(50ページ)は記録(録音)されません。

NOTE

MIDI録音の場合、自動的に右手パート(トラック1)が指定されますが、デュアル/スプリット/デュオ/リズムを使った録音では、指定されたトラックと実際に録音されるトラックが異なります。詳しくは「トラックの割り当て」(55ページ)をご覧ください。

モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、録音できる状態のことを「録音モード」と呼んでいます。

NOTE

[REC]ボタンを長めに押しと、録音のためのソングを選ぶリストが表示されます。この画面が表示された場合は、57ページの表をご参照のうえ、「新規ソング」を選んで[>]ボタンを押してください。

NOTE

リズムが選択されている状態で[RHYTHM]ボタンを押して、リズム再生と同時に録音をスタートさせることもできます。

5. 録音した演奏を保存するかどうか、確認画面で選びます。

- 録音した演奏を保存する場合は、「保存」を選び、[>]ボタンを押します。
- 保存せず、録音をやり直す場合は、[^]/[V]ボタンで「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存しない場合は、[V]ボタンで「中止」を選び、[>]ボタンを押します。



保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、ソング画面に戻ります。新規ソングの場合は自動的に「USERSONGxxx」（xxxは数字）という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリーの中に保存されます。

6. ^{プレイ}[PLAY/PAUSE]^{ポーズ}ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

MIDI録音で記録されるデータの種類

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- ボイス選択
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- リバーブのかかり具合「リバーブデプス」
- コーラスのかかり具合「コーラスデプス」
- エフェクトのかかり具合「エフェクトデプス」
- 音の明るさ「ブライトネス」
- レゾナンス効果の設定「ハーモニックコンテンツ」
- ボイスのオクターブ設定
- ボイスごとの音量の設定
- ボイスごとの左右の音の位置の設定「パン」
- 2つのボイスの音の高さをずらす微調整(デュアルのみ)「デチューン」
- ボイスごとのタッチに対する音量変化度合の設定「タッチセンス」

全パートで共通に録音されるデータ

- 音律
- テンポ
- 拍子
- リバーブタイプ
- コーラスタイプ
- エフェクトタイプ

注記

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

ソング名を変更する

録音した曲は自動的に名前が付けられますが、好きな名前に変更することができます(68ページ)。

NOTE

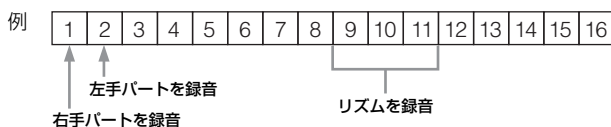
ノートデータ、ペダル操作、オクターブ設定、および拍子は、録音後に変更できません。

トラックを指定してMIDI録音する

MIDI

MIDI録音では、全部で16トラックで構成されるMIDIソングを、1トラックずつ録音して作り上げることができます。

たとえば、ピアノ曲の場合、右手部分をトラック1に録音したあと、左手部分をトラック2に録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、リズム(打楽器音のみ)を先に録音しておき、あとでリズムを聞きながらトラック1にメロディーを録音することもできます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音することで、1つの曲に仕上げることができます。



本体に録音済みのMIDIソングに追加録音する場合：

「簡単にMIDI録音する」の手順1を行なったあと、追加録音したいMIDIソングを選びます(43ページ 手順1～4)。

[REC]ボタン1秒以上押し、録音対象となるソングのリストを表示させ、追加録音したいMIDIソングを選んで[>]ボタンを押してから、下記手順2に進みます。

1. 「簡単にMIDI録音する」(53ページ)の手順1～2と同じ方法で、録音の準備をします。
2. [<]/[>]ボタンで録音トラックを指定します。

リズムは追加録音できません。リズムを録音する場合は、必ず、最初に録音してください。


- 右手部分を録音したいときは、「R」を選びます。
- 左手部分を録音したいときは、「L」を選びます。
- トラック3～16のいずれかを指定したいときは、[<]/[>]ボタンを何度か押してトラック(Extra 3～16)を指定します。最初にリズムを録音した場合は、トラック9～11のいずれか、またはすべてにリズムが録音されていますので、それ以外のトラックを指定します。


トラックのデータの有無：

トラックに録音済みのデータがあるかどうかは、トラック名の右上に表示されるマークで確認できます。



トラックのデータの有無：

：データあり

：データなし

NOTE

USBフラッシュメモリーに録音したい場合や、USBフラッシュメモリー上のソングに追加録音したい場合は、「USBフラッシュメモリーにMIDI録音する」(57ページ)をご覧ください。

NOTE

リズムのベース音は、いずれかの鍵盤を弾かないと鳴らないため、ベース音を録音したい場合は、必ず鍵盤を弾きながら録音してください。

トラックの割り当て

- リズムを録音するときは、トラックを指定できません。トラック9～11に録音されます。
- デュアル/スプリット/デュオがオンのとき、指定したトラックに入るのは、デュアルの第1ボイス、スプリット/デュアルの右側のボイスのみです。デュアルの第2ボイスは、指定したトラックに6を足した番号のトラック、スプリットおよびデュオの左側のボイスは、指定したトラックに3を足した番号のトラックに入ります。16を超えた場合は、折り返して数えます。

注記

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

3. 録音をスタートさせます。

鍵盤を弾くと、録音がスタートします。

リズムを最初に録音する場合は、[RHYTHM]ボタンを押して録音をスタートさせます。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。

4. 演奏が終わったら、^{レック}[REC]ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、ソングを保存するための画面が表示されます。

5. 録音した演奏を保存するかどうか、確認画面で選びます。

- 録音した演奏を保存する場合は、「保存」を選び、[>]ボタンを押します。
- 保存せず、録音をやり直す場合は、[^]/[v]ボタンで「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存しない場合は、[v]ボタンで「中止」を選び、[>]ボタンを押します。



保存が終わると、「保存が完了しました」のメッセージが表示され、ソング画面に戻ります。新規ソングの場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリーの中に保存されます。

6. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

7. 追加録音のためにもう一度録音モードに入ります。

7-1. ^{レック} [REC] ボタンを1秒以上押します。

録音対象のソングがリスト表示されます。

7-2. [v]ボタンを押して、手順5で保存したMIDIソング(一番下に表示)を選び、[>]ボタンを押します。



トラックに録音済みのデータがあるかどうかは、55ページ手順2の「トラックデータの有無」をご覧ください。

8. 手順2～6の方法で、別の空トラックに演奏を追加で録音していきましょう。

手順2で録音していないトラックを選び、手順3で[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音済みのトラックを聞きながら録音しましょう。

注記

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり、電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

NOTE

録音した演奏を保存したあとに、録音をやり直したい場合は、「部分的に録音し直す」(59ページ)をご覧ください。

ソング名を変更する

録音した曲は、自動的に名前が付けられますが、好きな名前に変更することができます(68ページ)。

注記

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

USBフラッシュメモリーにMIDI録音する

MIDI

空のソングファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDIソングに追加録音する方法です。

1. USBフラッシュメモリーを楽器の[] (USB TO DEVICE) 端子に接続します。

2. 録音のためのMIDIソングを選び、録音モードに入ります。

2-1. 録音済みのソングに追加録音したい場合は、録音済みのMIDIソングをUSBフラッシュメモリーから選びます(43ページの手順1～4)。空のソングに録音したい場合にはこの操作は不要です。

2-2. [REC]ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示させます。



2-3. 録音のためのソングとして、「新規ソング (USB)」か、手順2-1で選んだMIDIソング(リストの一番下)を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

録音モードに入ります。

録音のためのソング	説明
新規ソング	演奏データを、本体内部に新規MIDIソングとして保存する場合に選びます。
新規ソング(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規MIDIソングとして保存する場合に選びます。
新規オーディオ(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規オーディオソングとして保存する場合に選びます。
xxxxxx (手順2-1で選んだMIDIソング名)**	録音済みのMIDIソングに追加録音/上書き録音する場合に選びます。

* USBフラッシュメモリー接続時のみ選べます。

** 手順2-1でMIDIソングを選んでいない場合や、内蔵曲/プロテクトソングを選んでいた場合は表示されません。

3. 録音して保存します。

録音済みのソングに追加録音したい場合/空のソングにトラック指定をして録音したい場合：

このあとの手順は、「トラックを指定してMIDI録音する」(55ページ)の手順2～8と同様です。

空のソングに簡単録音したい場合：

このあとの手順は、「簡単にMIDI録音する」(53ページ)の手順3～6と同様です。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(71ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。

システムメニュー画面：「ユーザーリティ」→「USBプロパティ」(95ページ)

注記

既存のMIDIソングを選んで、データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。


NOTE

既存のMIDIソングに上書き/追加録音する場合は、選んだソングの拍子とテンポに自動で設定されます。

USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する

オーディオ

ここではオーディオ録音の方法を説明します。オーディオファイルはUSBフラッシュメモリーにしか保存できませんので、録音を始める前にUSBフラッシュメモリーを準備してください。

1. USBフラッシュメモリーを楽器の[トウ デバイスに接続します。
2. [REC]^{レック}ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示させます。
3. [^]/[v]ボタンで「新規オーディオ(USB)」を選び、[>]ボタンを押します。
4. このあとの手順は、「簡単にMIDI録音する」(53ページ)の手順3~6と同様です。

録音画面には、録音の経過時間が表示されます。



オーディオ録音の場合、鍵盤演奏だけでなく、コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器からのオーディオ入力音([AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子、無線LAN、Bluetoothでの接続)も録音されます。外部機器との接続方法は、69ページをご覧ください。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(71ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。

システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「USBプロパティ」(95ページ)

NOTE

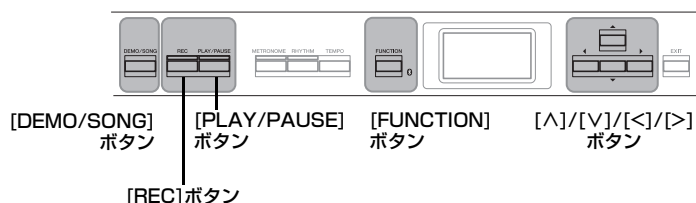
オーディオ形式での録音の場合、ボイスパートの音量(85ページ)が初期設定よりも大きいと、音がひずむことがあります。ボイスパートの音量を変更してある場合は、録音をスタートする前に初期設定の値以下にしてください。

そのほかの録音方法とテクニック

部分的に録音し直す

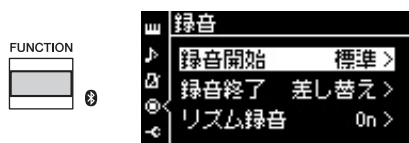
MIDI

MIDIソングは部分的に録音し直すことができます。ご自分で録音したMIDIソングの編集などにお使いください。



1. 録音開始/終了方法を選びます。

- 1-1. 録音メニュー画面が表示されるまで、^{ファンクション}[FUNCTION] ボタンを何度か押します。



- 1-2. [^]/[V] ボタンを押して、「録音開始」（録音開始方法）を選び、[>] ボタンで設定を選びます。

- 標準
録音開始以降のデータを消します。
- 押鍵
録音を開始しても、最初に鍵盤を弾くまでのデータは消えません。

- 1-3. [^]/[V] ボタンで「録音終了」（録音終了方法）を選び、[>] ボタンで設定を選びます。

- 差し替え
録音終了以降にあった元のデータを消します。
- パンチアウト
録音終了以降にある元のデータは消えません。

2. ^{デモ}[DEMO/SONG] ボタンを押して、^{ソング}ソングカテゴリリストを表示させます。

3. 録音し直すMIDIソングを選びます。

選びかたは、43ページをご覧ください。

4. 録音開始をしたい場所を指定します。

[<]/[>]ボタンを押して再生位置を移動するか、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して演奏を再生して、録音し直したい場所の手前でもう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

必要に応じて、変更したい内容(ボイスやそのほかの設定)を選び直します。
先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

5. [REC]ボタンを1秒以上押したあと、手順3で選んだソングを選び、[>]ボタンを押します。

6. [<]/[>]ボタンで書き換えをしたいトラックを選びます。

7. 演奏を始める、または[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音を開始します。

8. [REC]ボタンを押して、録音を終了します。

9. 54ページの手順5に従って、録音した演奏を上書き保存します。

10. [PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音した演奏を再生します。

NOTE

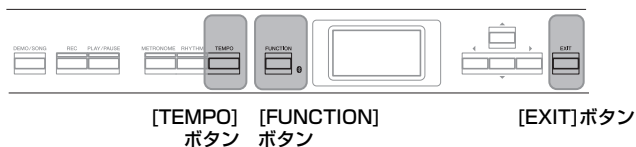
部分的に録音し直す場合、拍子は変更できません。

録音後にテンポやボイスなどを変更する

MIDI

MIDIソングは、録音を終えたあとでも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、録音したあとでボイスを変更して違った雰囲気曲にしたり、適切なテンポに調節したりできます。曲の途中からの変更もできます。

テンポの変更



1. 変更するソングを選びます。

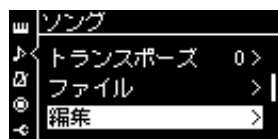
選びかたは、43ページをご覧ください。

2. ^{テンポ}[TEMPO]ボタンを押してテンポ画面を表示させ、テンポを設定します。

設定方法は39ページをご覧ください。

3. ^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

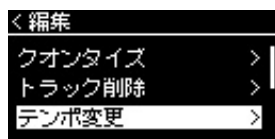
ソングメニュー画面



3-1. [^]/[V]ボタンで「編集」を選択

3-2. [>]ボタンで次へ

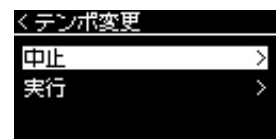
編集画面



3-3. [^]/[V]ボタンで「テンポ変更」を選択

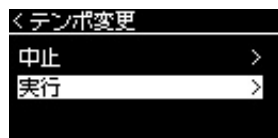
3-4. [>]ボタンで次へ

テンポ変更画面



4. 選んだテンポで上書きします。

[V]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にテンポ変更画面に戻ります。

5. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してソングメニュー画面から抜けます。

ボイスの変更

1. 変更するソングを選びます。

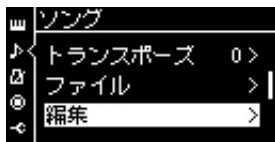
選びかたは、43ページをご覧ください。

2. 変更したいボイスを選びます。

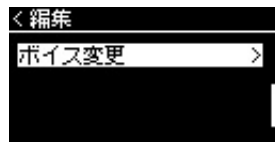
選びかたは、20ページをご覧ください。

3. ファンクション [FUNCTION] ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

ソングメニュー画面



編集画面



ボイス変更画面



3-1. [△]/[▽]ボタンで「編集」を選択

3-2. [▷]ボタンで次へ

3-3. [△]/[▽]ボタンで「ボイス変更」を選択

3-4. [▷]ボタンで次へ

4. [▷]ボタンを押して設定画面を表示させ、[△]/[▽]ボタンでボイスを変更したいトラックを選びます。

5. 手順2で選んだボイスで上書きします。

[<]ボタンを押して1つ前の画面に戻ります。[▽]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[▷]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス変更画面に戻ります。

6. エグジット [EXIT] ボタンを押してソングメニュー画面から抜けます。

ソングファイルを操作する

ソングメニュー画面(89ページ)の「ファイル」項目を選ぶと、市販のミュージックデータ、ご自分で録音したソングなどの既存のソングファイルに関する操作ができます。

USBフラッシュメモリーをご使用になる場合は、事前に「USB機器を接続する[](USB TO DEVICE)端子」(71ページ)をお読みください。

操作	表示	ページ
ソングを削除する	削除	64、65ページ
ソングをコピーする	* コピー	64、65ページ
ソングを移動する	* 移動	64、66ページ
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する	* オーディオ変換	64、67ページ
ソング名を変更する	名前の変更	64、68ページ

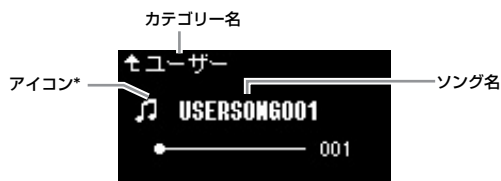
* が付いている項目は、MIDIソングが選ばれているときにのみ有効です。

ファイルとは

あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものです。ソングデータをソング名単位でソングファイルと言います。

ソングの種類とファイル操作の制限

ソング画面には、ソングの種類を示すカテゴリ名やアイコンが表示されます。ソングの種類によって、ファイル操作に下記のとおり制限があります。



* アイコンは、「ユーザー」および「USB」カテゴリのソングに表示されます。

プロテクトがかかったソングの制限


市販のミュージックデータ(ソング)の中には、コピー防止や誤消去防止のためにプロテクトがかかっているものがあります。プロテクトソングの保存には、動作確認済みのUSB記憶装置をお使いください。動作確認済みのUSB記憶装置は、「USB機器を接続する」(71ページ)に記載されたURLでご確認いただけます。

保存場所	カテゴリ	ソングの種類	アイコン	ソングを削除する	ソング名を変更する	ソングをコピーする	ソングを移動する	MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する
				×	○	×	○	○
本体	デモ	本体のボイスデモ	—	×	×	×	×	×
	クラシック50選	本体のピアノ50曲	—	×	×	×	×	×
	ユーザー	録音曲(MIDI)	🎵	○	○	○	○	○
		プロテクトがかかったソング	🔒	○	○	×	×	×
		ヤマハ独自のプロテクトがかかったソング	🔒*	○	○	×	○	×
USBフラッシュメモリー	USB	MIDIソング	🎵	○	○	○	○	○
		Audioソング	🎧	○	○	×	×	×
		プロテクトがかかったソング	🔒	×	×	○	×	×
		ヤマハ独自のプロテクトがかかったソング	🔒	○	○	×	○	×

* ヤマハ独自のプロテクトがかかったソングと、それを編集し、保存したソングの2種類があります。編集し、保存したソングは編集元のソングと同じフォルダーの中においてください。同じフォルダーの中に編集元のソングがないと、再生できません。

ソングファイルの基本操作




ソングファイルの操作は以下の手順で行ないます。

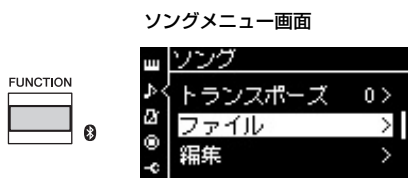
1. 必要に応じて、USBフラッシュメモリーを[](USB トウ デバイス TO DEVICE)端子に接続してください。



2. ファイル操作の対象となるソングを選びます。

ソングの選びかたは、「ソングを再生する」(43ページ)をご覧ください。

3. ファイル操作モードに入ります。

3-1. [FUNCTION]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、[]/[]ボタンで「ファイル」を選んで、[]ボタンを押します。



3-2. []/[]ボタンで設定したい項目を「削除」、「コピー」、「移動」、「オーディオ変換」、「名前の変更」のいずれかから選びます。

例 ソング名を変更する場合



これ以降、操作を中止してファイル操作モードから抜けるには[EXIT]ボタンを押します。

4. 操作を実行します。

ここでの操作は、該当する項目の手順を参照してください。

- 削除 65ページ
- コピー 65ページ
- 移動 66ページ
- オーディオ変換 67ページ
- 名前の変更 68ページ

操作中、画面にメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。その意味や対処の方法については、104ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

5. []ボタンを押して、ファイル操作モードを抜けます。

注記

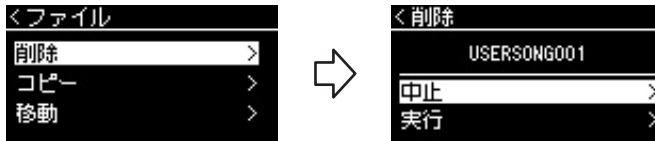
ファイル操作中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBフラッシュメモリーを外さないでください。USBフラッシュメモリーや楽器本体のデータが壊れたりするおそれがあります。

ソングを削除する

ソングを1曲ずつ削除します。
削除できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。
手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「削除」を選び、[>]ボタンを押して設定画面を表示させます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

ソング削除後、ソングのリスト画面が表示されます。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

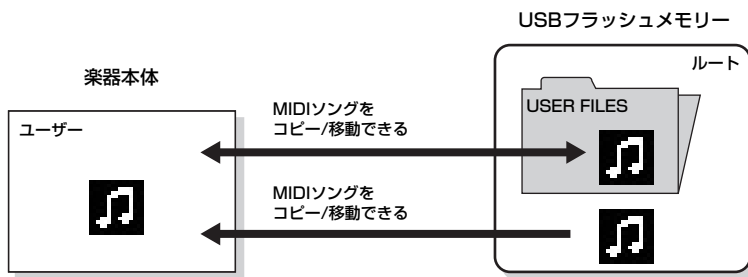
ソングをコピーする

コピーできるソングの種類は、63ページを確認してください。

コピー / 移動できる範囲

楽器本体の「ユーザー」にあるMIDIソングは、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダーへのみコピー / 移動できます。この場合「USER FILES」フォルダーの指定は自動的に行なわれますので、ご自分で指定する必要はありません。

USBフラッシュメモリー内のMIDIソングは、楽器本体の「ユーザー」へコピー / 移動できます。



基本操作は、64ページをご覧ください。
手順4の操作は次のページにあります。

USER FILESフォルダー

USBフラッシュメモリーをこの楽器で初期化したり、この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、USBフラッシュメモリーの中に自動的に「USER FILES」という名前のフォルダーが作られ、その中にデータが保存されます。

NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。

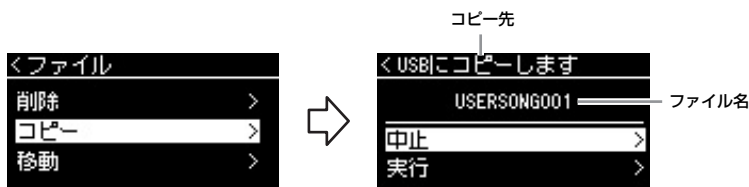
NOTE

フォルダーはコピーできません。

ルートとは

階層構造のいちばん上の部分を表わします。フォルダーに入っていない領域のことです。

4-1. 「コピー」を選び、[>]ボタンを押して設定画面を表示させます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

ソングがコピーされ、ソングのリスト画面が表示されます。コピー先のファイル名は、コピー元のファイル名と同じになります。

コピー先：

コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBにコピーします」、楽器本体の場合は「ユーザーにコピーします」と表示されます。コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーされます。

NOTE

コピー先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、コピー先のファイルのデータはすべて消去され、コピー元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

ソングを移動する

移動できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。

手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「移動」を選び、[>]ボタンを押して設定画面を表示させます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

ソングが移動され、ソングのリスト画面が表示されます。

移動先

移動先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBに移動します」、楽器本体の場合は「ユーザーに移動します」と表示されます。移動先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動されます。

NOTE

移動先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、移動先のファイルのデータはすべて消去され、移動元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

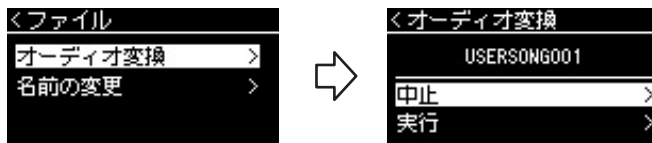
「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する

楽器本体の「ユーザー」や、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内のMIDIソングを、オーディオソングに変換できます。変換したソングは、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内にしか保存できませんので、USBフラッシュメモリーを楽器に接続してから変換を実行します。変換できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。
手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「オーディオ変換」を選び、[>]ボタンを押して設定画面を表示させます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

オーディオ変換がスタートし、ソングが再生されます。オーディオ変換中は、オーディオ録音(52ページ)と同じ状態のため、鍵盤演奏や、コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器からのオーディオ入力音も、一緒に録音されます。変換が終わると「オーディオ変換しました」と表示され、数秒後に、ソングのリスト画面に戻ります。

変換して保存したオーディオソングのソング名は、元のMIDIソングと同じソング名になります。ただし、変換後のオーディオソングは、楽器の画面で、ソング名左横に表示されるアイコンが変わります(63ページ)。また、コンピューター上では、ソングファイルの拡張子が「.wav」に変わります。

NOTE

- 変換しても、MIDIソングは元の保存場所にそのまま残ります。
- USBフラッシュメモリーを接続せずに、オーディオ変換を実行しようとする、エラーメッセージが表示されます。

注記

変換中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。変換中のデータが失われます。

NOTE

保存先に同じ名前のファイルがある場合は、上書き確認画面が表示されます。変換を続けるには[△]/[V]ボタンで「上書き」を選び、[>]ボタンを押します。

NOTE

実行中に[EXIT]ボタンを押すと、変換を中止します。中止した場合、変換内容は保存されません。

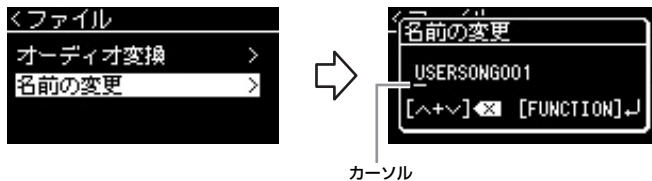
ソング名を変更する

名前を変更できるソングの種類は、63ページを確認してください。

基本操作は、64ページをご覧ください。

手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「名前の変更」を選び、[>]ボタンを押して設定画面を表示させます。



4-2. ソング名を付けます。

[<]/[>]ボタンでカーソル(下線)を移動します。

[^]/[>]ボタンでカーソルの位置の文字を変更します。同時押しで文字が削除されます。

最大46文字のソング名を付けられます。画面からはみだした文字は、[<]/[>]ボタンでカーソルを移動し、順次表示させることができます。

4-3. ^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを押して実行します。

ソング名変更後、ソングのリスト画面が表示されます。名前を変更したソングが選ばれています。

NOTE

ソング名に使用できる文字の種類は、システムメニュー画面：「ユーザーリテリ」→「言語設定」(96ページ)でご確認ください。

注記

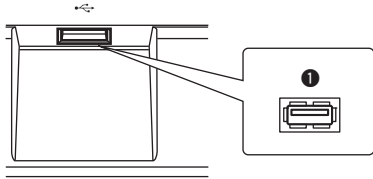
「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

他の機器と接続する

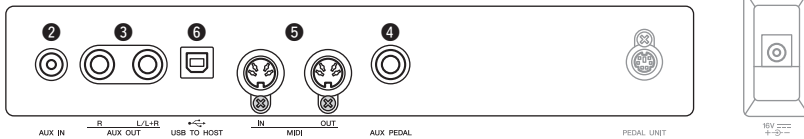
端子について

端子の位置は「各部の名前と機能」(10ページ)でご確認ください。

本体パネル



本体背面パネル



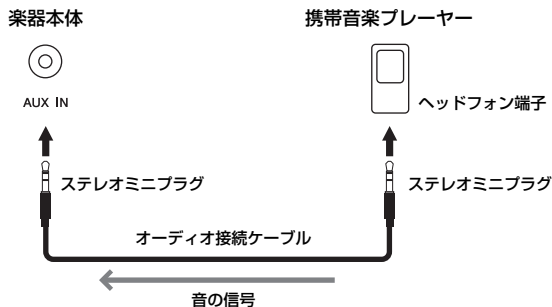
① [トウ デバイス] (USE TO DEVICE) 端子

USBフラッシュメモリーや、USB無線LANアダプターを使ってiPhone/iPadなどのスマートデバイスを接続する端子です。

詳しくは「USB機器を接続する」(71ページ)と、「コンピューターやスマートデバイスと接続する」(72ページ)をご覧ください。

② [AUX IN] 端子

楽器本体の[AUX IN]端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドフォン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を鳴らせます。



⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

NOTE

[PEDAL UNIT] 端子と [DC IN] 端子については、「各部の名前と機能」(10ページ)をご覧ください。

NOTE

この楽器のUSB端子には、[USB TO HOST] 端子と [USE TO DEVICE] (USB TO DEVICE) 端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。(端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。)

注記

楽器本体の[AUX IN]端子を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、外部機器 → 楽器の順に、電源を切るときは、楽器 → 外部機器の順に行なってください。

NOTE

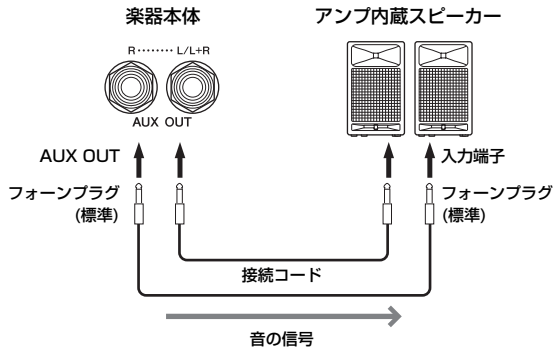
[AUX IN] 端子からの入力音は、楽器の[MASTER VOLUME]スライダーで音量調節できます。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

③ AUX OUT [R][L/L+R]端子

楽器にアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。接続コードを使って図のように接続します。



AUX OUT端子に出力される音量は、楽器の[MASTER VOLUME]スライダーで調節できます。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、「スピーカー」の設定をオフにしてください。設定はシステムメニュー画面：「ユーティリティ」→「スピーカー」(96ページ)で行ないます。

④ [AUX PEDAL]端子

[AUX PEDAL]端子に付属のフットスイッチ(FC4A)や別売のフットペダル(FC3A)、フットスイッチ(FC5)を接続すると、足を使ってさまざまな機能をコントロールできます。割り当てられる機能について詳しくは、「ペダル機能リスト」(87ページ)をご覧ください。機能の設定は、システムメニュー画面の「ペダル」→「Auxペダル」の機能と範囲で行ないます(94ページ)。

⑤ MIDI [IN][OUT]端子

シンセサイザーやシーケンサーなどのMIDI機器を接続する端子です。詳しくは「外部MIDI機器と接続する」(76ページ)をご覧ください。

⑥ [USB TO HOST]端子

コンピューターやiPhone/iPadなどのスマートデバイスを接続する端子です。詳しくは「コンピューターやスマートデバイスと接続する」(72ページ)をご覧ください。

NOTE

モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合には、[L/L+R]端子をご使用ください)。

注記

- 楽器本体のAUX OUT端子を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、楽器本体 → 外部機器(アンプ内蔵スピーカーなど)の順に、電源を切るときは、外部機器 → 楽器本体の順に行なってください。オートパワーオフ機能(13、96ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- AUX OUT端子から出力した音を、[AUX IN]端子に戻さないでください(AUX OUT端子と外部オーディオ機器を接続した場合は、その機器の音声出力をこの楽器の[AUX IN]端子に接続しないでください)。この楽器の[AUX IN]端子から入力された音はそのままAUX OUT端子から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

NOTE

ヘッドフォンを接続してAUX OUT端子の出力音をモニターする場合は、バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオブティマイザーをオフにすることをおすすめします。詳しくは15ページをご覧ください。

NOTE

- フットスイッチ/フットペダルの抜き差しは、この楽器の電源を切った状態で行なってください。
- フットスイッチ/フットペダルを踏みながら電源を入れないでください。踏みながら電源を入れると、オン/オフが逆になります。

USB機器を接続する([↔])(USB TO DEVICE)端子

[↔](USB TO DEVICE)端子には、USBフラッシュメモリーや別売のUSB無線LANアダプターを接続します。楽器本体とUSBフラッシュメモリーでデータをやりとりしたり(63、99ページ)、別売のUSB無線LANアダプターを使ってスマートデバイスと無線通信(72ページ)したりできます。

USB TO DEVICE端子ご使用上の注意

本機にはUSB TO DEVICE端子があります。USB TO DEVICE端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USBハブ
- USB無線LANアダプター (UD-WL01)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前に、下記ウェブサイトでご確認ください。

サポート・お問い合わせ <https://jp.yamaha.com/support/>

「資料/データ」を選択後、モデル名を入力するとリストをダウンロードできます。

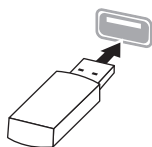
本機では、USB2.0～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。本機ではUSB1.1は使用できません。

注記

USB TO DEVICE端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

USB TO DEVICE端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。

NOTE

- 1つのUSB TO DEVICE端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、USBハブを使います。USBハブをパスワードでお使いください。USBハブは1台のみ使用可能です。USBハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSBハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USBハブを接続してください。

注記

USB機器の接続にはケーブルは使用できません。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で作成したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台までです。(USBハブを使用した場合でも、同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは1台までです。)

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(95ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

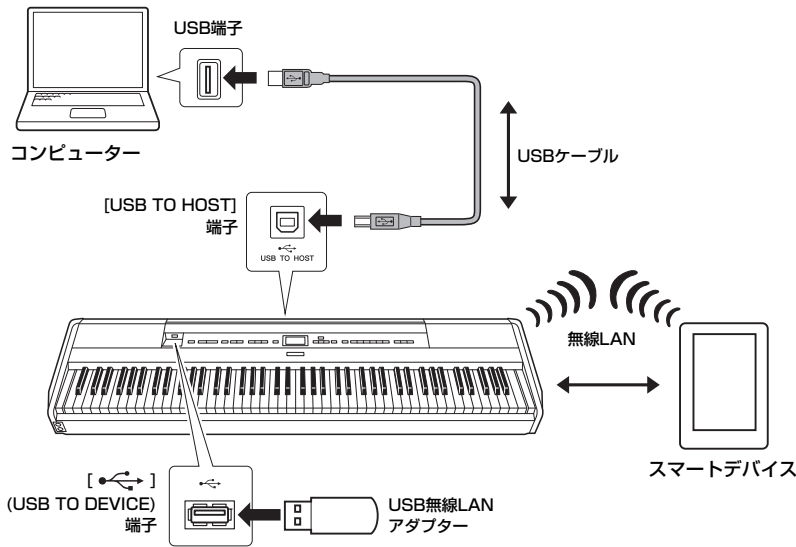
■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

コンピューターやスマートデバイスと接続する([USB TO HOST]端子、[↔](USB TO DEVICE)端子、MIDI端子)

楽器をコンピューターやiPhone/iPadなどのスマートデバイスと接続すると、楽しみ方や使える機能が広がります。接続してできることは、77ページをご覧ください。

[接続例]



接続方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」や「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」を使う場合は、アプリの接続ウィザードにより、接続方法を確認できます(79ページ)。

無線LAN接続をする (UD-WL01を使った接続)

別売のUSB無線LANアダプター UD-WL01を使ってスマートデバイスと接続する場合、「スマートデバイス接続マニュアル」に沿って操作を進めると、「ネットワーク一覧から選んで接続する」、「WPSによる接続」、「手動接続」、「アクセスポイントモードによる接続」のいずれかの設定が楽器側で必要になります。本書の73~76ページをご覧ください、必要な操作を行なってください。

注記

- USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(80ページ)。
- コンピューターやスマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。

NOTE

- 楽器をコンピューターやスマートデバイスとUSB ケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- [↔](USB TO DEVICE)端子を使う前に、「[USB機器を接続する】(71ページ)をお読みください。
- 使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- オーディオデータの送受信をWindows搭載のコンピューターで行なう場合は、Yamaha Steinberg USB Driver をコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。
- スマートデバイスを楽器の近くで使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、電波を発しない状態に設定(例: 機内モードをオンに設定)してお使いいただくことをおすすめします。
- 楽器本体は、コンピューターやスマートデバイスとの接続後しばらくしてから通信を開始します。

■ ネットワーク一覧から選んで接続する

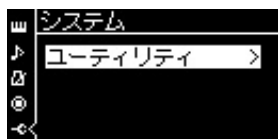
必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[](USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

NOTE

無線LAN画面での表示項目が異なる場合は、楽器がアクセスポイントモードになっています。75ページの手順1で、「インフラストラクチャーモード」に設定してください。

1. **ファンクション** [FUNCTION] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



- 1-1. [^]/[V]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



- 1-3. [^]/[V]ボタンで「無線LAN」を選択
- 1-4. [>]ボタンで次へ

無線LAN画面



- 1-5. [^]/[V]ボタンで「ネットワーク選択」を選択

2. [>] ボタンを押して、楽器近くにあるネットワーク一覧を画面に表示させます。

セキュリティが設定されているネットワークには鍵アイコン()が表示されます。



NOTE

楽器に電波が届いていない場合やSSIDを非公開にしているネットワークは、一覧に表示されません。

3. 楽器本体をネットワークに接続します。

- 3-1. お使いになるネットワークを選択し、[>] ボタンを押します。
選んだネットワーク名全体が表示されますので、目的のネットワークであることを確認します。

- 3-2. [>] ボタンを押します。

- 鍵アイコンが付いていないネットワークの場合：
接続が開始されます。
- 鍵アイコンが付いているネットワークの場合：
パスワード入力画面が表示されますので、パスワードを入力してください。入力方法は、「ソング名を変更する」(68ページ)のソング名の付け方と同じです。入力が終わったら[FUNCTION] ボタンを押して確定します。すると接続が自動的に開始されます。
接続に成功すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に「ネットワーク選択」画面に戻ります。

4. スマートデバイスをネットワークに接続します。

スマートデバイスの設定方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

■ WPSによる接続

お使いのアクセスポイントがWPSに対応している場合は、パスワードなどの設定をすることなく、簡単に楽器をアクセスポイントに接続できます。

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[](USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

WPSによる接続を開始するには、USB無線LANアダプター (UD-WL01, 別売)のWPSボタンを3秒以上押します。楽器の画面に「アクセスポイントのWPSボタンを押してください」と表示されたら、2分以内にお使いのアクセスポイント側のWPSボタンを押します。WPSによる接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス画面が表示されます。

そのあと、スマートデバイスをネットワークに接続します。スマートデバイスの設定方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

■ 手動接続

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[](USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. 「ネットワーク一覧から選んで接続する」(73ページ)の手順1、2を行ない、楽器の画面に「ネットワーク選択」を表示させます。



2. ネットワーク一覧の一番下の「その他」を選んで[>]ボタンを押します。
3. 「SSID」、「セキュリティ」、「パスワード」を順に設定します。



- 3-1. 「SSID」を選んで[>]ボタンを押すと、入力画面が表示されますので、アクセスポイントとしてのSSIDを入力します。
入力方法は、「ソング名を変更する」(68ページ)のソング名の付け方と同じです。入力が終わったら、[FUNCTION]ボタンを押して確定します。自動的に「その他」画面に戻ります。
- 3-2. 「セキュリティ」を選んで[>]ボタンを押して、セキュリティのリストを表示させ、[A]/[V]ボタンでセキュリティの種類を選んでから[<]ボタンでその他画面に戻ります。
- 3-3. 「パスワード」はSSIDと同様の方法で設定します。

NOTE

楽器が以下の状態のとき、WPSボタンによる接続はできません。

- ・デモモード中、ソング再生/一時停止/録音中。
- ・システムメニュー画面の「無線LANオプション」の「無線LANモード」がアクセスポイントモードに設定されている。

4. 手順3の画面で、一番下の項目「接続」を選び、[>]ボタンを押すと、自動で接続を開始します。

接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、ネットワーク選択画面に戻ります。

5. スマートデバイスをネットワークに接続します。

スマートデバイスの設定方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

■ アクセスポイントモードによる接続

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[](USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

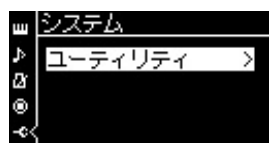
NOTE

インターネットや他の無線機器と通信はできません。

1. 楽器をアクセスポイントモードに切り替えます。

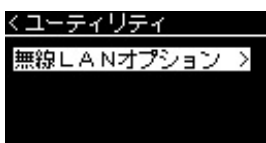
[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



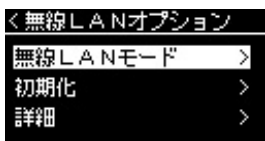
- 1-1. [^]/[V]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



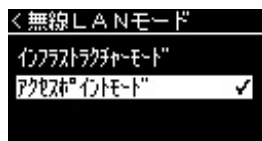
- 1-3. [^]/[V]ボタンで「無線LANオプション」を選択
- 1-4. [>]ボタンで次へ

無線LANオプション画面



- 1-5. [^]/[V]ボタンで「無線LANモード」を選択
- 1-6. [>]ボタンで次へ

無線LANモード画面



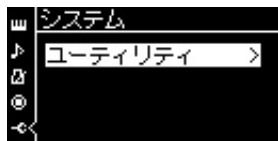
- 1-7. [^]/[V]ボタンで「アクセスポイントモード」を選択

完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に無線LANモード画面に戻ります。

2. 無線LAN項目のSSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

2-1. システムメニュー画面で、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



ユーティリティ画面



無線LAN画面



2-2. SSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

各項目を選び、[>]ボタンを押して入力画面や選択画面を表示させ、入力、選択を行いません。入力方法とセキュリティの選択方法は、手動接続の手順3と同様です。それぞれの項目の設定範囲については、98ページの表をご覧ください。

3. 設定を保存します。

無線LAN画面の一番下の項目「保存」を選び、[>]ボタンを押すと、設定の保存を開始します。保存が完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、ユーティリティ画面に戻ります。

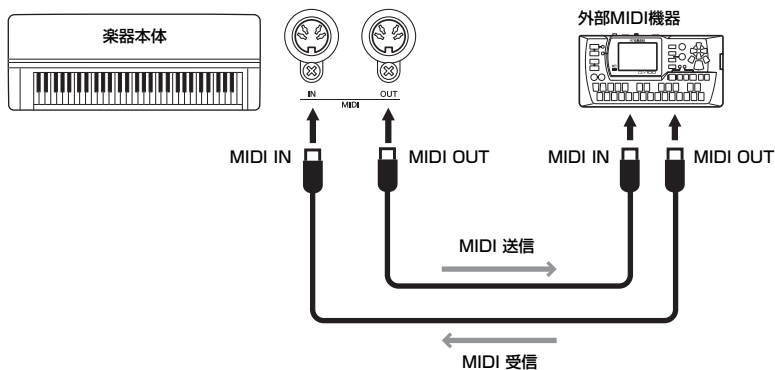
4. スマートデバイスと楽器(アクセスポイント)を接続します。

スマートデバイスの設定方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)

MIDIケーブルを使って、楽器本体と外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

- MIDI [IN] : MIDIデータを受信する端子です。
- MIDI [OUT] : MIDIデータを送信する端子です。



注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

NOTE

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるMIDIデータだけが送受信できることになります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、ウェブサイト(2ページ)上の「MIDIリファレンス」をご覧ください。

コンピューターやスマートデバイスを活用する

コンピューターやスマートデバイスと接続すると、次のようなことができます。

接続してできること

- スマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らす (*Bluetooth* オーディオ機能/ 77 ページ)
- スマートデバイスアプリを使う (79ページ)
- オーディオデータを送受信する (USB オーディオインターフェース機能/ 80ページ)
- MIDI データを送受信する (76ページ)
- MIDI ソング(拡張子.mid、SMF フォーマット0 または1)やバックアップファイル(99ページ)を送受信する

スマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らす Bluetooth (Bluetoothオーディオ機能)

Bluetoothオーディオ機能を使う前に、必ず8ページの「Bluetoothについて」をお読みください。

この楽器にはBluetooth機能が搭載されています。この楽器とスマートフォンや携帯オーディオプレーヤーなどのBluetooth対応機器*を接続すると、その機器で再生するオーディオデータをこの楽器のスピーカーから鳴らせます。

この機能によるスマートデバイスから楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力するかどうかを設定できます。詳しくは、80ページの「オーディオループバックのオン/オフ」をご覧ください。

スマートデバイスとペアリングする

Bluetooth機能を使って初めて接続する場合、スマートデバイスとこの楽器をペアリングする必要があります。1度ペアリングした機器は、再度ペアリングの必要はありません。

1. ファンクション [FUNCTION] ボタンを3秒押し続けます。

画面がペアリングの待機状態になります。



ペアリングを中止するには[EXIT]ボタンを押します。

NOTE

コンピューターで、MIDI データや、MIDI ソング/バックアップファイルを送受信する方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

Bluetooth対応機器

本書におけるBluetooth対応機器とは、Bluetooth機能を使って、無線でオーディオデータを送信できる機器のことをいいます。また、この機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。

ここでは、Bluetooth対応機器の一例として、スマートデバイスを使って、Bluetoothオーディオ機能を説明します。

ペアリング

Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

注記

ペアリングした後に楽器を強制終了すると(12ページ)、ペアリングした情報が失われます。再起動後、もう一度、手順1、2を実行し、ペアリングしてください。

NOTE

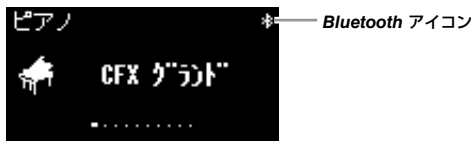
この楽器は、最大8台のスマートデバイスとペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目の機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器の情報が削除されます。

2. スマートデバイスのBluetooth機能をオンにして、接続リストからこの楽器のモデル名「P-515」を選びます。

詳しい操作方法はスマートデバイスの取扱説明書をご覧ください。

ペアリングが完了すると、「Bluetoothのペアリング中です」の表示が消え、ボイス画面やソング画面にBluetoothアイコンが表示されます。

ボイス画面



3. スマートデバイスでオーディオデータを再生し、楽器から音が出ていることを確認します。

次に楽器の電源を入れたとき、楽器とスマートデバイスのBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続したスマートデバイスと自動で接続します。自動で接続できない場合は、スマートデバイスの接続リストから再度モデル名を選択してください。

NOTE

Bluetooth機能はオフにできます。この楽器のBluetooth機能がオフのとき、[FUNCTION]ボタンを3秒押し続けても接続できません。設定をオンに切り換えてから、再度接続してください(78ページ)。

NOTE

スマートデバイス側の設定は、5分以内に行なってください。

NOTE

パスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

NOTE

スマートデバイスからの入力音は、楽器の[MASTER VOLUME]スライダーで音量調節できますが、鍵盤演奏とバランスを調整したい場合、スマートデバイスの入力音の音量をスマートデバイス側で調節してください。

NOTE

スマートデバイスとのペアリングは、システムメニュー画面からでもできます。[FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「Bluetooth」→「ペアリング」→「>」ボタンで、ペアリング待機状態になります(93ページ)。

Bluetooth機能のオン/オフを切り換える

初期設定ではBluetooth機能がオンに設定されていますが、接続を解除したいときや、もう一度接続しなおしたいときなど、楽器のBluetooth機能のオン/オフを設定できます。

1. ファンクション [FUNCTION]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

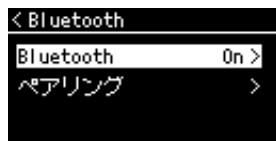
システムメニュー画面



1-1. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

1-2. [>]ボタンで次へ

Bluetooth画面



1-3. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

2. [>]ボタンを押してオン/オフを切り換えます。

設定が終わったら、[EXIT]ボタンを押して、画面から抜けます。

スマートデバイスアプリを使う

楽器に対応したスマートデバイスアプリを使うと、楽器をもっと便利に楽しめます。この楽器に対応するアプリやスマートデバイスに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。
<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

「スマートピアニスト」(無料)を使うと、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、譜面を表示したりできます。詳しくは、上記ウェブサイトの「スマートピアニスト」のページでご確認ください。

楽器とスマートデバイスの接続については、「スマートピアニスト」の接続ウィザードで、使用環境に応じた接続方法を確認できます。接続ウィザードを開始するには、「スマートピアニスト」の画面左上の「☰」(メニュー)をタップしてメニュー画面を開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

「スマートピアニスト」の接続ウィザードを利用しない場合の接続方法については、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

注記

楽器とスマートデバイスを接続した状態で、「スマートピアニスト」を起動すると、楽器の設定が「スマートピアニスト」の内容で上書きされ消えてしまいます。大切なデータは、バックアップデータとしてUSBフラッシュメモリーやコンピューターに保存しておいてください(99ページ)。

NOTE

「スマートピアニスト」の使用中は、楽器の[EXIT]ボタン以外は使えません。「スマートピアニスト」を使って操作してください。楽器の[EXIT]ボタンを押すと、「スマートピアニスト」との接続が解除され、楽器で操作できるようになります。

オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェイス機能)

USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスをUSB [TO HOST]端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェイス機能といい、たとえば次のようなことができます。

- **オーディオデータを高音質で再生**
[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。
- **録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音**
録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

オーディオループバックのオン/オフ

コンピューターやスマートデバイスから楽器へのオーディオ入力音(52ページ)を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバック)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合は、オフにします。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定は、[FUNCTION]ボタンを何度か押して、システムメニュー画面を選び、「ユーティリティ」→「オーディオループバック」(96ページ)で行ないます。

オーディオEQのオン/オフ

コンピューターやスマートデバイスから楽器へのオーディオ入力音(52ページ)や、オーディオ入力音を楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力するときの音の音質を補正(イコライザー=EQ機能)するかどうかを設定できます。この機能をオンにすると、コンピューターなどから楽器へのオーディオ入力音を再生するときに、最適なサウンドになります。逆に、そのオーディオ入力音を楽器での演奏音とともにコンピューター、スマートデバイスや外部スピーカーなどに出力するときは、この機能をオフすることをおすすめします。

設定は、[FUNCTION]ボタンを何度か押して、システムメニュー画面を選び、「ユーティリティ」→「オーディオEQ」(96ページ)で行ないます。

NOTE

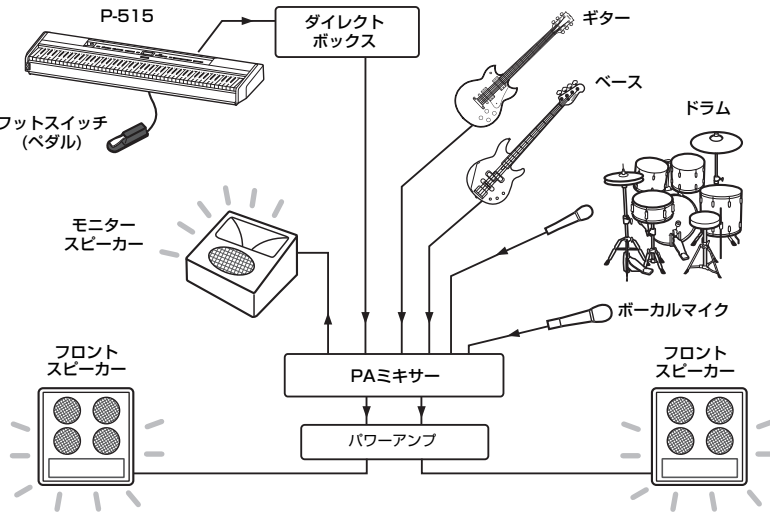
- Bluetoothオーディオ機能(77ページ)や無線LAN接続(72ページ)によるオーディオ入力音もオーディオループバックの対象です。
- 楽器へのオーディオデータの入力音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。
- オーディオソング(42ページ)の再生音は、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスに出力されますが、オフのときは出力されません。
- オーディオ録音(58ページ)する時、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。

ステージで演奏する

この楽器はライブや弾き語りなど、ステージに持ち出して演奏する際に便利な機能を装備しています。ここでは、実際にライブでこの楽器を演奏する際の接続やセッティングについて説明します。

ステージのセッティングと信号の流れ

この楽器の演奏音はPAミキサーに送られ、フロントスピーカーから客席に流されます。演奏者の足元に、自分の演奏やほかの楽器の音を聞くためのモニタースピーカーが用意されることもあります。



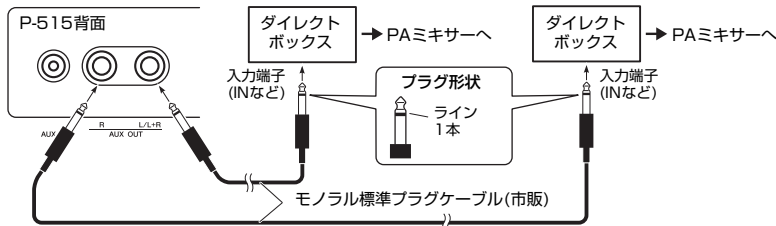
● フットスイッチ(ペダル)を接続する

フットスイッチやフットペダルの使い方については、16～17ページをご覧ください。各ペダルに割り当てられる機能については、87ページをご覧ください。

● 出力をPAミキサーに接続する

この楽器の演奏音をPAミキサーの入力端子に送ります。一般的には、ステージ上に用意されている「ダイレクトボックス」と接続します。下記手順で、この楽器のAUX OUT [L/L+R]端子、[R]端子とダイレクトボックスの入力端子とを、市販のモノラル標準プラグケーブルで接続してください。

- 1 [MASTER VOLUME]スライダーをMINにします。
- 2 PAオペレーターに接続してよいかどうか確認します。
- 3 下図のとおり、接続します。



これで接続は完了です。次に演奏時のサウンドを設定します。

注記

- 接続の前に必ずお読みください。**
- すべての接続は、電源を切った状態で行なってください。
 - ケーブルの抜き差しや電源のオン/オフをするときは、必ずPAオペレーター (PAミキサーを操作する人)に確認してください。確認せずに行なうと、PA機器を損傷するおそれがあります。

NOTE

- 楽器に接続したヘッドフォンで楽器の音をモニターしながら、外部スピーカーを接続して、ピアノボイスで演奏する場合は、「バイノーラルサンプリング」や「ステレオフォニックオプティマイザー」をオフにすることをおすすめします(15ページ)。
- ダイレクトボックスが1チャンネル分しか用意されていない場合は、AUX OUT [L/L+R]端子とダイレクトボックスをモノラル標準プラグケーブルで接続します。LとRの信号はミックスされ、モノラル出力されます。
- ダイレクトボックスがない場合は、PAミキサーやステージ上のサブミキサーの入力端子と直接接続します。

サウンドの設定

各楽器のセッティングができると、PAオペレーターから楽器(ドラム、ベース、ギター、キーボードなど)ごとに音を出すよう指示があります。音を出す準備をしておきましょう。

● この楽器の電源を入れる

この楽器の[MASTER VOLUME]スライダーをMINにし、PAオペレーターに電源を入れてよいことを確認した上で、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

● セッティングを確認する

楽器が以下の状態になっていることを確認します。

- ・音の高さが他の楽器と合っている(マスターチューニング、33ページ)。
- ・オートパワーオフ機能がオフ(無効)に設定されている(13ページ)。
- ・フットスイッチやフットペダルの機能が「サステイン(連続)」になっている(94ページ)。
- ・楽器本体のリバープがオフに設定されている。(26ページ)
一般的に、PAミキサー側でリバープをかけます。
- ・必要に応じて、楽器本体のスピーカーをオフに設定します(96ページ)。

● キーボードのサウンドを決定する

PAオペレーターからキーボードの音出しの指示があったら、実際に演奏して以下のような状況での音決めをしていきます。

- ・バックキョ演奏の際の音量
- ・ソロなど最も大きな音で演奏する際の音量
- ・使う音色ごとの音量

[MASTER VOLUME]スライダーは一番大きな音量で演奏するときでつまみ位置8~9程度、バックキョで5~7程度を目安とします。大きすぎると音がひずむ可能性があり、小さすぎるとノイズが目立ちます。

バンドの中でこの楽器の音が目立たないと感じる場合は、サウンドブースト(35ページ)をオンにすることをおすすめします。3つのサウンドブーストタイプから最適なタイプを選んでください。

また、この楽器のマスターEQ機能(36ページ)を使えば、さらに演奏に適した音に設定できます。

● バンド全体のサウンドを決定する

楽器ごとのサウンドを決定したら、バンドで曲を演奏して全体のサウンドを決定します。自分の近くにあるモニタースピーカーからの音をチェックします。自分の演奏音、ボーカル、他の楽器音など、音量のバランスで要望があれば、PAオペレーターに調整を依頼します。

これで、演奏前のセッティングは終了です。

パネルをロックして誤操作を防ぐ

演奏(本番)中に誤って本体パネル上のボタンに触れて設定が変わることを防ぐため、パネルロック機能の使用をおすすめします。この機能の詳細は、38ページをご覧ください。

[FUNCTION]ボタンを押すことにより、ボイス、ソング再生、メトロノーム、録音、楽器の全体設定に関する詳細設定画面を呼び出すことができます。

基本操作

1. 必要に応じて、ボイス設定またはソング選択を行ないます。

- ボイスに関する設定をしたい場合(ボイスメニューを呼び出す場合)は、あらかじめボイスを選択しておきます。R1/R2/Lボイス同士のバランスなど調整したい場合は、あらかじめデュアル/スプリット/デュオをオンにしておきます。
- くり返し再生などソング再生に関する設定をしたい場合は、あらかじめソングを選択しておきます。
- 録音したMIDIソングデータを編集したい場合(ソングメニューの「編集」を呼び出したい場合)は、あらかじめユーザーソングを選択しておきます。

2. ^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを何回か押してメニューを選択します。

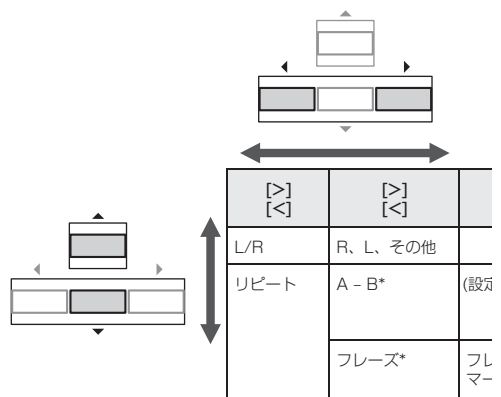
[FUNCTION]ボタンをくり返し押すと表示されるメニューが切り替わります。選んだメニューは画面上部のメニュー名と、左側のアイコンで確認できます。



- ボイスメニュー (84ページ)
- ソングメニュー (88ページ)
- メトロノーム/リズムメニュー (91ページ)
- 録音メニュー (92ページ)
- システムメニュー (93ページ)

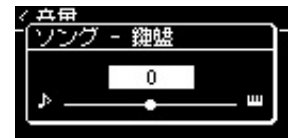
3. [↑]/[↓]/[<]/[>]ボタンを使って項目を選択します。

選んだメニューに応じて内容は異なります。各メニューの一覧表は、縦方向を[↑]/[↓]ボタンで、横方向を[<]/[>]ボタンで選択/切り換えできます。



4. 手順3で呼び出した画面上で、設定値を選択したり、機能を実行したりします。

ほとんどの画面では設定値を選びますが、ソングメニューの「編集」やシステムメニューの「バックアップ」「USBフォーマット」など一部の項目では処理を実行します。ポップアップ画面が表示された場合は、[<]/[>]ボタンで値を設定し、[EXIT]ボタンで画面を閉じてください。また設定値が2つしかない場合は(オンとオフなど)、[>]ボタンを押すたびに、2つの値を切り替えられます。



5. 設定が終わったら、^{エグジット}[EXIT]ボタンでメニュー画面から抜けます。



Ⅳ ボイスメニュー

ボイスメニューでは、ボイス(音色)をはじめとして鍵盤演奏に関する詳細設定ができます。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイス(またはボイスの組み合わせ)ごとに個別に設定できます。鍵盤を弾いて音を聞きながら数値を変更することで、お好みのサウンドを設定しましょう。なお、デュアル/スプリット/デュオのボイスを設定するときは、デュアル/スプリット/デュオをオンにしてから、操作をはじめてください。

NOTE

* が付いている項目は、デュアル/スプリット/デュオがオンの場合のみ表示されます。

各項目の呼び出し方：					
必要に応じてボイス選択やデュアル/スプリット/デュオを設定したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[>]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
トランス ボース (32ページ 参照)	(設定画面)	—	鍵盤演奏音のキーを半音単位で移調(トランスボース)します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。	0	-12(-1オクターブ)~0(標準音程)~+12(+1オクターブ)
ピアノ設定 (23~24 ページ参照)	大屋根の開閉	(設定画面)	ピアノの大屋根を開閉します。	フル	フル、ハーフ、クローズ
	VRM	—	VRMのオン/オフを設定します。VRMの機能については「VRMとは」(25ページ)をご覧ください。VRMの効果をつけられるボイスは、「ボイス一覧」(101ページ)をご覧ください。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	ダンパー レゾナンス	(設定画面)	ダンパーペダルを踏んだとき加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
	ストリング レゾナンス	(設定画面)	押鍵したとき加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
	アリコート レゾナンス	(設定画面)	アリコートの響きを調節します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
	ボディ レゾナンス	(設定画面)	響板や側板、フレームなど、ピアノ本体部の響きを調節します。「VRM」の設定がオンのときのみ効果があります。	5	0~10
キーオフ サンプリング	(設定画面)	キーオフ音(鍵盤を離れたときの微妙な発音)の音量を変えます。キーオフサンプリングの効果をつけられるボイスは、「ボイス一覧」(101ページ)を確認してください。	5	0~10	
リバーブ (26ページ 参照)	(設定画面)	—	リバーブタイプを選択します。リバーブは、鍵盤演奏、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	リバーブタイプリスト参照(87ページ)
コーラス (26ページ 参照)	(設定画面)	—	コーラスタイプを選択します。コーラスは、鍵盤演奏、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	コーラスタイプリスト参照(87ページ)

各項目の呼び出し方： 必要に応じてボイス選択やデュアル/スプリット/デュオを設定したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[>]/[<]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ボイス編集	ボイス名*	オクターブ	鍵盤音の高さをオクターブ単位で上下にシフトします。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定できます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-2 (2オクターブ下)~0 (シフトしない)~+2 (2オクターブ上)
		音量	ボイスの音量を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127
		リバーブの深さ (26ページ参照)	現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRMボイスが複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。ソング再生中はソングパートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、ソング停止時はボイスパートでの設定(優先順位: ボイス右1、ボイス左、ボイス右2)が使用されます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127
		コーラスの深さ (26ページ参照)	現在選択されているコーラスの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRMボイスが複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。ソング再生中はソングパートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、ソング停止時はボイスパートでの設定(優先順位: ボイス右1、ボイス左、ボイス右2)が使用されます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127
		エフェクト (26ページ参照)	リバーブやコーラスとは別に、鍵盤演奏のボイスに対して、個別にエフェクトタイプをかけられます。最大2つのボイスにまで設定できます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	エフェクトタイプリスト参照 (87ページ)
		ロータリー SP	エフェクトタイプとして「ロータリー」を選んだボイスにだけ有効です。ロータリースピーカーエフェクトの回転スピードを設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	速い、遅い
		パイプ ローター	エフェクトタイプとして「パイプローター」を選んだボイスにだけ有効です。パイプローター効果をかける/かけない(オン/オフ)を設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On (オン)、 Off (オフ)
		スピード	エフェクトタイプに「パイプローター」を選んだボイスにだけ有効です。ピブラフォン独特のピブラト(音揺れ)のスピードを設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	1~10
		エフェクトの深さ	エフェクト(上記)のかかり具合を、ボイスごとに設定します。エフェクトタイプの中にはかかり具合の設定ができないものがあります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	1~127
		パン	各ボイスの音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするかを、個別に設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	L64 (左寄り)~C (中央)~R63 (右寄り)
ハーモニック コンテンツ	フィルターのレゾナンス値を上げることで、音に独特のクセを付けることができます。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定できます。 NOTE ボイスによっては、効果のかかり具合がわかりにくい、もしくは効果がかけられないものがあります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-64~+63		

各項目の呼び出し方： 必要に応じてボイス選択やデュアル/スプリット/デュオを設定したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[<]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ボイス編集	ボイス名*	ブライトネス	各ボイスの明るさを個別に調整します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-64~+63
		タッチセンス	鍵盤を弾いたときの強さに対する音量変化の幅/音量の出やすさを設定します。ハーブシコードやオルガンなどのボイスは、鍵盤を弾いたときの強さによる音量変化がない楽器なので、初期設定は127(音量が一定音量)になっています。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0(音量が出にくい)~64(音量変化幅が最大)~127(音量が出やすく一定音量)
		右ペダル	ボイスごとに、右ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On(オン)、Off(オフ)
		中ペダル	ボイスごとに、中ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On(オン)、Off(オフ)
		左ペダル	ボイスごとに、左ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On(オン)、Off(オフ)
ペダル割り当て (別売のペダルユニット使用時、17ページ参照)	右ペダル	(設定画面)	右ペダルに、ダンパーペダル(サステイン)とは違う機能を割り当てます。	サステイン(連続)	ペダル機能リスト参照(87ページ)
	中ペダル	(設定画面)	中ペダルに、ソステヌートペダルとは違う機能を割り当てます。	ソステヌート	ペダル機能リスト参照(87ページ)
	左ペダル	(設定画面)	左ペダルに、ソフトペダルとは違う機能を割り当てます。	<ul style="list-style-type: none"> ジャズオルガン選択時: ロータリースピード ビブラフォン選択時: パイプローター 上記以外のボイス選択時: ソフト 	ペダル機能リスト参照(87ページ)
バランス*	音量 R2 - R1*	(設定画面)	デュアルがオンの場合は2つのボイスの音量バランスを調整します。[<]/[>]ボタンで調整後、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を閉じます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	R2+10~0~R1+10
	音量 L - R*	(設定画面)	スプリット/デュオがオンの場合の左手鍵域と右手鍵域の音量バランスを調整します。デュオがオンの場合は左右パートの音量バランスを調節します。[<]/[>]ボタンで調整後、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を閉じます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	L+10~0~R+10
	デチューン*	(設定画面)	デュアルで選択した2つのボイスのピッチ(音高)を微妙にずらすことで、音の厚みを増します。画面上でスライダーを右へ動かすほど、R1(第1ボイス)のピッチが高く、R2(第2ボイス)のピッチが低くなります。スライダーを左へ動かすほど、R1(第1ボイス)のピッチが低く、R2(第2ボイス)のピッチが高くなります。調整が終わったら、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を閉じます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	R2+20~0~R1+20

■ リバートタイプリスト

Off (オフ)	効果なし
リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響き
コンサートホール	オーケストラの公演が行なわれる大きなホールの華やかな響き
サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響き
大聖堂	天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響き
クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響き
プレート	録音スタジオで使用される往年のリバート装置の明るい響き

■ コーラスタイプリスト

Off (オフ)	効果なし
コーラス	豊かな広がりを加える効果
セレステ	うねりと広がりを加える効果
フランジャー	ジェット機の上昇、下降音のようなうねりを加える効果

■ エフェクトタイプリスト

エフェクトタイプ	効果
Off (オフ)	効果なし
ディレイLCR	左、中央、右の3つの位置でかかるディレイ(音を遅らせる)効果
ディレイLR	左右2つの位置でかかるディレイ効果
エコー	「こだま」のようなディレイ効果
クロスディレイ	左右2つのディレイを交差してかけた効果
シンフォニック	豊かで奥行きのある響きを作る効果
ロータリー	ロータリースピーカー (回転スピーカー) を使っているようなビブラト感が得られる効果
トレモロ	音量が周期的に変化する効果
バイプローター	ビブラフォン特有のビブラト
オートパン	音が左右、前後に揺れ動くような効果
フェイザー	位相を周期的に変化させ、音にうねりを持たせる効果
オートワウ	ワウフィルターの中心周波数を周期的に変化させる効果
ディストーション	音をひずませる効果

■ ペダル機能リスト

機能	説明	割当可能なペダル ○: 可能 ×: 不可		
		左ペダル	中ペダル	右ペダル ([AUX PEDAL]端子に 接続したペダル含む)
サステイン(スイッチ)	ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせる機能	○	○	○
サステイン(連続)*	ペダルの踏み込み具合で、鍵盤から指を離れたあとの音が響く長さを変える機能 (初期設定)	×	×	○
ソステヌート	ソステヌート(17ページ)	○	○	○
ソフト	ソフト(17ページ)	○	○	○
ピッチベンドアップ*	音の高さを連続的に上げる機能	×	×	○
ピッチベンドダウン*	音の高さを連続的に下げる機能	×	×	○
ロータリースピード**	ジャズオルガンのロータリースピーカーの回転数の変化(踏むごとに速い/遅いが切り替わる)	○	○	○
バイプローター **	ビブラフォンのビブラートのオン/オフ(踏むごとにオン/オフが切り替わる)	○	○	○

*マークのついた機能を[AUX PEDAL]端子に接続したペダルに割り当てる場合は、別売のフットペダル(70ページ)の使用をお勧めします。それ以外の機能は、付属のフットスイッチ(70ページ)の使用をお勧めします。

**マークのついた機能は、ジャズオルガン、またはビブラフォンのボイスを選ぶと、自動的に左ペダルに割り当てられます。

🎵 ソングメニュー

ソングメニューでは、ソング再生に関するさまざまな設定や、ソングデータを一括修正ができます。

NOTE

- * が付いている項目は、MIDIソングが選ばれているときのみ表示され、オーディオソング選択時は表示されません。
- ** が付いている項目はオーディオソングが選ばれているときのみ表示されます。
- 「編集」の機能を使う場合は、デモ曲、クラシック50選、レッスン以外のMIDIソングを選んでください。
- 「実行」は、現在選択されているソングデータを修正する機能です。[>]ボタンを押すことでソングデータが書き換わるので十分ご注意ください。
- MIDIソングが選ばれているときと、オーディオソングが選ばれているときで、一部項目の順番や表示が異なります。

各項目の呼び出し方：					
必要に応じてソングを選択したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ソングメニュー」を選択し、[/][V][<]/>ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
L/R* (46ページ 参照)	R、L、その他	—	ソング再生をトラックごとにおフ(ミュート)します。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
リピート (47ページ 参照)	A - B*	(設定画面)	現在選択されているMIDIソングの一部(A点~B点)を、くり返し再生する機能(ABリピート)です。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)
	フレーズ*	フレーズ マーク	フレーズマークが入っているMIDIソングが選ばれている場合のみ有効です。「リピート」をオンにし、フレーズマークの番号を指定することで、ソングの該当フレーズから再生したり、そのフレーズだけをくり返し再生させたりします。	000	000~その曲の 最終フレーズ番 号
		リピート	「フレーズ」がオンの場合に[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、カウント音に続いて指定のフレーズ番号から再生が開始され、もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押すまでくり返し再生されます。	Off (オフ)	On (くり返し再 生)/Off (くり返 ししない)
	ソング	(設定画面)	特定の曲だけを順に再生したり、ランダムに再生したりします。	Off (オフ)	Off (オフ)、1曲、 全て、ランダム
音量 (50ページ 参照)	ソング - 鍵盤*	(設定画面)	ソング再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節します。	0	Key+64~0~ Song+64
	ソング L - R*	(設定画面)	ソング再生音の右手パートと左手パートの音量バランスを調節します。	0	L+64~0~ R+64
	(設定画面)**		オーディオソングの音量を調節します。	100	0~127
トランス ポーズ (51ページ 参照)	(設定画面)	—	鍵盤の音の高さを変えずに、再生するソングだけを、半音単位で移調(=トランスポーズ)します。たとえば、トランスポーズ量を「5」に設定すると、「八長調」のソングは「へ長調」で再生されます。 NOTE 外部から入力されたオーディオ音声はトランスポーズされません。 NOTE MIDIソングの演奏情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値にトランスポーズ値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。 NOTE オーディオソングのトランスポーズを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。	0	-12 (-1オク ターフ)~0 (標準 ピッチ)~+12 (+1オクターフ)

各項目の呼び出し方： 必要に応じてソングを選択したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「ソングメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ファイル	削除 (65ページ参照)	中止	ソングを削除します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	-	-
		実行		-	-
	コピー* (65ページ参照)	中止	MIDIソングのコピーを別の場所に保存します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	-	-
		実行		-	-
	移動* (66ページ参照)	中止	MIDIソングの保存場所を移動します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	-	-
実行		-		-	
オーディオ変換* (67ページ参照)	中止	MIDIソングをオーディオソングに変換します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	-	-	
名前の変更 (68ページ参照)	(設定画面)	ソング名を変更します。ファイル操作が可能なソングについては、63ページをご覧ください。	-	-	
編集*	クオンタイズ (演奏タイミングのずれを修正)	クオンタイズ	現在選択されているMIDIソングの各音符の位置を、8分音符や16分音符などのタイミングに正確に移動することでソングデータを修正する機能です。 1. クオンタイズでクオンタイズの分解能(修正する音符の単位)を設定します。 2. 強さでクオンタイズをかける効果の強さを設定します。 3. 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことでデータ修正を実行します。	1/16	「クオンタイズ設定範囲」参照(90ページ)
		強さ		100%	0%~100% 「強さによる修正データの違い」参照(90ページ)
		実行		-	-
	トラック削除 (ソングトラックの削除)	トラック	現在選択されているMIDIソングのデータを、トラックごとに削除する機能です。 1. 「トラック」で削除対象のトラックを選択します。 2. 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、指定トラックのデータ削除を実行します。	トラック1	トラック1~トラック16
		実行		-	-
	テンポ変更 (ソングデータのテンポ変更、61ページ参照)	中止	選択されているMIDIソングのテンポ値を現在のテンポ値に変更し、ソングデータとして修正する機能です。ソングメニュー画面を呼び出す前に、テンポを変更したい値に設定しておいてください。 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、ソングデータ修正を実行します。	ソングによる	-
実行		-		-	
ボイス変更 (62ページ参照)	トラック	現在選択されているMIDIソングのボイスを、トラックごとに現在選択されているボイスに変更し、ソングデータとして修正する機能です。 「実行」にカーソルを合わせて[>]を押すことで、ソングデータ修正を実行します。	トラック1	トラック1~トラック16	
	実行		-	-	
その他*	クイックプレイ	-	現在選択されているMIDIソングの冒頭部に無音部分がある場合、クイックプレイをオンに設定することで、音のあるところからすぐに再生開始させることができます。アフタクト(弱起 = 小節の途中拍から曲が始まること)のMIDIソングを再生する場合に便利な設定です。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
	トラック試聴	トラック	トラック別の中身を確認するために、1トラックだけを選んで再生できます。実際の音が鳴るところからすぐに再生されます。トラック選択後に、「スタート」にカーソルを合わせた状態で[>]ボタンを押している間だけ、選択したトラックが再生されます。	トラック1	トラック1~トラック16
		スタート		-	-
再生トラック	-	この楽器で再生するトラックを設定できます。「1&2」では、トラック1と2だけが再生され、3から16トラックはMIDI送信されます。「全て」では、トラック1から16すべてが再生されます。	全て	全て、1&2	

NOTE

ソングの再生テンポの変更は、[TEMPO]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。設定方法については、45ページをご覧ください。

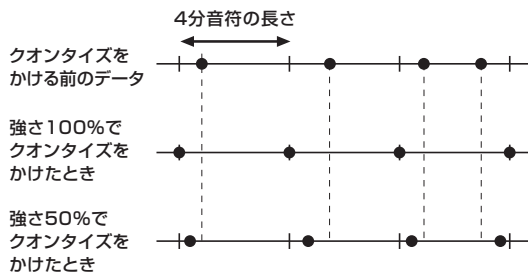
■ クオンタイズ補足説明

クオンタイズ設定範囲

1/4.....		4分音符
1/6.....		3連4分音符
1/8.....		8分音符
1/12.....		3連8分音符
1/16.....		16分音符
1/24.....		3連16分音符
1/32.....		32分音符
1/8+1/12.....		8分音符+3連8分音符*
1/16+1/12...		16分音符+3連8分音符*
1/16+1/24...		16分音符+3連16分音符*

*マークが付いた設定は、同時に異なる2つの音符のタイミングにクオンタイズできます。たとえば、8分音符と3連8分音符の両方のタイミングに録音されているトラックに「8分音符」を選択すると、そのトラックの全音符が8分音符でクオンタイズされてしまい、3連8分音符のタイミングの音がなくなってしまいます。しかし、「8分音符+3連8分音符」に設定すれば、8分音符と3連符の両方のタイミングの音をクオンタイズできます。

強さによる修正データの違い



☐ メトロノーム/リズムメニュー

メトロノーム/リズムメニューでは、メトロノーム再生時(39ページ)またはリズム再生時(41ページ)の音量/テンポ表示のしかたを設定します。また、拍子設定(40ページ)の1拍目にメトロノームのベル音を鳴らすかどうかや、リズムの再生方法に関する設定もできます。

各項目の呼び出し方： 必要に応じてソングを選択したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「メトロノーム/リズムメニュー」を選択し、[^]/[V]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
	(設定画面)	—	メトロノームの拍子を設定します。MIDIソングを選んだり、再生したりすると、選んだソングの拍子に自動的に変わります。	4/4	2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8
	(設定画面)	—	メトロノーム/リズムの音量を設定します。これにより、鍵盤演奏の音量とバランスをとります。	82	0~127
	—	—	画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定(40ページ)に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするかを設定します。「拍子に連動」を選択した場合、拍子設定の分母値が基準音価になります。(ただし、拍子が「6/8」「9/8」「12/8」に限り、符点4分音符が基準音価になります。)	拍子に連動	拍子に連動、4分音符
	—	—	設定された拍子(40ページ)の1拍目で、メトロノームのベル音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	Off (オフ)	On (オン)、Off (オフ)
	—	—	リズム再生開始時にイントロを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。 NOTE イントロをオンに設定した場合でも、ソング再生中にリズム再生を開始した場合は、イントロは再生されません。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
	—	—	リズム再生終了時にエンディングを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
	—	—	鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせる(オン)か、させない(オフ)かを設定します。 この機能を使うには、以下の操作を行ってください。 1. この機能をオンにする。 2. [RHYTHM]ボタンを押してシンクロスタート待機状態に入る。 [RHYTHM]ボタンが点滅する。 3. 鍵盤を弾いて、リズムをスタートさせる。	Off (オフ)	On (オン)、Off (オフ)
	—	—	リズムにベースの自動伴奏を付けるかどうかを設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

■ テンポを設定する

メトロノーム/リズムのテンポは、[TEMPO]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。詳しくは39ページをご覧ください。

録音メニュー

録音メニューでは、MIDI録音(52ページ)の詳細な条件を設定します。

NOTE

ここでの設定はMIDI録音に対してのみ有効で、オーディオ録音には効果しません。

各項目の呼び出し方：					
必要に応じてソングを選択したあと、[FUNCTION]ボタンを何度か押して「録音メニュー」を選択し、[^]/[V]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
録音開始	—	—	既存MIDIソングへの上書き録音時のための設定で、MIDI録音開始の操作後に実際に録音が始まるタイミングを指定します。「標準」を選択した場合、録音開始の操作と同時に、実際の録音も始まりです。鍵盤を弾いていなくても無音部分として録音されます。「押鍵」を選択した場合は、録音開始の操作をしたあと、鍵盤を弾いたときに初めて実際の録音が始まります。	標準	標準、押鍵
録音終了	—	—	既存MIDIソングへの上書き録音時のための設定で、MIDI録音終了の操作後に、終了したタイミング以降のソングデータを消す(差し替え)か残す(パンチアウト)かを設定します。	差し替え	差し替え、パンチアウト
リズム録音	—	—	リズム再生をMIDI録音する(オン)/しない(オフ)を設定します。オンにした場合は、トラック9~10に演奏が録音されます。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

システムメニュー

システムメニューでは、楽器全体にかかわる設定を行ないます。

各項目の呼び出し方： [FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
Bluetooth (77~78 ページ参照)	Bluetooth	(設定画面)	Bluetooth機能のオン/オフを設定します。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	ペアリング	(設定画面)	Bluetooth機器の登録(ペアリング)を行ないます。	—	—
チューニング	音の高さ (マスター チューニング) (33ページ参 照)	(設定画面)	楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使用します。	A3 = 440.0Hz	A3 = 414.8Hz~ 466.8Hz (約0.2Hz単 位)
	音律	(設定画面)	現代のピアノはほとんどの場合、「平均律」と呼ばれる1オクターブを12分割した音律で調律(チューニング)されています。デジタルピアノでも初期設定は「平均律」ですが、16~19世紀に使われていた音律をワンタッチで呼び出し、当時の音律で演奏することも可能です。	平均律	下記「音律リ スト」を参照
	基音	(設定画面)	上記で選択した音律の基音(演奏する曲の調の主音)を設定します。上記で「平均律」以外を選んだときは、基音の設定が必要です。 NOTE 音律で「平均律」を選んでいる場合は、「---」表示となり、値の変更はできません。	C	C、C#、D、 Eb、E、F、 F#、G、Ab、 A、Bb、B
鍵盤	タッチ (34ページ参 照)	(設定画面)	鍵盤を強く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を選びます。	ミディアム	ソフト2、 ソフト1、 ミディアム、 ハード1、 ハード2、 固定
	ペロシティ	(設定画面)	タッチを「固定」にした場合のペロシティ値(音量)を設定します。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	64	1~127
	デュオ (30ページ参 照)	(設定画面)	鍵盤を2つの領域に分けて、同じ音域でデュオ演奏ができるよう設定します(30ページ)。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)
	スプリット ポイント (28ページ参 照)	(設定画面)	スプリットやデュオをオンにしたときのスプリットポイント(鍵盤の右手領域と左手領域の境め)を設定します。	F#2 (スプ リット)、 E3 (デュオ)	A-1~C7

■ 音律リスト

平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律。現在もっともポピュラーなピアノの調律法。
純正律「長調」/「短調」	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴。現在でも合唱のハーモニーなどで見られる。
ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律。3度はうなりが生じるが4度と5度の音程が美しく、旋律の演奏に向いている。
中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用した。
ヴェルクマイスター / キルンベルガー	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なる。転調により曲想が変化するのが特徴。パッサやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード (= チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられる。

各項目の呼び出し方： [FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ペダル	ハーフペダルの位置 (16ページ参照)	(設定画面)	ペダル機能が「サステイン連続」に設定されている場合のみ有効な項目で、別売のペダルユニットの右ペダルまたは[AUX PEDAL]端子に接続したペダル(ハーフペダル対応)を、どのくらい踏み込めば「サステイン連続」(87ページ)の効果が効き始めるのかを設定します。	0	-2 (浅い位置で効く)~0 ~+4 (深い位置で効く)
	ソフトペダルの深さ	(設定画面)	機能として「ソフト」(87ページ)が割り当てられたペダルにつき、そのかかり具合を設定します。	5	1~10
	ピッチバンドの範囲	(設定画面)	機能として「バンドアップ」または「バンドダウン」(87ページ)が割り当てられたペダルにつき、ピッチ(音の高さ)を連続的に変化させる幅を、半音単位で設定します。 NOTE 一部のボイスでは、ピッチバンドの範囲の設定どおりに音の高さが変化しない場合があります。	2	0~+12 (ペダルを踏むと12半音<1オクターブ>上がる/下がる)
	Auxペダル (16ページ参照)	-	[AUX PEDAL]端子にペダルを接続した場合、ペダルの機種によっては、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合に切り替えてください。	メイク	メイク、 ブレイク
	Auxペダル - 機能	(設定画面)	[AUX PEDAL]端子に接続したペダルの機能を設定します。	サステイン (連続)	「ペダル機能リスト」を参照(87ページ)
	Auxペダル - 範囲	(設定画面)	[AUX PEDAL]端子に接続したペダルの効果がかかる鍵域を設定します。	全域	全域(全鍵域、 右手(右手鍵域のみ)、 左手(左手鍵域のみ))
	再生/一時停止	(設定画面)	パネル上の[PLAY/PAUSE]ボタンの機能をいずれかのペダルに割り当てます。ここで[PLAY/PAUSE]ボタンの機能を割り当てると、ボイスメニューで割り当てられた機能(86ページ)は無効になります。	Off (オフ)	Off (オフ)、 左ペダル、中 ペダル、Aux ペダル
音響	IAC (14ページ参照)	-	IACのオン/オフを設定します。IACについて詳しくは14ページをご覧ください。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	IAC の深さ	(設定画面)	IACの効果のかかり具合を設定します。値が大きいくほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。	0	-3~+3
	バイノーラル (15ページ参照)	-	ヘッドフォン接続時の動作を設定します。オンの場合は、ヘッドフォン接続時にバイノーラルサンプリングおよびステレオフィニッシュオブティマイザーによる臨場感のある音が楽しめます(15ページ)。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
MIDI	MIDI出力	(設定画面)	楽器本体の鍵盤演奏を、[USB TO HOST]端子およびMIDI [OUT]端子から送信するときのチャンネルを設定します。デュアル/スプリットまたはデュオがオンの場合は以下チャンネルにてMIDI送信されます。 ・ 右側の第1ボイスによる演奏 = n (設定値) ・ 左側のボイスによる演奏 = n+1 ・ 右側の第2ボイスによる演奏 = n+2	チャンネル1	チャンネル1 ~チャンネル 16、Off (送 信しない)
	MIDI入力	(設定画面)	MIDI [IN]端子および[USB TO HOST]端子から受信したMIDIメッセージの各チャンネルにつき、楽器本体のどのパートの演奏をコントロールするかを設定します。 ・ ソング : ソングパートをコントロールします。 ・ 鍵盤 : メイン、デュアル、スプリット、デュオに関係なく、鍵盤演奏をコントロールします。 ・ R1 : 右側の第1ボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。 ・ R2 : 右側の第2ボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。 ・ L : 左側のボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。 ・ Off (オフ) : 受信しません。	全チャンネル につき、 「ソング」	各チャンネル につき、 ・ ソング ・ 鍵盤 ・ R1 ・ R2 ・ L ・ Off (オフ)

各項目の呼び出し方： [FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[△]/[▽]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
MIDI	ローカル コントロール	—	通常、鍵盤を弾くと楽器本体の「音源部」から音が鳴ります。この状態を、ローカルコントロール=オンといいます。ローカルコントロールをオフにすると「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても本体から音が出なくなります。ただし、鍵盤演奏の情報はMIDI送信されるので、本体では音を鳴らさずにMIDI接続した外部MIDI音源の音が鳴ります。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	受信 パラメーター	(設定画面)	外部から受信するMIDIメッセージにつき、その種類ごとに、受信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムエクスクルーシブ	全メッセージにつき「On (オン)」	各メッセージにつき、 • On (オン) • Off (オフ)
	送信 パラメーター	(設定画面)	楽器本体での演奏で発生するMIDIメッセージの種類ごとに、外部に送信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムリアルタイム、システムエクスクルーシブ	全メッセージにつき「On (オン)」	各メッセージにつき、 • On (オン) • Off (オフ)
	初期設定送信	中止 実行	楽器本体に接続した外部MIDI機器/コンピューターなどへ、ボイス選択などのパネル設定データを送信します。外部MIDI機器やコンピューターにMIDI録音する前にこの機能を実行しておけば、録音データの先頭にパネル設定が記録され、あとで再生するときに録音時のサウンドが正確に再現されます。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すと、パネル設定がMIDI送信されます。	—	—
バック アップ	バックアップ 設定	—	本体設定のバックアップやリストア(復元)、初期化を行いません。詳しくは、99～100ページをご覧ください。	—	—
	バックアップ	—			
	リストア	—			
	ファクトリー リセット	—			
ユーティリ ティ	USBフォー マット (初期化) (71ページ参 照)	中止	[] (USB TO DEVICE)端子に接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)します。 注記 フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。 NOTE USBフラッシュメモリーによっては、[] (USB TO DEVICE)端子に接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。 ■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。	—	—
		実行	「実行」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。 注記 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。データの破損の原因になります。	—	—
USBプロパ ティ	—	[] (USB TO DEVICE)端子に接続したUSBフラッシュメモリーの空き容量や全体容量を表示します。 	—	—	

各項目の呼び出し方： [FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。																																																																																																																			
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲																																																																																																														
ユーティリティ	USB自動ロード	—	この項目を「オン」に設定することにより、[●↔] (USB TO DEVICE)端子にUSBフラッシュメモリーを接続したと同時に、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)ソングを自動で呼び出せます(画面に表示されます)。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)																																																																																																														
	スピーカー	(設定画面)	本体スピーカーを鳴らす(オン)/鳴らさない(オフ)を切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> 標準: ヘッドフォンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。 On (オン): 常にスピーカーが鳴ります。 Off (オフ): スピーカーは鳴りません。 	標準	標準、 On (オン)、 Off (オフ)																																																																																																														
	コントラスト	(設定画面)	画面のコントラストを調整します。	0	-5~+5																																																																																																														
	オートパワーオフ (13ページ参照)	(設定画面)	オートパワーオフ機能により電源が自動オフされるまでの時間を設定します。自動的に電源をオフにしたい場合は、「Off (オフ)」を選びます。	30 (分)	Off (オフ)、 5、10、 15、30、 60、120 (分)																																																																																																														
	オーディオループバック (80ページ参照)	—	コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音を、楽器での演奏音と一緒に、コンピューターやスマートデバイスに出力する(オン)/しない(オフ)を設定します。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)																																																																																																														
	オーディオEQ (80ページ参照)	—	この機能をオンにすると、コンピューターやスマートデバイスから楽器へのオーディオ入力音や、オーディオ入力音を楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力するときの音の音質を補正(イコライザー=EQ機能)するかどうかを設定できます。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)																																																																																																														
	バージョン	—	この楽器のモデル名とファームウェアのバージョンを表示します。	—	—																																																																																																														
	言語設定	システム	画面の表示言語(=システム)、ソング名の画面表示や入力言語 (=ソング)をそれぞれ個別に、日本語または英語に切り替えられます。 ■ 文字一覧: 日本語 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>0~9</td><td>A~Z</td><td>a~z</td><td>ア</td><td>ン</td><td>ア</td><td>オ</td><td>ヤ</td><td>ユ</td><td>ヨ</td><td>ツ</td><td>°</td><td>。</td> </tr> <tr> <td>[</td><td>]</td><td>,</td><td>.</td><td>!</td><td>#</td><td>\$</td><td>%</td><td>&</td><td>'</td><td>(</td><td>)</td><td>+</td><td>-</td><td>;</td><td>=</td><td>@</td><td>[</td><td>]</td><td>^</td> </tr> <tr> <td>_</td><td>{</td><td>}</td><td>~</td><td>.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> 英語 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>0~9</td><td>A~Z</td><td>a~z</td><td>Ä</td><td>Ë</td><td>Ï</td><td>Ö</td><td>Ü</td><td>ä</td><td>ë</td><td>ï</td><td>ö</td><td>ü</td><td>à</td><td>è</td><td>ì</td><td>ò</td> </tr> <tr> <td>ù</td><td>á</td><td>é</td><td>í</td><td>ó</td><td>ú</td><td>â</td><td>ê</td><td>î</td><td>ô</td><td>û</td><td>ñ</td><td>ñ</td><td>ß</td><td>ç</td><td>ç</td><td>°</td><td>!</td><td>#</td><td>\$</td> </tr> <tr> <td>%</td><td>&</td><td>'</td><td>(</td><td>)</td><td>+</td><td>-</td><td>;</td><td>=</td><td>@</td><td>[</td><td>]</td><td>^</td><td>_</td><td>{</td><td>}</td><td>~</td><td>.</td><td></td><td></td> </tr> </table>	0~9	A~Z	a~z	ア	ン	ア	オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	°	。	[]	,	.	!	#	\$	%	&	'	()	+	-	;	=	@	[]	^	_	{	}	~	.																0~9	A~Z	a~z	Ä	Ë	Ï	Ö	Ü	ä	ë	ï	ö	ü	à	è	ì	ò	ù	á	é	í	ó	ú	â	ê	î	ô	û	ñ	ñ	ß	ç	ç	°	!	#	\$	%	&	'	()	+	-	;	=	@	[]	^	_	{	}	~	.			日本語	日本語、英語
0~9	A~Z	a~z	ア	ン	ア	オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	°	。																																																																																																							
[]	,	.	!	#	\$	%	&	'	()	+	-	;	=	@	[]	^																																																																																																
_	{	}	~	.																																																																																																															
0~9	A~Z	a~z	Ä	Ë	Ï	Ö	Ü	ä	ë	ï	ö	ü	à	è	ì	ò																																																																																																			
ù	á	é	í	ó	ú	â	ê	î	ô	û	ñ	ñ	ß	ç	ç	°	!	#	\$																																																																																																
%	&	'	()	+	-	;	=	@	[]	^	_	{	}	~	.																																																																																																		
		ソング																																																																																																																	

* 無線LAN関連の項目は、[](USB TO DEVICE)端子にUSB無線LANアダプターが接続されているときに表示されます。「無線LAN」の内容は、無線LANモードの設定(インフラストラクチャーモードまたはアクセスポイントモード)により異なります。

各項目の呼び出し方： [FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。							
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリティ	無線LAN* (インフラストラクチャーモード時)	ネットワーク選択	(ネットワーク一覧)		一覧から接続先ネットワークを選ぶことで、ネットワークへ接続します。	-	-
			その他	SSID	接続先ネットワークのSSIDを設定します。	-	最大32文字。英数字、記号
				セキュリティ	接続先ネットワークのセキュリティ種別を設定します。	なし	なし、WEP、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK
				パスワード	接続先ネットワークのパスワードを設定します。	-	最大64文字。英数字、記号
				接続	「その他」画面で設定した内容で、ネットワークへ接続します。	-	-
	詳細	DHCP		無線LANの詳細設定をします。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)	
		IPアドレス		IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー1、DNSサーバー2は、DHCPがオフのときは設定できません。入力画面では、[<]/[>]ボタンでそれぞれのオクテットを選択し、[^]/[V]ボタンで値を設定します。入力を確定するときは[FUNCTION]ボタンを押します。	0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
		サブネットマスク			0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
		ゲートウェイ			0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
		DNSサーバー 1			0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
		DNSサーバー 2			0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
	保存		「詳細」画面で設定した内容を、保存します。画面の「保存」を反転表示させ、[>]ボタンを押すと保存されます。	-	-		
	無線LANオプション*	無線LANモード	インフラストラクチャーモード	無線LAN接続に、アクセスポイントを使うか(インフラストラクチャーモード)使わないか(アクセスポイントモード)を設定します。	インフラストラクチャーモード	-	
			アクセスポイントモード			-	
		初期化	中止	無線LANの設定情報の初期化を行ないます。	中止	-	
実行			画面の「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押すと実行されます。		-		
詳細		ホスト名		ホスト名を設定します。	P-515-[MACアドレス下6桁]	最大57文字。半角英数字に加え「-」と「_」も設定可能。	
		MACアドレス		USB無線LANアダプターのMACアドレスを表示します。	-	-	
		ステータス		ネットワーク機能のエラーコードを表示します。	-	-	

各項目の呼び出し方： [FUNCTION]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティ リティ	無線LAN* (アクセスポイン トモード時)	SSID	アクセスポイントとしての SSIDを設定します。	ap-P-515-[MACアド レス下6桁]	最大32文字。英数字、記号
		セキュリティ	アクセスポイントとしてのセ キュリティ種別を設定します。	WPA2-PSK(AES)	なし、WEP、WPA2-PSK(AES)、 WPA/WPA2 mixed PSK
		パスワード	アクセスポイントとしてのパ スワードを設定します。	00000000	最大64文字。英数字、記号
		チャンネル	アクセスポイントとしての チャンネルを設定します。	11	1~13
		DHCPサー バー	IPアドレスに関連する項目を 設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
		IPアドレ ス		192.168.0.1	192固定、168固定、0~255、 1~254
		サブネットマ スク		255.255.255.0	255.255.0.0、255.255.128.0、 255.255.192.0、255.255.224.0、 255.255.240.0、255.255.248.0、 255.255.252.0、255.255.254.0、 255.255.255.0
		保存		無線LAN*画面(アクセスポイ ントモード時)で設定した内容 を保存します。	—

■ バックアップ設定

(電源をオフしても設定が消えない項目を選ぶ)

この機能により、バックアップ設定(下記)の一部の設定が、電源が切れても記憶されるかどうかを設定します。バックアップ設定は、「ボイス」(ボイス選択などさまざまな関連設定)と「その他」(くり返し再生やチューニングなどの設定)の2グループに分かれており、それぞれ個別に記憶されるかどうかを設定できます。

電源をオフにしても消えないデータ/設定

- 本体内部メモリーの「ユーザー」カテゴリに保存されるMIDIソング
- Bluetooth (システムメニュー)
- ユーティリティ (システムメニュー)
- バックアップ設定(本項で説明)

1. [FUNCTION] ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
2. [^]/[V] ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>] ボタンで次の画面を呼び出したあと、[^] ボタンで「バックアップ設定」を選びます。
3. [>] ボタンと[^] ボタンで「ボイス」を選び、[>] ボタンで「On (オン)」または「Off (オフ)」を選びます。

「ボイス」には下記項目があります。

- R1/R2/Lボイス選択
- ボイスメニューの全項目(トランスポーズ以外)

4. [V] ボタンで「その他」を選択し、[>] ボタンで「On (オン)」または「Off (オフ)」を選びます。

「その他」には下記項目があります。

- ソングメニュー：ソングリピート、ソング-鍵盤、オーディオ音量、クイックプレイ、再生トラック
- メトロノーム/リズムメニュー：音量、BPM、ベル、ベース音、イントロ、エンディング
- システムメニュー：チューニング、鍵盤(デュオを除く)、ペダル、音響、MIDI
- サウンドブースト、マスターEQ

5. [EXIT] ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

■ バックアップ

(バックアップファイルを保存する)

この機能により、本体内部に作られたデータ/設定をUSBフラッシュメモリーにバックアップファイル(ファイル名：「p-515.bup」)として保存できます。このバックアップファイルは、あとで楽器本体に呼び戻すことができます。

注記

- この機能の実行には1~2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- 既に同じバックアップファイル(p-515.bup)がUSBフラッシュメモリーに保存されている場合、この機能の実行によりファイルは上書きされます。

1. USBフラッシュメモリーを[←→] (USB TO DEVICE) 端子に接続します。
2. [FUNCTION] ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
3. [^]/[V] ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>] ボタンで次の画面を呼び出したあと、[^]/[V] ボタンで「バックアップ」を選びます。
4. [>] ボタンで次の画面を呼び出したあと、[V] ボタンで「実行」を選びます。
5. [>] ボタンでバックアップを実行します。
6. [EXIT] ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

NOTE

バックアップファイル内の設定を呼び戻したい場合は、リストア機能(100ページ)を実行します。

NOTE

プロジェクトソングはバックアップされません。

■ リストア

(バックアップファイルを読み込んで再起動する)

この機能により、バックアップ機能(99ページ)で保存したバックアップファイル(ファイル名:「p-515.bup」)を楽器本体に読み込むことができます。

注記

- この機能の実行には1~2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- プロテクトソングも含め重要なデータが本体内部メモリーにある場合は、リストアを実行する前に、66ページの操作に従って必ずUSBフラッシュメモリーなど本体外部へ移してください。リストア実行により、これら重要なデータが消えてしまうので十分ご注意ください。

1. バックアップファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを、[◀▶] (USB TO DEVICE)端子に接続します。
2. [FUNCTION]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
3. [∧]/[∨]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[∨]ボタンで「リストア」を選びます。
4. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∨]ボタンで「実行」を選びます。
5. [>]ボタンでリストアを実行します。

リストアが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

■ ファクトリーリセット(初期化)

(工場出荷時の状態を呼び出して再起動する)

この機能により、楽器本体を工場出荷時の状態に戻せます。以下の点にご注意ください。

- バックアップ設定(99ページ)は初期設定に戻ります。
- 「ユーザー」カテゴリーに保存されているソングは消去されません。
- Bluetooth (77ページ)のペアリング情報は消去されません。

注記

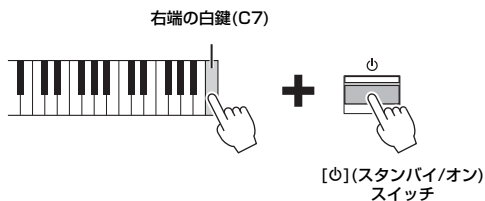
この機能の実行中(「楽器を初期化しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。

1. [FUNCTION]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
2. [∧]/[∨]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと[∧]/[∨]ボタンで「ファクトリーリセット」を選びます。
3. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∨]ボタンで「実行」を選びます。
4. [>]ボタンでファクトリーリセットを実行します。

ファクトリーリセットが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

● 工場出荷時の状態に戻す他の方法

右端の白鍵(C7)を押したまま電源をオン([⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押す)にしても、初期設定に戻すことができます。ユーザーに保存した曲は消去されません。



ボイス一覧

ボイスグループ	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	VRM	ボイスデモ	ボイス紹介
ピアノ	CFX グランド	○	○	○	○	○	ヤマハコンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。
	バイノーラル CFX グランド	○	○	-	○		ヤマハコンサートグランドピアノCFXをヘッドフォン再生に適するようにバイノーラルサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。「CFX グランド」の音色を選択してヘッドフォンを接続したときに自動的に選ばれます。
	ベーゼンドルファー	○	○	○	○	● ⁽¹⁾	ウィナーートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インベリアル音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音が特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。
	スタジオ グランド	○	○	○	○	○	レコーディングスタジオでよく使われているヤマハグランドピアノC7の音色です。すっきりとした明るい響きが特徴で、ポピュラー系の音楽に合います。
	ブライト グランド	○	○	○	○	-	ブライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
	バラード グランド	○	○	○	○	-	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に最適です。
	ウォームグランド	○	○	-	○	-	温かみのあるしっとりとしたピアノの音です。落ち着いた曲に合います。
	ポップ グランド	○	○	○	○	-	すこし明るめなグランドピアノの音です。ポピュラー系の音楽に最適です。
	ジャズ グランド	○	○	-	○	-	個性的なキャラクターを持つピアノ音色です。ジャズ系の音楽に最適です。
	ロック グランド	○	○	○	○	-	明るい響きを持ったピアノの音です。ロック系の音楽に最適です。
	ホンキートンクピアノ	○	○	-	○	-	ホンキートンク風のピアノの音です。グランドピアノと異なったキャラクターをお楽しみください。
エレピ	ステージ エレピ	-	○	○	-	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
	DX エレピ	-	○	-	-	○	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
	ピンテージ エレピ	-	○	○	-	○	ステージ エレピと異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
	ソフト エレピ	-	○	○	-	-	電気ピアノの独特なパンニング効果を持つ音です。静かなバラードの曲に最適です。
	フェイザー エレピ	-	○	○	-	-	個性的なフェイザー効果で、フュージョン系の音楽にマッチする電気ピアノの音です。
	DX ブライト	-	○	-	-	-	FMシンセサイザーによる電子ピアノのバリエーションの音です。ブライトでキラキラしたキャラクターは、音楽のアクセントを持たせます。
	トレモロ ピンテージ	-	○	○	-	-	ピンテージ エレピに適したトレモロ効果を付加した音です。ロック音楽によく使われます。
オルガン	ジャズオルガン スロー	-	-	-	-	○	歯車回転式電気オルガンの音で、ロータリー SPがゆっくり回転しているサンプリング音色です。ジャズやロックなどの音楽でよく用いられます。
	ジャズオルガン ファスト	-	-	-	-	-	ジャズオルガン スローと同じ電気オルガンの音で、こちらはロータリー SPが速く回転しているサンプリング音色です。ジャズオルガン スローとジャズオルガン ファストを切り替えながら、曲の変化を持たせることができます。
	ロックオルガン	-	-	-	-	○	明るくエッジのきいた電気オルガンの音です。ロックに最適です。
	ジャズオルガン	-	-	-	-	-	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズやロックなどの音楽でよく用いられます。別売のペダルユニット(LP-1)を接続すると、左ペダルの操作で、エフェクト「ロータリー」の回転の速い/遅いを切り替えられます。

ボイスグループ	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	VRM	ボイスデモ	ボイス紹介
オルガン	オルガン プリンシパル	○	—	—	—	● ⁽²⁾	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
	オルガン トウッティ	○	—	—	—	○	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
CLV./VIB.	ハーブシコード 8'	○	—	○	—	● ⁽³⁾	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	ハーブシコード 8'+4'	○	—	○	—	—	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。
	クラビコード	—	○	○	—	○	電磁ピックアップの付いた鍵盤式打弦楽器です。ファンキーなサウンドはブラックコンテンポラリー音楽などでおなじみです。その構造から、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	ビブラフォン	○	○	—	—	○	ステレオサンプリングされたビブラフォンの音です。広がりがあり、澄んだ音はポピュラー音楽に最適です。
ストリングス	ストリングス	○	○	—	—	○	ステレオサンプリングでリアルな立ち上がりや響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
	スロー ストリングス	○	○	—	—	—	立ち上がりの緩やかな弦楽アンサンブルの音です。ピアノやエレピとのデュアルに向いています。
	クワイア	—	○	—	—	○	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
	スロー クワイア	—	○	—	—	—	立ち上がりの緩やかな合唱の音です。ピアノやエレピとのデュアルに向いています。
	ダーク パッド	—	○	—	—	○	温かく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノやエレピなどとのデュアルに最適です。
	ライト パッド	—	○	—	—	—	明るく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノやエレピなどとのデュアルに最適です。
	ベル パッド	○	○	—	—	—	ベルの音が特徴的なシンセ音色です。単体で弾いても、ピアノやエレピとのデュアルで弾いても、明るく、きらびやかな雰囲気が出せます。
その他	アコースティックベース	—	○	—	—	○	アコースティックベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
	エレクトリックベース	—	○	—	—	○	エレクトリックベースの音です。ジャズやロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
	ベース & シンバル	—	○	—	—	—	アコースティックベースにシンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。
	フレットレス ベース	—	○	—	—	○	フレットのないエレクトリックベースの音です。ジャズやフュージョンなどの音楽に向いています。
	ナイロン ギター	○	○	—	—	○	ステレオサンプリングによる臨場感あるナイロン弦ギターの音です。ナチュラルな響きのあるこの音は、あらゆるジャンルに合います。
	スチール ギター	—	○	—	—	—	明るく華やかなスチール弦ギターの音です。ポピュラー音楽に最適です。
XG	XG	—	○	—	—	○	XGボイスについては、ウェブサイト(2 ページ)上のデータリストの「XGボイス一覧」をご覧ください。

VRMとは

ダンパーペダルを踏んだときや鍵盤を押さえたときの弦の共鳴音を物理モデルによりシミュレーションしたものです。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

デモ曲(ボイスデモ)リスト

	ボイスグループ	ボイス名	曲名	作曲者
● ⁽¹⁾	ピアノ	ベーゼンドルファー	乙女の願い (6つのポーランドの歌)	F. リスト / F. F. ショパン
● ⁽²⁾	オルガン	オルガン プリンシパル	オルガン小曲集「神のひとり子なる主キリスト」BWV 601	J. S. バッハ
● ⁽³⁾	CLV./VIB.	ハーブシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV 1058	J. S. バッハ

「●」のついたデモ曲は、既存の曲を編集/抜粋したものです。その他のボイスのデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。(© Yamaha Corporation)

ソングー覧

クラシック50選

No.	曲名	作曲家
アレンジ曲		
1	カノン	J. パッヘルベル
2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	きらきら星	トラディショナル
5	ピアノソナタ 第17番「テンバスト」 第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	子守唄	F. P. シューベルト
8	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	愛のあいさつ	E. エルガー
12	家路	A. ドヴォルザーク
13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	月の光	C. A. ドビュッシー
15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲*		
16	メヌエット (アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	メヌエット ト長調	L. v. ベートーヴェン
18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	メヌエット ト長調	J. S. バッハ
23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	ピアノソナタ 第14番「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	別れの曲	F. F. ショパン
32	革命のエチュード	F. F. ショパン
33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	トロイメライ	R. シューマン
37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
39	愛の夢 第3番	F. リスト
40	花の歌	G. ランゲ
41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	アリエッタ	E. H. グリーク
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターテイナー	S. ジョプリン
45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	ケーキウォーク	C. A. ドビュッシー
49	ジュトウヴ	E. サティ
50	ジムノパディ 第1番	E. サティ

* 連弾曲では、右手パートが第1奏者右手用、左手パートが第1奏者左手用、その他パートが第2奏者用です。

リズムー覧

カテゴリー	No.	リズム名
ポップ&ロック	1	8ビート1
	2	8ビート2
	3	8ビート3
	4	16ビート1
	5	16ビート2
	6	シャッフル1
	7	シャッフル2
	8	シャッフル3
	9	シャッフル4
	10	8ビートバラード1
	11	8ビートバラード2
	12	16ビートバラード
	13	6-8/バラード1
	14	6-8/バラード2
	15	ポップワルツ
	16	ファンク
	17	ディスコ
	18	ツイスト
	19	ダンス
	20	チルアウト
ジャズ	21	ファストジャズ1
	22	ファストジャズ2
	23	ファストジャズ3
	24	スロージャズ1
	25	スロージャズ2
	26	スロージャズ3
	27	ジャズワルツ
	28	5ビートジャズ
ワールド	29	カントリー
	30	ゴスペル
	31	サンバ
	32	ボサノバ
	33	ルンバ
	34	サルサ
	35	アフロキューバン
	36	レゲエ
キッズ&ホリデイ	37	キッズポップ
	38	6-8マーチ
	39	クリスマススイング
	40	クリスマス3-4

メッセージ一覧

メッセージ	内容
オーディオソングへの変換や、再生 / 録音に失敗しました	録音や削除をくり返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合に、表示されません。USBフラッシュメモリーに必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(95ページ)、操作をし直してください。
オーディオに変換します	オーディオ変換中表示されます。
オーディオへの変換を中止しました	オーディオ変換が中止されました。
お待ちください	データを処理していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
書き込みできないUSBメモリーです	ライトプロテクト機能の付いたUSBフラッシュメモリーに、ファイル操作(63ページ)、録音、保存などをしようとしています。USBフラッシュメモリーを書き込み可にして操作し直してください。書き込みを可にしてもこのメッセージが表示される場合は、USBフラッシュメモリーに内部的なプロテクトがかかっている可能性があります。その場合は、書き込みできません。
楽器を初期化しています。「ユーザー」内のソングは消去されません	初期設定に戻していることを知らせています。楽器の「ユーザー」内のソングは消去されません。
楽器を初期化しました	この楽器の設定を、初期設定に戻しました。
現在のテンポに変更します	ソングのテンポを書き換えようとしています。
現在のボイスに変更します	ソングの音色を書き換えようとしています。
サポートされていないUSB機器が接続されています	動作確認済みのUSB機器をお使いください(71ページ)。
接続したUSB機器と通信できません	USB機器を接続し直してください(71ページ)。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
接続したUSB機器の消費電力が規定値を超えました	通常はバスパワーのUSBハブの使用を推奨していますが、お使いのUSB機器の消費電力が規定値を超えました。電源付き(セルフパワー)のUSBハブをお使いになるか、動作確認済みのUSB機器をお使いください(71ページ)。
接続したUSB機器の数が、この楽器での超えました	同時に使用できるUSB機器は、2台までです。詳しくは、71ページを参照してください。
選択したUSBメモリーへの、ファイル操作はできません	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーです。フォーマット(95ページ)してから操作してください。 • ファイル数が保存できる数の制限を超えました。楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動してから、保存してください。
前回、不正に電源を切ったため、楽器の内部をチェックしています	ソングファイルの操作時(63ページ)や、データのバックアップ中(99ページ)に電源を切り、もう一度電源を入れた場合に表示されます。内部をチェックした結果、楽器の設定が破損している場合は、初期設定に戻ります。楽器の「ユーザー」内の曲(ソング)が破損している場合は、削除されます。
操作を完了しました	操作の完了を知らせています。「操作を実行しています」メッセージに続いて表示されます。このメッセージが表示されたあと、次の操作へ進めます。
操作を実行しています	操作を実行していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
操作を実行できません	内蔵曲やオーディオソングではできないファイル操作です。操作の制限を63ページで確認してください。
操作/録音先の容量やファイル数がいっぱいです	楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の容量やファイル数がいっぱい、操作/録音ができません。「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の曲(ソング)を削除するか、別のUSBフラッシュメモリーに移動してから(65~66ページ)、改めて操作/録音してください。
ソングデータに不具合が発見されました	ソングの選択時や再生中に、ソングデータに不具合が発見されたことを知らせています。もう一度ソングを選択し、再生してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、ソングデータが壊れている可能性があります。

メッセージ	内容
ソング(MIDI/オーディオ)データのサイズが制限を超えています	<p>以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生しようと選択したソングのサイズが制限を超えています。サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。 録音中に、ソングのサイズが制限を超えました。サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。そこで自動的に録音が終了されます。そこまでに録音したデータは保存されます。 MIDI → オーディオソングの変換中に、ソングのサイズが制限を超えました。
ソング名が不適切です	<p>ソング名の変更 (68ページ)の際、以下の原因で表示されます。名前を付け直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力文字がありません。 ソング名の先頭/後尾にピリオドやスペースが入っています。
対応していないデータフォーマットです	読み込もうとしたソングが、この楽器では対応していないフォーマットです。42ページで対応のソングフォーマットを確認してください。
同名ファイルが存在します	ソングファイルの操作時(63ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[Λ]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。
バックアップデータの復元が完了しました。楽器を再起動します	リストア(100ページ)が完了したことを知らせています。このメッセージのあと、楽器は再起動されます。
ファイルアクセスに失敗しました	<p>以下の原因が考えられます。以下に該当しない場合は、操作しようとしているファイルが壊れていることが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイルの操作方法が間違っています。「ソングファイルを操作する」(63ページ)や「バックアップ(99ページ)」、「リストア(100ページ)」で操作方法をご確認ください。 接続中のUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使用できません。使用できるUSBフラッシュメモリーについては、71ページをご確認ください。 操作しようとしているプロテクトのかかったソングに不備があります。
ファイル数、またはファイルパス長が上限を超えています	楽器の「ユーザー」やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動して、保存し直してください。
ファイル名が重複しています	ソングファイルの操作時(63ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。ファイル名を変更してください(68ページ)。
フォーマットされていないUSBメモリーです	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーを使おうとしたため、表示されました。フォーマット(95ページ)してから操作してください。
プロテクトがかかったソングを操作しようとしています。実行しますか?	プロテクトがかかったソングの操作制限は、63ページを参照してください。
プロテクトがかかったソング、または読み取り専用のファイルです	プロテクトがかかったソングは、ファイル操作に制限があります(63ページ)。また、録音の編集には使えません。読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
Bluetoothのペアリング中です	Bluetoothのペアリング待機状態です。77ページの説明をご覧ください。
USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました	USB機器を[↔](USB TO DEVICE)端子から抜き、楽器の電源を入れ直してください。
USBハブが2階層以上になって接続されました	USBハブは1台のみ使用可能です。
USBメモリーが楽器本体から外されました	USBフラッシュメモリーが外されたことを知らせています。
USBメモリーが接続されていません	USBフラッシュメモリーを接続し、操作をし直してください。
USB/USER FILES/に移動しました	「ユーザー」内のソングファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動したことを知らせています。
USB/USER FILES/にオーディオ変換しました	MIDIソングを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへオーディオ変換したことを知らせています。
USB/USER FILES/にコピーしました	「ユーザー」内のソングファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーしたことを知らせています。

メッセージ	内容
「ユーザー」内に移動しました	USBフラッシュメモリーのソングを、楽器の「ユーザー」へ移動したことを知らせています。
「ユーザー」内にコピーしました	USBフラッシュメモリーのソングを、楽器の「ユーザー」へコピーしたことを知らせています。
「ユーザー」内/USBメモリーの残り容量が少なくなりました	楽器の「ユーザー」内や USBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除(65ページ)してから、録音を始めてください。
この楽器に異常が発生しました	巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(104ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源アダプターは正しく接続されていますか。電源アダプターを本体とコンセントに確実に差し込んでください(12ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が動いたためです。オートパワーオフの設定を変更してください(96ページ)。
画面に「USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました」と表示される。また、USB機器が動作しない。	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器を [↔] (USB TO DEVICE) 端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
楽器本体のスピーカーやヘッドフォンから雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。楽器の近くに携帯電話を置かないでください。
iPhone/iPadなどのスマートデバイスのアプリケーションと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	iPhone/iPadなどのスマートデバイスのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンにしてからWi-Fi/Bluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
全体的に音が小さい。または、まったく音が出ない。	音量(マスターボリューム)が下がっています。[MASTER VOLUME]スライダーで音量を上げてください(14ページ)。
	手弾き音の音量が下がっています。ソングメニュー画面の「音量」→「ソング - 鍵盤」で調節してください(50ページ)。
	スピーカーの設定が「標準」で(96ページ)、ヘッドフォンを接続しているとスピーカーからは音が出ません。ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	スピーカーの設定が「Off (オフ)」になっています。スピーカーの設定を「標準」または「On (オン)」にしてください。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(96ページ)。
	ローカルコントロールが「Off (オフ)」になっています。ローカルコントロールを「On (オン)」にしてください。システムメニュー画面の「MIDI」→「ローカルコントロール」(95ページ)。
ヘッドフォンを[PHONES]端子に差ししてもスピーカーから音が出る。	スピーカーの設定が「On (オン)」になっています。スピーカーの設定を「標準」にしてください。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(96ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL UNIT]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL UNIT]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください。
[AUX PEDAL]端子に接続したペダルのオン/オフ(強/弱)が逆になる	接続するペダルの種類によって、オン/オフや強/弱の動作が逆になる場合があります。システムメニュー画面の「ペダル」→「Auxペダル」で設定を切り替えてください。
鍵盤で弾く音がソングの再生音に比べて小さい。	手弾き音の音量が下がっています。ソングメニュー画面の「音量」→「ソング - 鍵盤」で調節してください。
ボタンを押しても動作しない。	ほかの機能の動作中にはできない操作がいくつかあります。ソングの再生中はソングの再生を止めて、その他の場合は[EXIT]ボタンを押してボイス画面やソング画面に戻ってから操作してください。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
トランスポーズやオクターブを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	トランスポーズやオクターブを設定したときに、発音できる音域はC -2~G8です。C -2より低くなる音は1オクターブ上の音で、G8より高くなる音は1オクターブ下の音で鳴ります。

現象	原因と解決法
デュアル/スプリット/デュオで録音したはずの音が録音されていない。または思わぬパートのデータが消えてしまった。	曲の途中でのデュアル/スプリット/デュオへの切り替えは録音されません。また、デュアルの第2ボイス、スプリット/デュオの左側のボイスの録音パートは自動的に決められます(55ページ)。したがって、それらのパートに既存のデータがあった場合は、上書きされて消えてしまいます。
デュオのとき、音が片方のスピーカーからしか聞こえない。	ボイスにより、パンの設定が違うためです。必要に応じて、ボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「ボイス名」→「パン」(85ページ)で、設定を切り替えてください。
ソング名表示がおかしい。	名前を付けたときと異なる言語表示に設定されていたり、ほかの楽器で録音した曲の場合は、正しく表示されないことがあります。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「言語設定」→「ソング」(96ページ)で、設定を切り替えてください。ただし、ほかの楽器で録音した曲の場合は、言語表示を切り替えても正しく表示されないことがあります。
メニュー画面が表示されない。	ソング再生中は、ボイスメニュー、ソングメニュー以外のメニュー画面は表示されません。[PLAY/PAUSE]ボタンを押してソングをストップしてください。また録音モード時は、録音メニュー画面しか表示されません。
リズムがスタートしない。	シンクロ再生が「On (オン)」になっています。メトロノーム/リズムメニュー画面のシンクロ再生の設定を「Off (オフ)」にしてください(91ページ)。
USB無線LANアダプターが接続されているにもかかわらず、画面に無線LANの項目が表示されない。	USB無線LANアダプターを接続し直してください。
Bluetooth 対応のスマートデバイスがペアリングまたは接続できない。	スマートデバイスのBluetooth 機能が有効か確認してください。Bluetooth でペアリングまたは接続するには、この楽器とスマートデバイス両方のBluetooth 機能を有効にする必要があります。
	Bluetooth 経由で接続するには、はじめに機器同士をペアリングする必要があります(77ページ)。
	2.4GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにある場合は、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。
[AUX IN]端子またはBluetoothで入力した音が途切れる。	入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)により、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音をノイズとみなしてカットしてしまうことがあります。故障ではありません。

仕様

項目			P-515
品名			電子ピアノ
サイズ/質量	寸法	幅×奥行×高さ	1336 mm x 376 mm x 145 mm
	質量		22.0 kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	ナチュラルウッドエックス(NWX)鍵盤 木製(白鍵)、象牙調・黒檀調仕上げ、エスケープメント付き
		タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、ソフト2、固定
	ペダル	ペダル数	3 (LP-1使用時)
		割当可能な機能	サステイン(スイッチ)、サステイン(連続)、ソステヌート、ソフト、ピッチベンドアップ、ピッチベンドダウン、ロータリースピード、パイプローター、ソングスタート/一時停止
	ディスプレイ	タイプ	フルドット LCD
		サイズ	128 x 64 ドット
		言語	日本語、英語
	パネル	言語	英語
	音源/ボイス	音源	ピアノ音
バイノーラルサンプリング			○
ピアノ音源の効果		VRM	○
		キーオフサンプリング	○
		スムーズリリース	○
最大同時発音数			256
プリセット		ボイス数	40 + 18 ドラム/SFXキット+ 480 XGボイス
対応フォーマット		XG (GM)、GS (再生専用)、GM2 (再生専用)	
効果	タイプ	リバーブ	6 種類
		コーラス	3 種類
		エフェクト	12 種類
		インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○
		ステレオフォニック オプティマイザー	○
	ファンクション	デュアル	○
		スプリット	○
		デュオ	○
		マスターEQ	3 プリセット + 1 ユーザー
		サウンドブースト	3 種類
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	ボイスデモ 21 + クラシック曲 50
	録音	曲数	250
		トラック数	16
		データ容量	1曲 約500 KB
	再生	データ容量	1曲 約500 KB
	フォーマット	再生	SMF (フォーマット 0、フォーマット 1)
		録音	SMF (フォーマット 0)
録音/再生 (オーディオ)	録音時間(最大)		80 分/曲
	フォーマット	再生	WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)
		録音	WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)

項目			P-515
ファンクション	リズム	プリセット	40
	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	5~500
		トランスポーズ	-12~0~+12
		チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz (約0.2 Hz単位)
		スケール(音律)	7種類
		USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、16 bit、ステレオ
	Bluetooth 接続	Bluetooth バージョン	4.1
		対応プロファイル	A2DP
		対応コーデック	SBC
		無線出力	Bluetooth class 2
		最大通信距離	約10 m
		送信周波数範囲	2402~2480 MHz
		無線最大出力電力	4 dBm
その他	ピアノルーム	○	
メモリー / 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.4 MB
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー
	接続端子	DC IN	16 V
		ヘッドフォン	ステレオ標準フォーン端子 (x 2)
		MIDI	IN、OUT
		AUX IN	ステレオミニ端子
		AUX OUT	L/L+R、R
		AUX PEDAL	○
		PEDAL UNIT	○
USB TO DEVICE	○		
USB TO HOST	○		
音響	アンプ出力	(15 W + 5 W) x 2	
	スピーカー	(楕円 (12 cm x 6 cm) + 2.5 cm (ドーム式)) x 2	
	アコースティックオプティマイザー	○	
電源部	電源アダプター	PA-300C (またはヤマハ推奨の同等品)	
	消費電力	15 W (電源アダプター PA-300C使用時)	
	オートパワーオフ	○	
付属品	<ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書 保証書 製品ユーザー登録のご案内 クラシック名曲50選(楽譜集) 電源コード、電源アダプター PA-300C (またはヤマハ推奨の同等品) フットスイッチ FC4A 譜面立て 		
別売品	<ul style="list-style-type: none"> キーボードスタンド L-515 ペダルユニット LP-1 フットペダル FC3A フットスイッチ FC5 ヘッドフォン HPH-150/HPH-100/HPH-50 電源アダプター PA-300Cまたはヤマハ推奨の同等品 USB無線LANアダプター UD-WL01 ワイヤレスMIDIアダプター UD-BT01/MD-BT01 		

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

別売ミュージックデータ紹介

ミュージックデータのご使用にあたって

ミュージックデータをご使用の際は、下記ウェブサイト以案内している動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

* 「資料/データ」からモデル名で検索してください。

ヤマハミュージックデータショップ

MIDI形式の曲データ、および楽譜データなどのミュージックデータを、インターネットで購入できるサービスです。J-POPからジャズ、クラシックまで幅広いラインナップをとりそろえており、試聴しながら1曲ずつ簡単に購入できます。

下記のURLからアクセスしてください。

<https://yamhamusicdata.jp/>

「ピアノ演奏用」データ

右手、左手パートなど個別再生して練習したり、お好みのテンポに調整して演奏したりすることができます。また、「ピアノ演奏用伴奏付」データをご利用いただければ、豪華な伴奏をバックに演奏を楽しむこともできます。

「リスニングピアノソロ」データ

好きな曲の鑑賞やBGM再生を楽しめます。弾き方やアレンジの参考としても活用できます。

Mumaソフト

Muma (ミューマ)とは、ヤマハのお店にあるミュージックデータ販売システムです。好きなミュージックデータを選び、その場でUSBフラッシュメモリーに収録できます。

* USBフラッシュメモリーはご持参ください。購入前には試聴も可能です。

ミュージックデータの詳細やMuma設置店については、ヤマハミュージックメディアホームページをご覧ください。

<http://www.ymm.co.jp/muma/>

ヤマハのミュージックデータのほかに、8ページで説明したフォーマットに該当する、市販の多くのソフトがご利用いただけます。

NOTE

Mumaとヤマハミュージックデータショップで購入できるミュージックデータは、異なります。

索引

A

ABリピート	48
Auxペダル	16

B

Bluetooth	8, 77, 79
-----------	-----------

E

EQ(イコライザー)	36
------------	----

I

IAC	14
-----	----

M

MASTER VOLUME	14
MIDI	94
MIDI接続	76
MIDIソング	42
MIDIリファレンス	2
MIDI録音	52

S

SOUND BOOST	35
-------------	----

U

USBオーディオインターフェース機能	80
USB自動ロード	96
USBフラッシュメモリー	71

V

VRM	24, 25
-----	--------

W

WPS	74
-----	----

X

XGボイス	21
-------	----

ア

アクセスポイントモード	75, 98
アプリ	79
アリコート	25
アリコートレゾナンス	24

イ

移調(鍵盤)	32
移調(ソング)	51
移動	66
インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	14
イントロ	41
インフラストラクチャーモード	73, 97

エ

エフェクト	26
エフェクトタイプリスト	87
エフェクトの深さ	85
エンディング	41

オ

オーディオEQ	80
オーディオソング	42

オーディオ変換	67
オーディオループバック	80
オーディオ録音	52
オートパワーオフ	13
大屋根の開閉	24
オクターブ	85
音の高さ	24, 33
音律	93
音律リスト	93
音量	14
音量(MIDIソング)	50
音量(オーディオソング)	50
音量(ボイス)	85
音量(メトロノーム)	91
音量バランス	50

カ

画面	18
----	----

キ

キーオフサンプリング	24
------------	----

ク

クラシック50選	103
くり返し再生	47

コ

コーラス	26
コーラストイプリスト	87
コピー	65
困ったときは	107
コントラスト	96
コンピューター	72, 77
コンピューターとつなぐ	2

サ

再生(ソング)	43
再生(パート)	46
再生(リズム)	41
サウンドブースト	35, 82
サウンドブーストタイプリスト	35
削除	65

シ

システムメニュー	93
修理	115
手動接続	74
詳細設定	83
初期化(USBフラッシュメモリー)	95
初期化(楽器)	100

ス

ステレオフォニックオプティマイザー	15
ストリングレゾナンス	24
スプリット	28, 29
スプリットポイント	28
スマートデバイス接続マニュアル	2
スマートデバイス	72, 77
スマートピアニスト	79

セ

接続	69
セッティング(ステージ)	81

ソ

ソステヌートペダル	17
ソフトペダル	17
ソング	42, 63
ソング一覧	103
ソング名変更	68
ソングメニュー	88
ソングリピート	49

タ

タッチ	24, 34
タッチ感度	24, 34
タッチ感度リスト	34
ダンパーペダル	17
ダンパーレゾナンス	16, 24

チ

チューニング	24, 33, 93
--------------	------------

テ

デモ曲	22
デモ曲(ボイスデモ)リスト	102
デュアル	27, 29
デュオ	30
電源	12
電源アダプター	12
電源コード	12
テンポ	39
テンポ(ソング)	45, 61

ト

トラック オン/オフ	46
トラック録音	55
トランスポーズ(鍵盤)	32, 84
トランスポーズ(ソング)	51, 88

ナ

名前の変更	68
-------------	----

ネ

ネットワーク	73
--------------	----

ハ

パート	46
ハーフペダル	16
ハーフペダルの位置	24
バイノーラルサンプリング	15
バックアップ	99
バックアップ設定	99
パネルロック	38, 82
早送り	45
早戻し	45
伴奏	41

ヒ

ピアノルーム	23
ピッチ(音の高さ)	24, 33

拍子	40
----------	----

フ

ファクトリーリセット	100
フォーマット(ソング)	8
フットスイッチ	16
ブライトネス	24

ヘ

ベース	41
ペアリング	77
ペダル	17, 51, 94
ペダル機能リスト	87
ペダルユニット	17
ヘッドフォン	15
変換	67
編集(ソング)	89
編集(ボイス)	85

ホ

ボイス	20
ボイス(ソング)	61
ボイス一覧	101
ボイスデモ	22
ボイスデモ曲	22
ボイスメニュー	84
保証	115
ボディレゾナンス	24

マ

マスター EQ	36, 82
マスター EQタイプリスト	36

ム

無線LAN	72, 97
-------------	--------

メ

メッセージ一覧	104
メトロノーム	39
メトロノーム/リズムメニュー	91

ユ

ユーザー	43
ユーティリティ	95

ラ

ランダム	49
------------	----

リ

リストア	100
リズム	41
リズム一覧	103
リバーブ	24, 26
リバーブタイプリスト	87

ロ

録音	52
録音メニュー	92

MEMO

■ アフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

保証について

● 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理について

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-012-808

ナビダイヤル® ※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)
03-5762-2125
西日本 (北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄)
06-6649-9340

● 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011
大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆電子ピアノの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター
電子ピアノ・キーボードご相談窓口



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-006-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272 へおかけください。

受付： 月曜日～金曜日 10:00 ～ 17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ

<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・電子ピアノサイト

<https://jp.yamaha.com/piano/>

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハミュージックデータショップ

<https://yamhamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などに変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation
2018年6月 発行 POMA*.*- **A0

VAA7890